

新博物館基本構想基礎調査業務 関連調査報告書

令和 7 年 3 月

株式会社乃村工藝社

目 次

I 他県における持続可能な博物館の設置事例調査

1 調査概要	1
1-1 調査の趣旨	1
1-2 調査の方法	1
(1) 資料調査	1
(2) ヒアリング調査	1
2 調査報告	2
2-1 人の視点	2
2-2 ものの視点	4
(1) 立地・施設環境について	4
(2) 展示について	6
(3) 収蔵について	8
2-3 連携の視点	10
2-4 コストの視点	12
3 まとめ	14
付表 ヒアリング・資料調査結果	15

II 収蔵庫調査

1 調査概要	35
1-1 調査の趣旨	35
1-2 調査の方法	35
(1) 収蔵庫内計測調査	35
(2) 分野別ヒアリング調査	35
(3) 収蔵庫事例調査	35
2 調査結果	36
2-1 県立博物館収蔵庫の状況	36
2-2 収蔵資料面積の状況	36
2-3 分野ごとの特性	37
2-4 他館における収蔵庫の状況	38
(1) 収蔵庫の規模・仕様等の決定方法	38
(2) 開館時からの収蔵品の変化と増加率、収蔵庫不足への対応	38
(3) 収蔵庫の機能性やエネルギーコスト等における特徴	38
3 収集・保管施設面積の試算	39
3-1 適切な保管に必要な収蔵庫面積	39
3-2 収蔵資料の増加に対応するために必要な収集・保管施設の面積	39
(1) 1年間で増加する必要な収蔵庫面積	39
(2) 作業室等の面積	40
(3) 収蔵資料増加の想定年数	40
(4) 開館10年後に必要な収集・保管施設の面積	40
3-3 収蔵庫設備の単価	41
(1) 収蔵庫内装の単価	41
(2) 収蔵棚の単価	41
4 収蔵庫に係る課題の整理	42
(1) 適正な収蔵庫規模の検討	42
(2) 最適な収蔵環境の整備	42
(3) 地域の文化財の保存と継承	42
(4) 博物館の魅力創造と持続可能性の両立	42

付表 1	分野別ヒアリング調査結果	43
付表 2	適切な保存に必要な収蔵庫レイアウト	46
付表 3	レイアウト作成に係る収蔵庫什器リスト	47
(参考)	過去 5 年間の寄贈・収集資料データに基づく開館10年後の収集・保管施設面積	48

III 事業費シミュレーション調査

1	調査概要	49
1-1	調査の趣旨	49
1-2	作業プロセス	49
(1)	試算のパターン設定	49
(2)	費用項目	49
(3)	単価の設定	50
1-3	留意事項	50
2	シミュレーション条件の設定	51
2-1	パターン・施設・敷地	51
(1)	パターン	51
(2)	施設面積	51
2-2	費用項目と単価	52
(1)	イニシャルコスト	52
(2)	ランニングコスト	54
3	事業費試算	56
3-1	イニシャルコスト	56
(1)	施設整備費	56
(2)	イニシャルコストの比較	57
3-2	ランニングコスト	57
(1)	維持管理費	57
(2)	ランニングコストの比較	57
3-3	事業費の増減要因となる施設条件の検討	58
(1)	公開承認施設	58
(2)	子ども向け展示室	59
(3)	飲食施設	59
(4)	シアタールーム	60
4	比較評価	61
4-1	事業費の比較評価	61
(1)	追加要素を含むイニシャルコスト	61
(2)	追加要素を含むランニングコスト	61
4-2	利点と課題の整理	62
(1)	一体型の利点と課題	62
(2)	分散型の利点と課題	62
(3)	公開承認施設の承認を受ける場合の利点と課題	62
(4)	子ども向け展示室の利点と課題	62
(5)	飲食施設の利点と課題	62
(6)	シアタールームの利点と課題	63
5	新博物館の施設整備に向けた留意事項	64
(1)	新博物館の整備、運営に係る費用	64
(2)	民間活力の活用を検討	64
(3)	SDGs 推進の視点	64
(4)	物価高騰等への留意	64

IV	小中学校教員調査	
1	調査概要	65
1-1	調査の趣旨	65
1-2	調査の方法	65
(1)	アンケート調査（定量調査）	65
(2)	インタビュー調査（定性調査）	65
2	調査結果	66
2-1	アンケート調査の有効回答数及び分布	66
2-2	アンケート調査のクラスター（階層）の設定	66
2-3	調査結果の整理	66
(1)	校外学習の予定と意向	67
(2)	県立博物館のリニューアルへの期待	71
3	博学連携の推進に向けた課題と今後の方向性	76
3-1	校外学習の予定と意向	76
(1)	学習との結びつきを重視した博物館資源の活用	76
(2)	特別支援学校と開発する博物館見学・体験プログラム	76
(3)	遠隔地の小中学校と博物館を結ぶしくみ	76
(4)	人と人とのつながりを広げ、活用した認知度向上	77
3-2	新博物館のリニューアルへの期待の視点	77
(1)	誰もが入りやすく、多世代で楽しめる博物館のイメージづくり	77
(2)	モノやコトを通して感じる博物館ならではの体験を充実	77
(3)	学びだけではない、レクリエーションや遊びの重視	77
(4)	教員が博物館を使いやすくなるメニューづくり	77
3-3	その他	77
(1)	新博物館への関心の喚起	77
別表	小中学校教員アンケート調査集計表	78

V	デジタルアーカイブ調査	
1	調査概要	93
1-1	調査の趣旨	93
1-2	調査の方法	93
(1)	資料調査	93
(2)	ヒアリング調査	93
2	博物館DX推進のフェーズと県立博物館の現状	94
2-1	博物館DX推進のフェーズ	94
2-2	県立博物館の現状	94
(1)	資料情報の登録と業務効率化の状況	94
(2)	資料情報の公開と活用の状況	94
3	先進事例調査結果	95
3-1	博物館資料に係る情報の保存と体系化、業務効率化	95
3-2	博物館における調査研究の成果を含めた資料の公共化	97
3-3	多様な創造的活動への博物館資料の活用の促進	98
3-4	整備プロセスと費用	99
4	県立博物館におけるデジタルアーカイブの推進について	101
(1)	収蔵資料の整理・登録と公開	101
(2)	デジタルコンテンツ等の導入や地域の博物館との連携の検討	101
(3)	整備計画の策定等	101
付表	ヒアリング・資料調査結果	102

VI 民間企業との連携に関するヒアリング調査

1 調査概要	113
1-1 調査の趣旨	113
1-2 調査の方法	113
(1) 先進事例調査	113
(2) 県立博物館における民間連携現況調査	113
2 先進事例調査	114
2-1 指定管理者制度の導入	114
(1) 経緯	114
(2) 指定管理業務の内容	114
2-2 ヒアリング調査結果	115
(1) 民間企業との連携による、魅力ある展示の持続的な取り組みについて	115
(2) サポーター会員制度（運営資金面でのサポート）	116
(3) 市民ボランティアなど	116
3 県立博物館における民間連携現況調査	117
3-1 株式会社伊勢半ホールディングス	117
(1) 企業プロフィール	117
(2) 県立博物館との連携の状況	117
(3) ヒアリング調査結果	117
3-2 三和油脂株式会社	118
(1) 企業プロフィール	118
(2) 県立博物館との連携の状況	118
(3) ヒアリング調査結果	118
3-3 やまがたヤマネ研究会	119
(1) 企業プロフィール	119
(2) 県立博物館との連携の状況	119
(3) ヒアリング調査結果	119
3-4 一般社団法人やまがたアルカディア観光局	120
(1) 企業プロフィール	120
(2) 県立博物館との連携の状況	120
(3) ヒアリング調査結果	120
4 連携の充実・拡大に向けた課題及び視点の整理	121
4-1 県立博物館の課題	121
(1) 展示の改善と企業連携の可能性	121
(2) 県立博物館の活動及び連携の可能性に関する認知不足	121
(3) 持続的な関係構築の難しさ	121
4-2 民間企業との連携を広げていくための視点	121
(1) 魅力ある展示を持続していくための連携の可能性	121
(2) 企業との連携メリットの共有	121
(3) 持続的な連携体制の構築	122
(4) 地域課題解決への寄与	122

I 他県における持続可能な博物館の設置事例調査

他県における持続可能な博物館の設置事例調査報告書

1 調査概要

1-1 調査の趣旨

山形県立博物館（以下「県立博物館」という。）の移転整備にあたり、人口減少が急速に進行する中でも持続可能な博物館とするため、全国の先進事例を収集、分析することで、基本構想検討に資することを目的とする。

1-2 調査の方法

本調査の方法は、博物館の持続可能性に関わる国などの近年の指針を念頭に設定した。まず、博物館の持続可能性は文化庁文化審議会博物館部会の答申「博物館法制度の今後の在り方について（答申）」で新しい博物館に求められる役割・機能の一つとして提示された。ユネスコにおける定義では、博物館は「恒久的な施設」であることが求められており、意味的に持続可能性と捉えられる。

また、博物館が育む社会の持続可能性は、2022年の国際博物館会議（ICOM）による博物館定義に「博物館は一般に公開され、誰もが利用でき、包摂的であって、多様性と持続可能性を育む」と示されている。新しい県立博物館を持続可能な博物館にするためには、自館の持続可能性を高めるとともに、変動する社会とつながり、博物館と社会の好循環をつくることが重要である。

本調査では、これらの考え方にに基づき、博物館の活動を持続させるための条件を「人、もの、連携、コスト」の4つの視点で捉え、それぞれの視点から持続可能な博物館について調査・検討する。

(1) 資料調査

調査対象：持続可能な博物館の観点で特徴的な取り組みを行っている国内の52博物館

調査期間：2024年7月～10月

調査方法：各博物館の公式ホームページなどから公開データを収集し、分析を行う

調査項目：持続可能性に関わる特徴的な取り組みの内容

(2) ヒアリング調査

調査対象：資料調査結果の中で特に基本構想検討に資すると捉えられた博物館

（北海道博物館、北海道大学総合博物館、福岡市博物館、長崎歴史文化博物館、熊本博物館、熊本県博物館ネットワークセンター）

調査期間：2024年10月

調査方法：各博物館を訪問し、担当者から聞き取り

調査項目：4つの視点からみた具体的な取り組み内容

4つの視点	
人	職員、組織体制、人材育成
もの	施設・設備の機能性、環境への配慮、展示の魅力・包摂性
連携	博物館・教育機関、地域コミュニティ、企業との連携
コスト	設置・運営における財源、民間活力の導入

資料調査・ヒアリング調査で注目された取り組みを「人、もの、連携、コスト」の4つの視点で分類・整理している。また、4つの視点ごとの要点をまとめるとともに、基本構想の検討に活かす視点を抽出した。

2-1 人の視点

（博物館活動を円滑に進める組織体制）

- ・ 兵庫県立人と自然の博物館では、地域が抱える課題解決のための調査・研究業務を受託するシンクタンク事業を展開している。その実践体制として学芸活動を担うスタッフが兼務する研究・シンクタンク推進室を設置して調査・研究の相談を受けている。
- ・ 地域連携・観光振興を使命に掲げる三重県総合博物館や高知県立高知城歴史博物館では、地域連携に専従する職員を運営体制のなかに配置している。
- ・ 「開かれた博物館」を基本理念に掲げる長崎歴史文化博物館では、多くの市民ボランティアが博物館運営に参加できる体制を整え、市民ボランティア担当の専門職員を配置している。

（官民連携による効率的・効果的な運営方法への取り組み）

- ・ 長崎歴史文化博物館では、長崎県の中核博物館としての多岐にわたる活動を担う中で、指定管理者制度を活用し、民間との連携による活動の充実が図られている。指定管理の契約期間に制約があるため直営方式ほどの安定性は保たれないが、質の高い学芸業務の成果を社会へ共有・還元して20年を超す健全な経営を持続し、バランスのとれたマネジメントに取り組んでいる。例えば、展覧会事業では学芸業務の成果と集客の両面を踏まえた契約期間内（6年間）での計画を進めている。
当初2005年の指定管理運営の開始からコロナ禍などの不安定な時期を乗り越えながら、現在、3度の契約継続を行い、今後2028年までの23年間の期間の運営を予定している。
- ・ 福岡市博物館では、教育普及活動や広報などの運営業務の一部はSPC（特別目的会社）に任せる体制を計画するとともに、資料管理や展示の企画などの学芸業務は市直営とし、社会状況の変動に左右されずに博物館業務を継続できる運営体制を計画している。

（人材育成への地域をあげた取り組みと博物館活動の活性化）

- ・ 熊本県博物館ネットワークセンターでは、博物館人材のスキルアップを図る研修や講座は首都圏などで開催されることが多く、県内の博物館人材が気軽に参加できないため、県内の博物館職員が参加しやすい研修を主催事業で実施している。
- ・ 北海道博物館や熊本博物館では、公立博物館の役割や使命を踏まえ資料保存科学を担当する学芸員を配置している。当該学芸員は、自館収蔵資料の保存や修復等に当たるほか、公立博物館の役割として、管内の博物館や自治体等に向けた文化財や資料の保存ノウハウに係る指導・助言や情報共有にも努めている。この機会によって館相互の人のつながりが生まれ、博物館活動の補完しあう関係構築に通じている。特に近年における震災等の災害の増加や気象条件の変動等の中で、この役割の重要性が高くなっている。
- ・ 熊本県博物館ネットワークでは、県内の学芸員などを登録した人材データベースを構築し、県内での各分野の博物館人材の情報共有を行っており、各館で状況に応じて必要な人材を頼って対応している。

《要点・基本構想に活かせるヒント》

- ・ 「人の視点」から県立博物館を捉えると、新しい博物館として目指す姿、打ち出す特色に沿って、行政の直営、官民連携のいずれにしても、その実現に相応しい人材・組織体制を整えることが重要である。

また、市民ボランティアとの連携など博物館活動の範囲を広げる場合には、人員数や運営費の制約を考慮しつつ、活動内容の優先順位を踏まえた人員の配置、無理のない業務兼任など適切な体制の整備が求められる。

- ・ 質の高い学芸業務の成果を、社会に共有・還元していくことが重要であり、博物館スタッフの専門性を向上させ、地域課題への関与・貢献を果たす必要性は大きい。

持続可能性の観点では、効率性も重要な視点であるため、民間事業者と柔軟に連携するアウトソーシングも選択肢にもち、事業目的や理念にふさわしい活動を継続していくことも考えられる。

- ・ 事例には、限られた専門人材を地域において共有する取り組みが見られた。山形県でもそうした事例を参考に、各地域で活動している多様な専門人材を共有する人材データベースなどの仕組みを整えることが有効と考えられる。

地域全体の博物館活動の活性化や安定化の観点から、大学などの連携機関、市町村、民間事業者との人材連携を促進し、博物館活動をより充実させるための仕組みづくりを検討することも持続可能性を高める。

- ・ 博物館の運営には、博物館ならではのマネジメント人材も重要である。運営事務を効果的に進める職員や管理職、館全体とその環境を熟知しスタッフを牽引する館長など博物館ならではのマネジメントを担う人材の配置・育成も重要である。

2-2 ものの視点

(1) 立地・施設環境について

(特色ある博物館活動を反映した施設環境)

- ・ 市をあげて取り組む「食のまちづくり」の中心施設として整備された御食国若狭おばま食文化館は、食文化を紹介するミュージアムをはじめ、地域の食材を使った調理体験や講演会を行うキッチンスタジオを併設している。2階には伝統工芸を体験できる工房があり、同施設内には温浴施設「濱の湯」や、伝統料理を提供するレストランも併設されている。
- ・ 「見る、創る、学ぶといった双方向で美術を体験する美術館」をコンセプトに掲げる富山県美術館では、「身体を動かしながらアートやデザインを体感できるこれまでにない空間」を屋上に整備。「遊び場」として利用されている。

(周辺環境や近隣施設との調和・相乗効果)

- ・ 豊田市博物館では、豊田市美術館に隣接することから、美術館と博物館の屋外を行き来できる一体感のある敷地利用方法を計画することで、互いの施設を活用しあえる可能性を高めている。
- ・ 中心市街地の商業ビルに入居する熊本市現代美術館は、市民が気軽に立ち寄ることができる環境にある。館内には無料ゾーンを設けてあり、子ども連れが自由に遊べるスペースや観光客や仕事帰りの人々が滞留できるスペースが整備されていて多様な利用者が訪れている。
- ・ 長崎歴史文化博物館は、由緒ある神社や奉行所跡などに接する歴史的特性を活かした施設整備が行われ、博物館の一角に長崎奉行所（立山役所）を一部復元整備している。長崎の歴史の特色を紹介する展示として機能することに加えて、畳敷きの広間を数多くもつ奉行所の居室を使ったユニークベニユーの会場などにも利用されている。
- ・ 北海道大学総合博物館は、立地する北海道大学の構内が札幌を代表する観光地で集客性があり、さらに札幌駅に近いこともあって集客面の影響をもたらしている。
- ・ 北海道博物館からは、「立地の検討に当たって重要なことは、来館者にとって公共交通機関でアクセスできることや、施設の設置や運営者にとって適切な資料収蔵などの面積（容積）を確保できること、の2点が大きい」とヒアリングで指摘を得ている。

(来館者と職員の利便性・快適性)

- ・ 北海道博物館からは、「50年前に建設された建物を使用しているため床面の段差などバリアフリー面での課題は多く対策を進めている。新たに博物館を整備するのであれば様々な利用者の目線で施設設備を考えることが重要」とヒアリングで指摘を得ている。
- ・ 長崎歴史文化博物館では、職員の執務動線と来館者動線が交差しており、運営面の課題のひとつになっている。
- ・ 北海道博物館からは、「学芸員が落ち着いて研究できる環境に加えて、学芸職員と総務系職員とがなるべく顔を合わせてコミュニケーションを取れる諸室配置が望ましい」との意見があった。

(環境負荷への配慮)

- ・ 豊田市博物館は、サステナブルな建築として計画された。総合的な博物館施設では初めての、年間のエネルギー消費量が正味ゼロまたはマイナスの建物である「ZEB」を見据えた先進的な建物としてZEB Readyの認証を受けている。

- ・ 三重県総合博物館は、地中熱や太陽光発電などの自然エネルギーの利用や雨水の再利用などの取り組みを行う環境品質・性能が高い建築物で、建築環境総合性能評価システム「CASBEE」認証のSランクを取得している。

《要点・基本構想に活かせるヒント》

- ・ 「ものの視点（立地・施設環境）」から県立博物館を捉えると、特色ある博物館活動の実現に相応しい立地や施設環境を検討することに加え、県内各地のより多くの人が利用できる交通アクセスの利便性など、多角的な視点から総合的に検討することが重要である。
- ・ 周辺環境や近隣施設と相乗効果をもつことは、多くの人々に利用される可能性が高まるとともに、周辺施設を併せて利用するなど利用者満足度の向上が期待できる。
- ・ 施設環境の整備においては、来館者と職員の双方にとって利便性と快適性が重視される必要があり、バリアフリーの環境整備をはじめ、運営職員間のコミュニケーションの機会を増やす空間づくりの重要性も事例から注目された。子ども・大人・高齢者・障がい者・外国人など多様な人々が利用できるインクルーシブデザインや環境への配慮も視野に入れた検討が望まれる。
- ・ 環境負荷への配慮も「博物館が育む社会の持続可能性」の観点から必要である。環境負荷の低減や生物多様性の保全に配慮した施設づくりが求められる。

(2) 展示について

(インクルーシブな展示を目指す取り組み)

- ・ 徳島県立博物館は、県民の誰もが利用できる「地域の顔」としての博物館を目指すことから、設計・施工の段階で障がい者などとインクルーシブデザインに関するワークショップを行い、展示方法の確認や体験展示の検証を行っている。結果として動線やゾーニングが明快で館内移動がスムーズに行えるユニバーサルデザインや、展示資料をじっくり見られる環境に加えて、資料を通した学芸員と来館者・来館者同士の活発な対話や交流を重視した展示が図られ、障がいの有無を超えた利用者一人ひとりの個性が重視された展示体験の場となっている。
- ・ 日本科学未来館では、専門の研究機関と共同で研究室を設置し、視覚障がい者向けの展示体験技術や五感を使った展示手法などの開発に取り組んでいる。

(五感による体感を伴う展示の可能性)

- ・ 国立アイヌ民族博物館では、昔の家を組み立てられる模型など展示ケースで隔てずに触って感じる展示コーナー「探究展示 テンパテンパ(アイヌ語で「さわってね」の意味)」を設置しており、触る体感からアイヌ文化への理解を促進している。
- ・ 竹中大工道具館では、消えていく大工道具の収集・保存・研究をベースに、木の香りの体験、曲尺を使った宮大工の設計技術の体験など「五感に響く」展示を実施し、大工道具への理解と関連する文化への関心につなげている。
- ・ 国立科学博物館では、子どもと保護者が一緒に楽しむ展示室「親と子のたんけんひろば コンパス」を新設。普段はガラスケース越しにしか見られなかった動植物標本コレクションを触ったり抱きついたりでき、大きさや素材感、重さなどモノの感触を親子で一緒に楽しめる場が生まれて人気を博している。コレクションをきっかけに親子のコミュニケーションを促すことも重視した展示で、遊びながら考える力や感じる力を養っている。

(展示による地域への「誇り」と「愛着」の醸成)

- ・ 「道民が北海道を知り、誇りを確認する場」を使命に掲げる北海道博物館では、道民の民族的出自等も含めた歴史的・文化的背景が多様であること、また地域への愛着も多様であることを踏まえた展示の基本コンセプトの設定や展示テーマ、展示内容が検討された。例えば「北海道らしさの秘密」をテーマにした展示では、「らしさ」の由来を学芸員の研究を通じて探り、歴史・自然環境・産業・生活文化などの多角的な視点を総合して「秘密」を明らかにする展示をつくった。このことは、北海道のみならず他の都府県でも重要だと考えられる。
- ・ 長崎歴史文化博物館では、県内の各地域がそれぞれ独自の歴史を持ちながらも「海外交流史」をテーマに深いかかわりをもつ地域の特色を踏まえ、各地域からの来館者がそれぞれの住む地域へ愛着を抱き育む展示としている。
- ・ ふじのくに地球環境史ミュージアムでは、静岡の環境を展示するテーマに「100年後の静岡が豊かであるために」を掲げ、持続可能性と密接な温暖化や資源の枯渇、食料の不足などの今日的な地球規模の課題と結びつけて地域への関心を引き出す常設展示を行っている。

《要点・基本構想に活かせるヒント》

- ・ あらゆる利用者が快適に楽しめるインクルーシブな視点を重視し、館内外の環境整備にユニバーサルデザインを取り入れた事例が普及している。みる楽しみや学びに加えて、学芸員や来館者との対話や交流が図られ、利用者それぞれの個性にあわせた体験ができる展示も考えられる。
- ・ 五感を使って楽しむ体験型の展示は、来館者それぞれの興味や関心・知的好奇心を喚起し、資料を介した人と人のコミュニケーションをひきだす学びの場が生まれている。
- ・ 地域への「誇り」と「愛着」を醸成する効果的な展示として、博物館ならではの多角的な視点で地域の魅力を深く掘り下げながら明確化し、併せて、予備知識の有無に左右されずに誰もが自由に興味・関心をもって楽しめる展示方法を開発・導入し、博物館ならではの見学機会を提供している。
- ・ これらを踏まえて、「ものの視点（展示）」から県立博物館を捉えると、①総合博物館の特性を活かし、県内外の博物館や研究機関と連携し、山形の魅力ある個性を多面的に深く表現して興味・関心を喚起し誇りと愛着を醸成する展示づくりを進めること、②保存されている豊富な実物資料を積極的に活用し、触れる展示をはじめとした体験型展示の姿を検討すること、③デジタル技術の進展に伴い、実物資料に接する体験の価値が一層高まることを想定し、デジタルを活かした展示の在り方を検討することが有効と考えられる。

(3) 収蔵について

(資料に適した収蔵環境の整備)

- ・ 長崎歴史文化博物館では、絵画や古文書・木製品と金属・陶磁器類では保存に適した湿度が異なるため、各資料に適した環境を保つ収蔵庫を複数設け、別々に保管している。
- ・ 北海道博物館では、収蔵庫及び展示室等の温湿度の状況をLANにより一元的に把握できるシステムを導入し、さらに担当職員はこのデータを業務用PC等の個人用端末でも確認できるようにしており（休館日・夜間等に応急的な事態が発生した場合でも対応できる）、合理的・効率的な資料収蔵環境の管理体制を整えている。

(資料の増加ペース)

- ・ 北海道大学総合博物館では、リニューアル時に各分野へ30年分の収蔵面積を割り当てたが、一部では、増加ペースが想定を大幅に上回るなど、収蔵資料の増加量の推測には難しさがある。
- ・ 熊本博物館では、地震などの災害や近隣の博物館の閉館などに伴って資料が急増した。

(収蔵面積の確保)

- ・ 三重県総合博物館では、新設時に将来的な資料の増加に備えたスペースを確保したほか、二期工事による収蔵庫の拡張を可能としている。
- ・ 兵庫県立人と自然の博物館では、収蔵機能に加えて展示・交流機能を備える、新たな収蔵庫棟を整備した。
- ・ 臼杵文化財管理センターでは、地域の廃校を収蔵庫・展示室へリノベーションし、収蔵庫内装や鋼製扉を設けた収蔵庫を整備し、美術工芸品や歴史資料を保存している。
- ・ 熊本県博物館ネットワークセンターでは、県内の博物館などとの連携を図り、県内全域の博物館活動の活性化を目的として、かつて運転免許試験場だった建物と敷地を活用し、収蔵施設を設置した。現在、この施設では、約64万点の資料を所蔵している。
- ・ 愛知県美術館、愛知県陶磁美術館の県立美術館2館と愛知県立芸術大学では、増加したコレクションの収蔵施設を検討中で、高騰する建設費や施設完成後の効果的な運営管理の観点から3施設のコレクションを一括管理する共同収蔵庫を検討している。

(資料管理規定と収集方針の設定)

- ・ 栃木県立博物館では、新収蔵庫棟を建設する際に、資料の除籍を含めた資料管理規定を整備した。
- ・ 熊本博物館では、展示での活用が見込めるかなどの観点から、各分野で受け入れ方針を設けている。
- ・ 北栄みらい伝承館では、除籍規定を含む資料収集方針を定め、収蔵品の譲渡や除籍を前提とした「お別れ展示」を行った。
- ・ 滋賀県立美術館では、アール・ブリュット（既存の文化の影響を受けずに独特の制作を行う、精神障がい者や独学の作り手などの作品）を収集方針に掲げ、既存のコレクションと新規のコレクションの双方の価値を高める収集活動に取り組んでいる。

《要点・基本構想に活かせるヒント》

- ・ 資料に適した収蔵環境の整備と、中長期的な視点で資料の増加ペースを考慮した収蔵面積の設定が望ましい。

一方で、現実的に多くの博物館で収蔵面積の確保が課題となっており、増加ペースの予測や増加を続ける資料への十分な対応は困難であり、収蔵庫整備を複数回に分ける例や学校の空き校舎など既存施設の活用、収蔵施設への展示・交流機能の付加など、工夫しながらの対応が図られている。

このほか、資料増加への対応として、資料の除籍に関する規定の整備や、近隣施設との連携のほか、収集方針や資料管理規定の整備・見直しを進めることで、増加する資料を適正に管理するとともに、資料の価値を社会と共有する機会として活かしていく取り組みも見られている。

- ・ これらを踏まえて、「ものの視点（収蔵）」から県立博物館を捉えると、まず、現状の収蔵状態を把握するとともに、資料の長期的な増加の見通しをたて、収蔵施設の整備や運営方法などを検討することが重要となる。

少子化や人口減少を背景に、学校など公共施設の統廃合が進むことを視野に入れ、資料の性質に相応しい保存環境を整えてこうしたスペースを活用することも一つの選択肢となる。

また、総合博物館としての特色をふまえた収集方針の改定も検討する意義がある。例えば、分野横断的な資料収集を行い「山形らしさ」を明らかにする収集方針などが考えられる。収集方針に関連する事例に、既存資料と新たに収集する資料との関連性から双方の価値が高まる例もあり、収集方針の検討と実行によって山形ならではの独自性を持つコレクションの形成につながることが期待できる。

2-3 連携の視点

(博学連携)

- ・ 熊本県博物館ネットワークでは、教職員を対象とした研修会を行い「博物館活動に親近感をもってもらう、授業で活用できる資源として認識してもらう」ことを目指している。
- ・ 長崎歴史文化博物館では、県内の教員を対象に、博物館での学びや学校教育での博物館の活用の仕方を考え、博物館と学校との連携を深めるための「パートナーズプログラム」を15年以上推進。プログラム参加者を中心とした連携体制が敷かれている。こうした博学連携の事業は「展示のみで地域の全体を語ることはできない。学校の先生の意見を聞きながら博学連携の事業を展開することが必要」という考え方に基づいて展開されている。学校の先生の異動時に後任者を設定して連携を継続、また異動された方は新しい赴任先で窓口となっている事例もあり、連携ネットワークは効果的である。

(他館との連携)

- ・ 熊本県博物館ネットワークセンターでは、県内博物館の共通資料プラットフォームを運用して他館との資料情報の共有を行っている。
- ・ 北海道大学総合博物館では、他館と資料の貸し出しや展示などで日常的な連携を行っており、分野によっては、北海道大学総合博物館に対して寄贈や収蔵の相談が来た際に、より適した寄贈先として他館を紹介するようなこともある。
- ・ 熊本博物館では自然災害発生時、県内外の大学や専門機関との連携のもとで被災資料の保存処置や修復を行うこととしている。

(市民や多様な主体との連携)

- ・ 長崎歴史文化博物館では、民による演劇型展示が注目されたが、そうした運営参画は「情報を積極的に発信し、博物館に来て楽しんでもらう」姿勢で取り組んでいる博物館活動と結びついている。
- ・ 北海道大学総合博物館では、約200人のボランティアの活動を15のグループに組織化している。各グループに教員が1人ずつつき対応している。
- ・ 熊本博物館では、運営の継続性を考慮してボランティアの募集や活動の規模を設定している。
- ・ 山形大学附属博物館では、デジタルアーカイブを通じた市民・大学・博物館の連携のもと、地域資料のデータの共有を試みている。
- ・ 松本市立博物館では、博物館リニューアルで生まれる新たなエントランスに地域の個性を物語る伝統工芸コレクションを活かした展示を制作するにあたり、大学教員・学生・一般市民と学芸員が連携したプロジェクトが行われた。
- ・ 浜松科学館みらい一らでは、地元の企業から展示設計や制作への協力を得ており、自動車やエンジン・楽器などの実機の提供に加え、一部の展示はメンテナンスも企業が担っている。
- ・ 大阪市立自然史博物館では、市民主体の非営利活動法人が、調査研究や教育普及などの博物館活動を支援するほか、研究受託やショップ運営、友の会運営などを行っている。

《要点・基本構想に活かせるヒント》

- ・ 博物館と学校が連携する博学連携は、博物館の基本的な役割の一つで、小中高校さらには大学でも学校とは異なる学びの可能性が期待される取り組みである。本調査と並行して行った小中学校教員調査では、学校現場から学習单元と連動した教育普及プログラムなど児童・生徒の学びとの関わりをもつことへの要望や期待が明らかになったが、本事例からは、特に教員と博物館とのつながりの重要性がうかがえる。学校教育での博物館の活用方法などが教員に共有されることで、博学連携の広がりが期待できる。
- ・ 博物館の持続可能性を高めるうえで、他館との連携によって施設面・人材面などの博物館運営の資源を効果的に運用することが有効である。例えば資料の共有などの日常的な活動をはじめ、災害などの有事における互助活動などが連携関係によって成り立つ。

さらに、学校や他館に加えて、大学、企業、市民など、さまざまな主体との連携が重要であり、例えば、ボランティアとの連携については、博物館活動への参画が市民の自己実現の機会となり、また、博物館への社会的な理解や支援の広がりにつながっている。その実現には、博物館と市民が無理なく円滑に交流できる機会を設けることが重要である。いずれの連携の場合においても、信頼関係の構築が不可欠であり、それを重視する姿勢、取り組みが必要である。
- ・ 「連携の視点」から県立博物館を捉えると、長年にわたる運営実績に着目して持続可能性を高める連携を広げていくことが考えられる。例えば山形県博物館連絡協議会事務局を担ってきた実績を活かし、資料の収集・保管の方法や文化財レスキューに資する互助体制の整備、関係機関間での情報共有ネットワークの構築など、中核的施設としての役割を検討していくことが想定できる。

また、今年度の基本構想の検討作業の中では、学校関係者や地域の博物館実務者、現在も連携している民間企業などとの意見交換などが実施されているが、各主体に連携のイメージを認識してもらうことも有効であり、例えば、連携活動の具体的内容を描くことや、事業推進過程に意見を取り入れることも考えられる。

2-4 コストの視点

(コストパフォーマンスを充実させる事業方式の採用)

- ・ 長崎歴史文化博物館は、全国で初めて博物館運営の全般にわたる指定管理者制度が取り入れられた事例。2005年の開館から20年、継続的に事業運営がなされている。
- ・ 鳥取県立美術館は、PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）方式で整備が進められている。学芸部門は県が直営するが、管理部門に加えて一部展覧会を民間が担う。
- ・ 福岡市博物館は、開館から35年を経た美術館のリニューアルにPFI方式を採用。収集・保存、展覧会企画・開催、教育普及等業務は市が直営し、広報集客、施設の貸し出し等業務は民間が行っている。
- ・ 弘前れんが倉庫美術館は、PFI方式で運営されており、他館では直営の学芸部門が担うコレクション形成も民間の手で進められている。
- ・ 浜松科学館みらいーらは、設計・施工・運営を一体的に進めるDBO（デザイン・ビルド・オペレート）方式でリニューアルが進められた。科学館の魅力を保つとともに館の研究や運営成果を反映できる効果的な展示リニューアルが指定管理期間に実施される計画で進められた。
- ・ 京都市京セラ美術館は、大規模改修を進めるにあたり、ネーミングライツを売却し改修費用に充当した。リニューアルから50年間は購入企業の名前を冠する美術館として運営される。
- ・ 国立科学博物館は、新収蔵庫の建設にあたり、資材の高騰などによる建設費の増加を受け、一部の資金をクラウドファンディングによって調達し、コスト負担の軽減を図った。

(地域企業との連携による運営への支援・収入確保)

- ・ 三重県総合博物館は、博物館利用の各種特典を得られる「企業パートナーシップ」制度を設けている。加入企業から会費を集め、会費収入を運営資金として活用している。
- ・ 浜松科学館みらいーらは、地域の企業を中心に、地域産業を紹介する展示に最新の資料提供、更新も担ってもらい、展示の鮮度保持に貢献してもらっている。また、「サポーター会員制度」を運用し、企業から運営費のサポートを得ている。科学館からは展覧会への招待やプラネタリウム上映時の社名投影などを提供している。

(研究資金の獲得)

- ・ 北海道博物館では、日本学術振興会科学研究費補助金を申請できる研究機関として認定を受けている。学芸員が研究助成金を獲得し博物館の調査・研究の充実に繋げている。

※日本学術振興会の科学研究費補助金は、その直接経費は研究者（学芸職員）の調査研究経費として交付されるが、同時に、所属機関（博物館）にも関連する組織運営や事務的諸経費として、直接経費の30%相当が間接経費として交付される。

※日本学術振興会科学研究費補助金を申請できる研究機関として認定を受けるためには、職員の研究業績など幾つかの条件がある。その一つに、「職員一名当たりの調査研究予算が一定額以上であること」というものがあり、博物館として一定の調査研究予算を有していなければ、補助金を申請する機関とはならないようになっている。

《要点・基本構想に活かせるヒント》

- ・ 博物館運営の事業方式は多様化しており、直営や業務委託に加え、指定管理者制度の導入以降、さまざまな選択肢が生まれ、効果的・効率的な運営が図られている。いずれの事業方式にあっても、適切な運営コストや長期的な財政負担などを総合的に考慮することが不可欠である。

指定管理者制度などでは開館時間などの直営方式の課題が軽減されることやサービスを高める専門人材の採用・配置などをしやすくなる反面、入館料の変動や当初想定以上の物価高騰への対応など安定的な財源確保の仕組みが課題となる。

- ・ コストパフォーマンスが高い持続可能な博物館運営を実現するためには、博物館の基礎的なソフト・ハードの整備を進める事業推進に並行して、地域の企業や団体との連携関係づくりも重要である。博物館が教育、産業、福祉など地域社会の多様な分野と関わり、地域課題の解決に貢献することで、民間企業との連携の機会が生まれ、資金の提供や人材の交流といった支援を受ける可能性も高まる。
- ・ 魅力ある博物館活動の展開や地域課題の解決に貢献するうえでは、特に研究活動を支える仕組みの充実は重要である。例えば研究費の助成を獲得するなど、活動のための資金確保策を広く模索する必要がある。
- ・ 「コストの視点」から県立博物館を捉えると、持続可能性の観点から適正なイニシャルコストとランニングコストを探るとともに、先行する博物館などの事業方式を参考に適切な方式を検討していくことが必要といえる。また、博物館活動を支えるコストを補う収入の確保や支援・協力に向けて企業などとの連携の在り方を検討することも重要である。

3 まとめ

資料調査・ヒアリング調査を通じて、持続可能な博物館の運営・整備のヒントになる取り組みを確認し、「人、もの、連携、コスト」の4つの視点から分析した。特に重要と捉えられる事項を整理する。

(1 人の視点)

魅力ある博物館運営事例の基盤には、行政の直営、官民連携などの形態の違いはあっても、人材と組織が健全に機能しており、県立博物館にあっても、目指す姿の実現に向けた、充実した博物館運営を支える体制を整備するとともに、中核施設の役割として自らの博物館スタッフの人材育成に加えて、県内人材・組織の連携や人材育成をともに図っていくことが重要である。

(2 ものの視点)

博物館の持続可能性の基盤にはすべての人が利用でき、多くの人々に利用される存在になることが必須となるため、交通アクセスの利便性やインクルーシブデザインの実践が重要である。

展示は、他の施設・機関では提供できない博物館ならではの体験をもたらすものであり、多くの人に利用される博物館の役割も担うため、誰にも魅力ある展示、実物を活かし五感に訴え、体験を重視した展示の検討が重要である。

博物館活動の根幹をなすコレクションを未来に受け継ぐ適切な環境を、現実的に整えていくとともにデジタルアーカイブなどを介して活用に向けた環境と無理のない整備手順の検討が重要である。

(3 連携の視点)

県内他館とのネットワークをはじめ多様な連携が期待されるなか、他館の注力している状況からも博学連携の推進は特に重要と考えられる。学習単位との連動などを現博物館運営での試行することや、基本構想プロセスへの児童・生徒の参画なども考えられる。

(4 コストの視点)

県立博物館の目指す姿や基本的な性格、機能、何を重視するかなどの、博物館活動の特色が、整備・運営の内容と密接に関わり、それらを実現する「人、もの、連携」の方向性を導いていく。基本構想にはじまる各段階でそうした考え方の整理と明確化が重要である。

県立博物館の目指す姿などを持続的に実現するうえではコストへの配慮が欠かせない。イニシャル・ランニングコストの試算値を踏まえて、県立博物館の実情に合致する適切な方式が求められる。先行する博物館運営方式や最新の取り組みの考察による事業方式の検討が重要となる。

付表 ヒアリング・資料調査結果

◇ヒアリング調査対象博物館

No.	所在地	施設名 (◎は公開承認施設)	設置	運営	開設年	調査結果の分類※
1	北海道	◎北海道博物館	道	道/一財	2015年	持（もの/コスト）、収
2	北海道	北海道大学総合博物館	大学	大学	1999年	持（もの/連携）、収
3	長崎県	長崎歴史文化博物館	県/市	民間	2005年	持（人/もの/連携/コスト）、収
4	熊本県	熊本県博物館ネットワークセンター	県	県	2015年	持（人/もの/連携）
5	熊本県	◎熊本博物館	市	市	1978年 2015年リニューアル	持（人/もの/連携）、収

※持＝他県における持続可能な博物館の設置事例調査、収＝収蔵庫調査

※デジタルアーカイブ関連の調査対象施設は「V デジタルアーカイブ調査」に記載

◇資料調査対象博物館

No.	所在地	施設名 (◎は公開承認施設)	設置	運営	開設年	調査結果の分類※
6	北海道	国立アイヌ民族博物館	国	公財	2020年	持（もの）
7	北海道	土の博物館土の館	民間	民間	1992年	持（もの）
8	青森県	弘前れんが倉庫美術館	市	民間	2020年	持（コスト）
9	宮城県	◎東北歴史博物館	県	県	1999年	持（もの）
10	宮城県	塩釜市杉村惇美術館	市	民間	2014年	持（連携）
11	山形県	山形大学附属博物館	大学	大学	1949年 2015年リニューアル	持（連携）
12	栃木県	◎栃木県立博物館	県	県	1982年 2020年増築	持（もの）、収
13	東京都	国立科学博物館	国	独法	1877年	持（もの）
14	東京都	日本科学未来館	国	独法	2001年	持（もの）
15	東京都	◎江戸東京博物館	都	公財	1993年	持（連携）
16	東京都	東京都美術館	都	公財	1926年	持（連携）
17	東京都	多摩六都科学館	一組	民間	1994年	持（人）
18	東京都	世田谷文学館	区	公財	1995年	持（連携）
19	東京都	アーティゾン美術館	民間	民間	2015年	持（もの）、収
20	東京都	森美術館	民間	民間	2003年	持（もの）
21	神奈川県	川崎市民ミュージアム	市	市	1988年 移転計画中	持（人）
22	神奈川県	相模原市立博物館	市	市	1995年	持（連携）
23	富山県	富山県美術館	県	公財	2017年	持（もの）
24	富山県	砺波市立砺波郷土資料館 分室 砺波民具展示室	市	市	2015年	収
25	福井県	御食国若狭おばま食文化館	市	市	2003年	持（もの）
26	長野県	松本市立博物館	市	市/民間	2023年	収

No.	所在地	施設名 (◎は公開承認施設)	設置	運営	開設年	調査結果の分類※
27	長野県	戸隠地質化石博物館	市	市	1980年	持（もの）
28	静岡県	ふじのくに地球環境史ミュージアム	県	県	2016年	持（もの）
29	静岡県	静岡市海洋・地球総合ミュージアム	市	民間	建設中	持（コスト）
30	静岡県	豊田市博物館	市	市	2024年	持（もの）
31	静岡県	浜松科学館みらいーら	市	民間	1986年	持（連携/コスト）
32	愛知県	北名古屋歴史民俗資料館	市	市	1990年	持（連携）
33	三重県	◎三重県総合博物館	県	県	2014年	持（人/もの/コスト）
34	滋賀県	滋賀県立琵琶湖博物館	県	県	1996年	持（人）
35	滋賀県	滋賀県立美術館	県	県	1984年 2021年リニューアル	持（もの）
36	京都府	京都市京セラ美術館	市	市	1933年	持（コスト）
37	大阪府	大阪市立自然史博物館	市	地独	1958年 新館1974年	持（連携）
38	大阪府	大阪大学附属図書館	大学	大学	1931年	持（連携）
39	兵庫県	兵庫県立人と自然の博物館	県	県	1992年 2022年増築	持（人/もの）、収
40	兵庫県	竹中太工道具館	民間	民間	1984年	持（もの）
41	奈良県	なら歴史芸術文化村	県	民間	2021年	収
42	鳥取県	鳥取県立美術館	県	県/SPC	2025年	持（コスト）
43	鳥取県	北栄みらい伝承館	町	町	1981年	持（もの）、収
44	徳島県	徳島県神山町	-	町	1999年	持（人）
45	徳島県	◎徳島県立博物館	県	県	1990年 2021年リニューアル	持（もの）
46	高知県	◎高知県立高知城歴史博物館	県	県	2017年	持（人）
47	福岡県	福岡市科学館	市	民間	2017年	持（コスト）
48	福岡県	◎福岡市博物館	市	市	1990年	持（人）
49	福岡県	福岡市美術館	市	市	1979年	持（コスト）
50	熊本県	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設KIOKU	県	一社	2023年	持（もの）
51	熊本県	熊本市現代美術館	市	公財	2002年	持（もの）
52	大分県	臼杵市文化財管理センター	市	市	2015年	持（もの）、収

※持＝他県における持続可能な博物館の設置事例調査、収＝収蔵庫調査

※デジタルアーカイブ関連の調査対象施設は「Ⅴ デジタルアーカイブ調査」に記載

● 北海道の〈らしさ〉を展示で追求

- 北海道ならではの景色、海や大地の資源を活かし育ってきた数々のものづくり、多雪寒冷な気候に適応しようと模索した生活スタイルなど、いまの北海道にある〈らしさ〉を見せる展示。
- 北海道の独特な自然環境、本州とは異なる歴史、そして多様な人びとの行き交いの積み重ねのなかにある、農業・漁業・鉱工業・林業といった産業や産物、人びとのくらしの歩みをたどることにより、北海道の魅力とアイデンティティを再発見する。
- 〈北海道らしさ〉が感じられそうなもの一品一品を、とにかくランダムに集める展示などが展開されている。
- 国内外からの来評者のニーズに応える展示。

〔参考〕北海道博物館要覧2021年度版

<https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/wp-content/uploads/2022/08/hokkaido-museum-youran2021.pdf>

≪視察／ヒアリング調査結果≫

1 人の視点

- ・ 学芸職員：開拓記念館開館時は約30名。その後、道の定数削減などにより統合・リニューアル直前は実数22～23名程度まで減少。アイヌ民族文化研究センターは開設時6名。その後、統合を見据えた退職者不補充などにより実数4名。2015年の統合・北海道博物館としてのリニューアルに当たり研究分野・定数を整理し30名体制にて運営を開始した。
- ・ 総務部（事務系）職員：開拓記念館開館時は12～15名。その後、道の定数削減や「開拓の村」開設準備室、森林公園管理の割愛などによりリニューアル直前は6名程度まで減少。アイヌ民族文化研究センターは2名。統合・リニューアル後も6名程度。
- ・ 保存科学の専門学芸員がいて、資料保存やIPM（総合的有害生物管理）に関する日常的な悩みへの対応やノウハウの発信によって、道内の博物館との水平的なつながりが生まれている。

2 ものの視点 (1) 立地・施設環境

- ・ リニューアル時には移転の選択肢を持たなかったため、立地の検討は行われていない。集客のことだけを考えるのであれば、近隣の鉄道駅の近くに立地するか、もしくは現在数km圏内にある近隣文化施設と密に集積できるとよりよい。
- ・ 収蔵の面積確保や公共交通機関によるアクセス性を考慮しながら、県の開発エリアを踏まえて立地を検討すべき。
- ・ 50年前に建設された建物を使用していることもあり、現時点で館としてのバリアフリー対応は十分とは言えない。例えば車椅子対応は、展示室では2015年までにスロープ、エレベーターなどを備えたが、駐車場やバス停からのアプローチの路面の傷みなどは修繕中である。また職員の執務空間では未整備である。身体の障がい、知的障がい、乳幼児・高齢者などすべての人に楽しんでもらう視点が必要。
- ・ 研究を落ち着いてできる環境に加えて、学芸職員と総務系職員とがなるべく顔を合わせてコミュニケーションを取れる環境が望ましい。
- ・ 再生エネルギーの活用は重要であり、街灯から展示パネルまで、運営のエネルギーをどうやって抑えていくかを考えることが必要。展示に用いられる材料を再利用可能とすることで展示の廃棄物を減らす工夫もできるはずだと考えている。

2 ものの視点 (2) 展示

- ・ 北海道博物館の総合展示は北海道の自然・歴史・文化を5つのテーマで紹介しているが、基本的に学芸員が展示構成を行っている。
- ・ 展示を作るときには、学芸員が5つの展示テーマそれぞれについておよそ4～8人程度のグループを作って展示内容を検討し、検討した内容を全体会議でさらに揉んでいく方法をとった。
- ・ 「北海道らしさの秘密」（第3テーマ）の展示について、「北海道らしさ」までであれば、昨今の蘊蓄系の書籍やメディアの番組なども見られるが、その「らしさ」は、どのような歴史・自然環境・産業・生活文化を背景にしているか、について学術的な信頼性を踏まえて掘り下げるこ

が重要で、それが道立博物館に求められることと認識。「らしさの秘密」というタイトルの「秘密」は、こうした掘り下げに基づく展示であることを意識したもの。

- ・ 「北海道らしさの秘密」の展示では、“大地の形を変える”という大きな背景をおさえながらも、地域性など“一様でない”ことがわかるような要素をちりばめた。背景を探究する姿勢と、多角的な視点をふまえることで地域への「誇りと愛着」を深く打ち出すことができると考える。
- ・ 「アイヌ文化の世界」(第2テーマ)をはじめ全体をとおして、一口に「北海道民」とされる人々が実際には多様であること、したがって「地域への愛着」のあり方も多様であることを意識しているし、意識すべきであると考えている。例えば北海道の歴史や生活文化を物語る展示について、社会のマジョリティは特に疑問を感じることなく楽しめる内容であっても、マイノリティが違和感や疎外感を感じる展示にならないようにしたい。
- ・ 博物館のステークホルダーは館や行政の外にもいるため、あらかじめ検討プロセスにステークホルダーとの協議を組み込んでおくことが重要。

2 ものの視点 (3) 収蔵

- ・ 現在、資料の収蔵率はおよそ8割～9割と考えている。一部の資料は建物外の倉庫に保管。
- ・ データベースへの資料登録を進めるには、撮影や登録のハードルを下げる必要があるため、作業用の写真をすぐアップロードできるようにしている。また、収蔵庫の前室は撮影などの作業を行う部屋としての機能をもっていて、広くつくられている。
- ・ 収蔵庫内にWi-Fiを導入し、温湿度計測・記録装置の運用や、学芸職員用に備えた端末を収蔵庫内で使用する(収蔵資料データベースにアクセスし、検索・入力を行う)ことができる。
- ・ 収蔵庫の温湿度管理は、収蔵庫内の所定の箇所に温湿度計測器を置き、LANで一元的に集約・記録できるようにしている。また担当職員の端末からも確認できるようにしており、閉館時(夜間、休日など)でも任意に確認できるようにしており、温湿度に異常が認められた場合は通知するように設定している。
- ・ 収蔵庫は予め将来における一定の収蔵資料増加を見込む(試算的に棚の総延長などを算定していく)ことが望ましい。当館の場合、北海道開拓記念館として1971年に開館した際の収蔵庫が飽和状態となり、2015年のリニューアルにあたり、それまで収蔵陳列室として公開型収蔵庫的な機能を有していた室を通常の収蔵庫に改修し収蔵面積を増やした経緯がある。

3 連携の視点

- ・ 北海道博物館ではくずし字の解説講座がサークル化しており、20回ほどかけて文献に取り組み、成果を紀要に掲載している。今後の発展のあり方としては、未解読の文献に取り組むなどの可能性があり得ると考えている。
- ・ 道民参加のあり方は大きく類型化すると①サポート型(博物館事業の支援) ②サークル型(博物館事業の一環となる学習などのサークル活動) ③参加・共同型(博物館の調査研究などとともに担う) と考えられる。現在のところ、①は図書室業務の支援員制度、②は古文書(くずし字)解読のサークル、③は野幌森林公園に棲息する生物の一斉調査活動(毎年同じ時期に数十名の道民の参加を得て継続的に実施しており、調査成果や館の生物標本の充実などにつなげている)などがこれらに該当している。
- ・ 県内の防災体制として、緊急連絡網を公式に作っておくなど、県立博物館が主導してできることは多くあると考えている。新たな山形県立博物館が文化財防災の中核となるには、事務分掌に他館支援を明確に記載することが重要。

4 コストの視点

- ・ 北海道博物館では、日本学術振興会科学研究費補助金を申請できる研究機関として認定を受け、学芸員がこの研究助成金を獲得し博物館の調査・研究の充実に繋げている。その他、事業費としては補助金を取るなどしている。
- ・ 県民に対して提供するサービスを予算検討の基礎に置くと、分かりやすく事業費を編成できると考える。

《使命》

- ・ 学術標本の保管・整理、次世代への継承と情報の提供
- ・ 学術資料を用いた学際的研究分野の開拓
- ・ 展示・セミナーなどを通じた教育普及活動
- ・ 博物館文化の創造と発信

《基本方針》

- ・ 400万点にも及ぶ北海道大学開学以来の貴重な学術標本、資料、芸術作品などの散逸、劣化を防ぎ、学内外の研究者が利用可能な状態に整理、保存（研究展示）し、一部を一般公開する。
- ・ 多くの遺跡、歴史的建造物、豊かな自然を擁する北海道大学キャンパス全体を博物館としてとらえ、来訪者に本学の紹介をする。
- ・ 北海道大学で展開されている学術研究・教育の成果、進捗状況を実物で伝え、本学の学術情報発信の拠点とする。
- ・ 歴史的資料に基づき、日本近代精神の源流と評される北海道大学に通底する精神を紹介する。
- ・ 北海道大学の学生に、本学に通底する精神、研究の伝統と蓄積、将来に向けての発展性を示し、本学に学ぶ喜びと幸運を再認識する機会を与えるとともに、本学の教養教育における全人教育、実証主義的実学教育の発展に寄与する。
- ・ 展示公開、見学会、講演会、演奏会などを通じて、地域社会の人々、小中学生、高校生などの学習に貢献するとともに文化に触れる機会を提供する。

《視察／ヒアリング調査結果》

1 人の視点

- ・ 教員は7人（うち1人が函館キャンパス勤務）、このほか他学部と兼任の館長が1人。教員は水平的な組織となっており、それぞれの担当分野で意思決定ができる。事務は専任が3人、展示の維持・更新を主な仕事とする非正規職員が3人。人事と会計は理学部の事務が受け持っている。

2 ものの視点 (1) 立地・施設環境

- ・ 施設は既存建築の改修であり、空間的に様々な制約がある。現在の課題としては、一部の分野で収蔵スペースが不足している点、学会などに使える規模のホールがない点、その他一時収蔵など博物館活動に必要な室が不足している点が挙げられる。
- ・ 北海道大学自体が観光地であるとともに、また札幌駅からも近いことが集客面に良い影響をもたらしている。

2 ものの視点 (2) 展示

- ・ 大学博物館ならではの特征として、研究に用いられた実験器具などの資料が多い。
- ・ 北海道大学の歴史は札幌市街の歴史と深く関係しているため、博物館の活動は地域への愛着につながっていると考えている。
- ・ 展示ではないが、ホールやカフェのスペースは貸し出しを行っていて、地域のイベントなどでよく活用されている。

2 ものの視点 (3) 収蔵

- ・ 2016年の耐震改修とそれに伴うリニューアル時に、向こう30年分の標本資料増加を加味した収蔵面積を割り当てたが、資料増加のペースが速い分野ではすでに資料が溢れている。ただ、既存建築のため収蔵スペースの拡大は難しい。

3 連携の視点

- ・ ボランティアは約200人。15のグループに分かれて活動しており、各グループに1人ずつ教員がつく。
- ・ 北海道内の博物館等施設は、資料の貸し出し、質問対応、展示などでよく連携している。北海道自然史研究会やCISEネットワークなど、これらを束ねる組織もある。植物分野では道内の学芸員のメーリングリストをつくっており、寄贈や収蔵の相談が来た際には他館を紹介するようなこともある。

4 コストの視点

- ・ 展示や管理運営のコストに加えて、緊急用のプロジェクト予算を編成している。

● 老舗レストランを館内に併設

➤ 1930年創業の老舗レストランが開館時に博物館へ移転した。

● 県立クラスでは初、学芸部門を含めた指定管理

➤ 学芸部門を含めて指定管理制度が活用されており、2005年の指定管理運営の開始から、現在、3度の契約継続を行い、今後2028年までの23年間の期間の運営を予定している。

〔参考・引用〕長崎歴史文化博物館「ショップ・レストランご案内」<http://www.nmhc.jp/shop.html>

《視察／ヒアリング調査結果》

1 人の視点

- ・ 学芸部門を設置者の自治体とし、サービス部門に民間の指定管理者を入れるという例は近年増えているように感じるが、長崎歴史文化博物館は全部門を指定管理で運営し、県の中核として民間の力を活かしたマネジメントに取り組んでいる。指定管理館ながら、指定管理者の社員として修復専門員を配置している。
- ・ 市民ボランティア担当4人でボランティアを組織化している。リーダー1名、研究員3名で、全員学芸員である。

2 ものの視点 (1) 立地・施設環境

- ・ 執務スペース・収蔵庫をはじめとするバックヤードの動線が共用部を通過しておりゾーニングは課題だが、共用部を通過する際に来館者の様子を確認できる点は良いと感じている職員もいる。
- ・ 長崎奉行所の役所があった場所に立地し、館内に奉行所を再現していることが魅力。行政の会議などにも利用される。近隣と一体化したまちづくりで博物館への来館を促しているが、他の観光地・観光施設との周遊動線に課題がある。

2 ものの視点 (2) 展示

- ・ 開館時に、県の担当者から、江戸時代の海外交流が歴史上最も長崎が注目を集めており、長崎の歴史の特性であるということからテーマに採用された。海外交流と奉行所の復元展示を柱に展示を構成したと聞いている。
- ・ 博物館を新設する場合を考えると、建物全体の設計、地域を含めた周辺整備、学芸員がつくる展示ストーリー、展示室の配置などについて全体を包括的に見ることができるプロデューサーが必要だと感じる。長崎の各地域は異なる歴史を持つがそれぞれ海外交流には深いかかわりがあり、地域の愛着にもつながると考えている。

2 ものの視点 (3) 収蔵

- ・ 収蔵率は算出していないが、場所によっては8～9割埋まっているところもある。第一収蔵庫、第二収蔵庫の2つがあり、絵画などの古文書・木材と金属・陶磁器類では適した湿度が異なるため収蔵庫を分けており、それぞれ資料に適した収蔵環境で保管している。

3 連携の視点

- ・ 県内の教員を対象に、博物館での学びや学校教育での博物館の活用の仕方を考え、博物館と学校との連携を深めるための「パートナーズプログラム」を15年以上推進しており、プログラム参加者を中心とした連携体制が取られている。展示のみで地域の全てを語ることはできないため、学校教員の意見を聞きながら博学連携の事業を展開することが有効。
- ・ 県民市民の方からサポートしてもらうことよりも、館から情報を積極的に発信していき、子ども達に興味を持ってもらって博物館に来て楽しんでもらい、大人になった時にまた博物館に戻ってきてもらうという「攻め」の姿勢が重要。まず博物館に来て楽しんでもらえることが重要。楽しんでもらうことによって来館のハードルが低くなり、地域への愛着につながっていくのではないかと考えている。

4 コストの視点

- ・ 展覧会事業は集客が安定しにくい。研究員による展覧会企画は数年かかるが、巡回展は「パッケージ」になっているため、学芸員が専門分野以外の巡回展も担当しつつ、長期と短期の業務設計をする必要がある。

No.4 熊本県博物館ネットワークセンター（熊本県宇城市、2015年開館） 分類：ヒアリング調査対象

《設置目的》

● 県内博物館などとの連携を軸とした、博物館活動の活性化及び県民の学習機会の増大

〔参考〕 熊本県博物館ネットワークセンター（2024）「熊本県博物館ネットワークセンターの概要」

《視察／ヒアリング調査結果》

1 人の視点

- ・ 熊本県内の博物館活動を活性化する目的で、県内博物館の職員への研修を展開している。
- ・ 県内の博物館が行う各種活動の事務局の役割を担っており、発掘調査で出土があった際などに専門家を検索できる人材データベースを構築している。
- ・ 県内博物館の人材育成として、運営についての研修会や学芸員のスキルアップの講座を行っている。例えば総合プロデューサー育成研修は展示会などを企画する総合プロデューサー育成を目的とした講習など。研修会や講座は基本的には東京、近くても九州国立博物館でしか開催されないため、熊本県でも職員の質を高めるために始まった。
- ・ 県内博物館にイベントなどを広報する広報紙の発行や、県民を対象としたフィールドワーク、県内博物館への研修会については職員が持ち回りで担当している。
- ・ 資料の貸し出しはネットワークセンター各分野の担当職員が管理している。

2 ものの視点 (1) 立地・施設環境

- ・ 運転免許試験会場だった建築を改築して使っている。
- ・ 平成8年に策定された「県立博物館基本構想」に基づく立地。平成13年に博物館を造る計画が凍結された後、資料を収蔵するため、平成17年から現在の建物を収蔵庫として利用している。

2 ものの視点 (2) 展示

- ・ 常設展示は設けておらず、所蔵資料を活用した企画展示を行っている。
- ・ 熊本博物館の2階に県市連携展示室が設けられ、熊本県博物館ネットワークセンターの収蔵する資料が展示されている。

2 ものの視点 (3) 収蔵

- ・ 平成17年に現在の建物に移動する際に、各分野の面積を前の施設の1.5倍拡張できるよう計算した。現在資料数は約70万点だがまだ余裕はある。

3 連携の視点

- ・ 教職員を対象とした研修会を行って、博物館活動に興味・関心や親近感を持ち、授業で活用できる資源として認識してもらうことを目指している。
- ・ 県内博物館の共通資料プラットフォームである熊本県博物館資料データベースを運用している。管理自体は早稲田システムに委託しており、公立の館であれば自館のデータとして横断検索可能になる。費用は回収せず、全てネットワークセンターが負担している。

4 コストの視点

- ・ 既存建築を収蔵庫として改修する最大かつ唯一のメリット。元運転免許試験会場のため、広い部屋が多い点は良かったが、温湿度管理はなかなか思うようにできていない。

● 融合から生まれる多角的視点を体験

- 展示コンセプトとして多様な分野の研究を行う総合博物館の特性を活かし、分野を融合・横断する展示
- これを「分野融合展示」と呼び、次のような4種類の展示を設けた。
 - 1 融合展示コーナー：1階と2階の展示室をつなぐ吹き抜け部に設置
 - 2 つながりさん解説：分野間の横断情報の提供
 - 3 はっけんスポット：休憩ベンチを兼ねた発見の芽の在りかを伝えるマップ
 - 4 エントランス案内：上記3つを活用するための虎の巻グラフィック
- 融合展示コーナーの一つである「クスノキ展示」では、博物館に隣接するクスノキの巨木群を対象に、1階ではクスノキの足元で起こった千年の歴史、2階ではクスノキの営みやクスノキとともに生息する生きものを紹介している。

● 未来へつなぐ熊本の記憶

- 「未来へつなぐ熊本の記憶」を全体テーマとし、熊本の歴史や文化、人と自然との深い関わりを示しながら、長い時間の中で織り成されてきた知の蓄積を来館者に楽しく分かりやすく伝え、未来へ継承することを目指す。

〔参考〕熊本博物館「コンセプト」<https://kumamoto-city-museum.jp/163/237>

≪視察／ヒアリング調査結果≫

1 人の視点

- ・ リニューアルを機に保存科学の学芸員がおかれ、すべての収蔵庫、展示室に目を配って館内環境が向上した。また、県内外の博物館から相談をうけるなど、他館とのつながりが生まれている。

2 ものの視点 (1) 立地・施設環境

- ・ 2018年にリニューアルオープンしているが、建物自体は昭和53年建造であり館内手狭な状況。リニューアルを機に公開承認施設を目指し、特別展示室や特別収蔵庫の環境を整えた。リニューアル時、特別史跡熊本城跡に立地しているため地面を掘れないという工事上の制約があった。
- ・ 熊本城天守閣から博物館への回遊に課題がある。

2 ものの視点 (2) 展示

- ・ 展示構成を従来と真逆の人文から自然という流れにして、リニューアルのインパクトを示した。人文系は県域から市域を意識した内容に見直したが、自然系地質分野は県域の資料、生物分野は市域の自然をフォーカスしたものとした。
- ・ 館全体で分野を融合するには、テーマ設定の段階で分野の垣根を超えて何を伝えたいか整理する必要がある。

2 ものの視点 (3) 収蔵

- ・ 関係分野の学芸員とともに受け入れ検討会を開き、内容に応じて他の施設や専門機関を案内することもある。
- ・ 資料増加の予測は難しく、熊本博物館では地震などの災害や近隣の資料館などの閉館などに伴って資料が急増した。特別収蔵庫はスペース、空調ともにスペックを上げている。
- ・ 各分野で受け入れ方針を設けている（例：熊本市域のもので今後展示の活用が見込めるもの）。

3 連携の視点

- ・ 博物館友の会は、運営に伴う学芸員の負担の増大や入会者の減少、会員の高齢化を背景に2011年に解散となっている。ボランティアは運営の負担や継続性を考慮して大々的な募集や活動は行わず、各分野が個々に声をかけている。
- ・ 熊本地震の経験を踏まえると、被災直後の資料の初期対応のアドバイスができるかどうかのポイントだと考える。
- ・ 被災資料の修復は専門機関の担当者に聞いて対処するか、県内外の大学に依頼することもある。

No.6 国立アイヌ民族博物館（北海道白老郡白老町、2020年開館） 分類：持（もの）

● アイヌ文化に触れて 深く知るための展示の仕掛け（テンパテンパ）

- 「テンパテンパ」とは、「さわってね」という意味のアイヌ語であり、体験を通じてアイヌ文化にふれることができるコーナー。
- ジオラマ・模型・タマサイ（首飾）やサケ・シカの立体パズルなど、18の体験ユニットがあり、大人も子どもも楽しめる展示。
- 「探究＝explore」の基本である「なぜこの形なのか」「なぜこの素材なのか」という問いから、理由や答えを導き出していく構成。アイヌの歴史や文化への理解を深められるサケの解体模型、素材や刺繍を再現した着物、昔の家を組み立てられる模型など、展示ケースで隔てずに触って感じる探究展示と、実物中心のテーマ展示との相互の行き来により、来館者それぞれの興味関心に沿った深掘りが可能な知的好奇心を喚起する仕掛けとなっている。

● 野外景観を取り込む「プ」

- 立地を取り巻く自然林の稜線と連続する建物形状によって、周辺の豊かな自然と調和させるとともに、展示室前には、ポロト（湖）に開くパノラミックロビーを設け、象徴空間全体が感じられる計画としている。
- 2階に展示、収蔵空間をまとめ、高床の「倉（アイヌ語で『プ』）」となる構成とし、それを二重外郭構造で包むことで、寒冷地での博物館としての機能を強化している。

〔参考〕 久米設計「国立アイヌ民族博物館」<https://www.kumesekkei.co.jp/project/0022.html>

No.7 土の博物館土の館（北海道空知郡上富良野町、1992年開館） 分類：持（もの）

● トラクタから農業の歴史を見る、テーマ博物館

- 農業の素晴らしさ、土と人間との関わり大切さを多くの人に知ってもらい、土をとりまく自然環境や食べ物大切さをともに考えていく場として設立。
- 北海道の農業の機械化に向けて導入されたトラクタを通して、農業に取り組んだ先人の足跡を伝えるために、黎明期からのトラクタを多数展示。トラクタ博物館の規模は世界一である。

〔参考〕 土の博物館土の館トラクタ博物館 <http://www.tsuchinoyakata.jp/page/page000014.html>

No.8 弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市、2020年開館） 分類：持（コスト）

● PFI（RO）方式 「共創型」PFI

- 大正時代のレンガ倉庫を活用した現代美術館。
- 当初から全面的な官民連携事業を実施するとの判断がなされていた。学芸を含む全業務を民間が担うPFI（RO：リハビリテート・オペレート）方式。
- 「どのような作品を収集・展示するのか」ということについて、民間事業者の提案を求めたこと、プロフィットシェアの仕組みを導入していることに特徴がある。

〔参考・引用〕 日本総研「共創型PPP事業「弘前れんが倉庫美術館PFI事業」の挑戦」<https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=36555>

No.9 東北歴史博物館（宮城県多賀城市、1999年開館） 分類：持（もの）

● 展示全体を子ども向けにする

- 見るだけでなく、触れる、使う、聞くなどの歴史体験ができる。
- 映像の進行に参加できるインタラクティブシアター、昔からの技や工夫に触れるワークテーブル、オリジナルソフトを操作するパソコンランドの3つのコーナーがあり、子どもだけでなく大人も様々な体験を通して歴史を感じることができる。

〔参考・引用〕 東北歴史博物館「施設案内 本館 - こども歴史館」https://www.thm.pref.miyagi.jp/infor/institution/honkan/kids_museum2/

No.10 塩釜市杉村惇美術館「暮らしの市」（宮城県塩釜市、2014年開館） 分類：持（連携）

● **博物館は地域文化のマルシェ & フェス**

- 博物館を活用し、物産やワークショップなどを行うマーケットやマルシェ、お祭りを行っている。

No.11 山形大学附属博物館／山形アーカイブ実行委員会（山形市、2015年リニューアル） 分類：持（連携）

● **ものだけじゃない 地域の「記憶」を協働によって保存・公開**

- 山形市の中心市街地の資料と風景、人々の証言、そして地域の博物館が収集してきた資料などをデジタル化した、まちの「記憶」を公開するデジタルアーカイブ。
- 学生サークル「まちの記憶を残し隊」を結成、まちの記憶を保存する意義を発信するイベント「ななはく！」を開催するなど、市民・大学・博物館の関係構築を進めている。
- 複数の地域が協働して地域資料のデータを共有・分散保有し、地域資料のオープン化を行うため、地域横断型データ共有基盤の構築を目指している。

〔参考〕山形アーカイブ：<https://cherry.yum-archives.net/yamagata-archive/>

令和4年度InnovateMUSEUM事業事例集

日本ミュージアム・マネジメント学会における発表「地域や組織を横断した資料データ共有の仕組みの実現を目指して」

No.12 栃木県立博物館（栃木県宇都宮市、1982年開館 2020年収蔵棟増築） 分類：持（もの）、収蔵

● **新収蔵庫の設置とコレクションマネジメント既定の改定・整備**

- 資料の増加などにより収蔵環境が悪化してきたことから、資料収集の在り方について様々な検討が行われた結果、今後の資料収集活動を十分に行うための収蔵庫棟の建設が決まり、2020年3月に完成した。
- 新しい収蔵庫は、生物収蔵庫、民俗収蔵庫、地学収蔵庫、昆虫収蔵庫、植物・菌類収蔵庫、動物収蔵庫に分かれている。
- 新収蔵庫は建築面積1,699㎡、有効面積1,558㎡。有効面積2,556㎡の既存の収蔵庫と合わせて2047年までの約30年間の使用を想定（本館竣工1982年、本館の65年間使用を前提）。
- 新収蔵庫の設置とともにコレクションマネジメント関連規定を改定・整備。
- 資料の収集に当たっては、収蔵スペースを強く意識した収集、永久的保管を目的とした保管体制、保存の意義が消失した場合、移管により一層有効な活用が期待できる場合などの除籍を規定した。

〔参考〕栃木県立博物館 林 光武（2023）「栃木県立博物館のコレクションマネジメント関連規定とその運用」

<https://www.nomurakougei.co.jp/achievements/page/yamanashi-prefectural-fujisan-world-heritage-center/>

No.13 国立科学博物館（東京都台東区、1877年開館） 分類：持（もの）

● **子どもとコレクションをつなぐ（親と子のたんけんひろばコンパス）**

- 4歳から6歳の子どもとその保護者の方を主な対象とした展示室。
- 子どもが楽しいと感じる展示を目指し、さらには博物館での体験を家庭における「日常」に持ち帰ってもらうため、保護者と「驚き」や「発見」を共感してもらうことを重視した。
- コンパスは「遊び」の要素の中に「親子のコミュニケーション」を促すしかけをたくさん用意し、そこでの経験を通じて、科学的な知識だけではなく、感じる力、考える力が養われることを目的としている。

〔参考〕親と子のたんけんひろば コンパス<https://www.kahaku.go.jp/learning/compass/index.php>

No.14 日本科学未来館（東京都江東区、2001年開館） 分類：持（もの）

● 展示技術の研究開発でアクセシビリティを高める（アクセシビリティラボ）

- 未来館と専門の研究機関とが共同で進めるコンソーシアム型研究室で、AIやロボット技術を応用して視覚障がい者向けのアクセシビリティ技術などを研究している。
- 建物や展示のバリアフリー化を通じた「アクセシビリティ」の向上から一歩進んで、多様な人が楽しめる展示ツアーや、五感を使って体験できる展示など、新たな体験を生み出す手法の開発に取り組む。

〔参考〕日本科学未来館「アクセシビリティ」<https://www.miraikan.jst.go.jp/research/AccessibilityLab/>

No.15 江戸東京博物館（東京都墨田区、1993年開館） 分類：持（連携）

● たてものが休んでも 博物館は休まない（えどはく移動博物館）

- 都内を対象に、改修工事により休館中の江戸東京博物館の学芸員が主張ワークショップを行う。
- 公民館の展示室、学校の多目的室、ロビーなどを会場として、江戸時代から近代まで、テーマに合わせてパネルや模型、レプリカなどの出張展示を行う。
- 江戸東京博物館バーチャル・ミュージアムで休館前の常設展や、館の収蔵品をオンラインで見ることができる。ゲーム会社と共同で開発したスマートフォンアプリなども展開。

〔参考・引用〕江戸東京博物館「2024年度 休館中の江戸東京博物館の活動について」
<https://www.edo-tokyo-museum.or.jp/news/other-news/38184/edohaku-fy2024/>

No.16 東京都美術館「Museum Start あいうえの」（東京都台東区、1926年開館） 分類：持（連携）

● 上野公園全体のダイナミックなミュージアム連携

- 徒歩圏内にある9つの文化施設が連携し、アートをテーマにする子ども主体のワークショップを展開。
- 探究型のプログラムやワークショップに加え、アイテムの制作などを行い、アクティブ・ラーニングや学校支援など、様々な活動を行っている。

〔参考・引用〕「Museum Start あいうえの」<https://museum-start.jp/>

No.17 多摩六都科学館（1994年開館） 分類：持（人）

● それぞれの視点で来館者と触れ合う

- 2005年度以降、展示室での来館者とのコミュニケーション、教室やイベントの企画・運営などの幅広い活動を科学館のスタッフと連携して行う、多摩六都科学館ボランティア会の一員として活動する小学5年生から高校生のメンバー。
- 来館者とのコミュニケーション、館内の各種イベントの補助・ワークショップ補助など、学校が休みの日に活動する。

〔参考〕多摩六都科学館「多摩六都科学館ボランティア会」<https://www.tamarokuto.or.jp/volunteer/>

No.18 世田谷文学館「だれでもセタブンマーケット」（東京都世田谷区、1995年開館） 分類：持（連携）

● 博物館は地域文化のマルシェ＆フェス

- 博物館を活用し、物産やワークショップなどを行うマーケットやマルシェ、お祭りを行っている。

No.19 アーティゾン美術館（東京都中央区、2015年開館） 分類：持（もの）、収蔵

● **コレクションをいまの目でとらえなおす（ジャム・セッション）**

- ジャム・セッションは、アーティゾン美術館のコンセプト「創造の体感」を体現する展覧会であり、アーティストと学芸員が共同して、石橋財団コレクションの特定の作品からインスパイアされた新作や、コレクションとアーティストの作品のセッションによって生み出される新たな視点による展覧会を構成する。
- 過去から現代、次代へ向けての架け橋となるプロジェクトを目指している。
- 毎年一回開催。

〔参考〕アーティゾン美術館 <https://www.artizon.museum/>

No.20 森美術館（東京都港区、2003年開館） 分類：持（もの）

● **展示内容だけでなく 展示そのものをサステナブルに（開館20周年記念展）**

- 環境問題をはじめとする様々な課題について多様な視点で考えることを提案する展示を行う上で、輸送を最小限にし、可能な限り資源を再生利用するなどサステナブルな展覧会制作を通じて、現代アートやアーティストたちがどのように環境危機に関わり、また関わり得るのかについて思考を促し、美術館を対話が生まれる場とした。

〔参考・引用〕森美術館「私たちのエコロジー：地球という惑星を生きるために」
<https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/eco/>

No.21 川崎市民ミュージアム（神奈川県川崎市、1988年開館 移転計画中） 分類：持（人）

● **被災を乗り越え みんなでつくるミュージアム**

- 「（仮称）新たなミュージアムに関する基本計画」の策定にむけて、“市民の皆様とともに”新たなミュージアムを考える取り組みを実施。
- ワークショップ「ミュージアム・市民ミーティング」を開催。
 - ・ 第1回 「あったらいいな！」と思う未来のミュージアムを語り合おう！
 - ・ 第2・3回 新たなミュージアムに期待する声を聞かせて！
 - ・ 第4回 新たなミュージアムのイメージを描いてみよう！
- Webアンケート「ミュージアム・市民アンケート」を実施。
- 川崎市内各区の区民祭や地域のイベントなどに出席し、オープンハウス型説明会を実施。
 - ・ 新たなミュージアムに関する説明パネルの展示
 - ・ 「新たなミュージアムに期待すること」のシール投票
 - ・ シール投票をしてくださった方への缶バッジプレゼント
 - ・ 「新たなミュージアムの整備に向けた取り組み」リーフレットや関連チラシの配布

〔参考〕川崎市「みんなでつくるミュージアム」（市民協働の取り組み）<https://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000155171.html>

No.22 相模原市立博物館（神奈川県相模原市、1995年開館） 分類：持（連携）

● **JAXAと連携した教育普及と展示**

- 2010年7月には、小惑星探査機「はやぶさ」の再突入カプセルの世界初公開を行うなど、近接する宇宙航空研究開発機構（JAXA）との連携による宇宙に関する教育普及事業を展開。
- JAXA相模原キャンパス内に博物館資料展示スペースがある。

〔参考・引用〕相模原市立博物館「博物館概要」https://sagamiharacitymuseum.jp/gaiyo/hakubutsukan_gaiyou/
博物館の可能性研究会（2023）「地方自治体、コミュニティ、博物館向けハンドブック 博物館の可能性―持続可能な未来を推進する地域発展のために―」

No.23 富山県美術館（富山県富山市、2017年開館） 分類：持（もの）

● 学びと遊びとアートのか

- 家族で楽しめる遊具を置いた遊び場。美術館の屋上に整備されている。
- 「ぐるぐる」「ひそひそ」などのオノマトペから考えられた遊具で遊ぶことができる。

〔参考〕富山県美術館：<https://tad-toyama.jp/facility/rooftop>

No.24 砺波市立砺波郷土資料館 分室 砺波民具展示室（富山県砺波市、2015年開館） 分類：収蔵

● 現役の小学校のフロアを使用し、民具約7,500点が収蔵展示

- 国の重要民俗文化財に指定を含む民具が展示されている。
- 研究者の資料、歴史資料、学校教育に加え、高齢者の地域回想法の資料としての活用が予定されている。

〔参考〕砺波市「砺波民具展示室」<https://www.city.tonami.lg.jp/section/1786p/>

砺波正倉「フォトライブラリ 民具展示室」<https://1073shoso.jp/www/photo/detail.jsp?id=19278>

No.25 御食国若狭おばま食文化館（福井県小浜市、2003年開館） 分類：持（もの）

● 博物館の機能の広がりをもたらす設備

- 食文化を扱うミュージアムとキッチンスタジオ、工房、温浴施設、レストランが一体になっている。
- 小浜市は食材にこだわった農林漁業の振興、食文化を支える食品産業や箸産業の育成、味にこだわる民宿や観光産業の振興、食料の地域自給、健康への貢献、食を育む森と水・川・海などの環境保全、食を作る体験学習を通じた児童教育、広範な分野にわたり「食のまちづくり」を推進しており、食文化館はその食のまちづくりの中心としてつくられた施設。

〔参考〕御食国若狭おばま食文化館「ご利用案内」

<https://www1.city.obama.fukui.jp/obm/mermaid/modules/content2/index.php#01>

No.26 松本市立博物館（長野県松本市、2023年開館） 分類：収蔵

● 連携でつくるエントランス

- 博物館リニューアルで生まれる新たな吹き抜けのエントランスに、地域の伝統工芸である「手まり」を用いたモビールが展示されている。
- 大学教員・学生・一般市民と学芸員が連携して「松本手まりプロジェクト」が展開され、市民参加型のワークショップで展示を制作した。

● 博物館の移転に伴い整備された新収蔵庫と資料取扱内規の作成

- 収蔵庫は博物館の2階（前室含めて730㎡）と3階（前室含めて318㎡）の2か所。1階にはトラックヤードに隣接した一時収蔵庫がある。
- 移転にあたり、現状の作品資料のボリューム及び増加率を把握し、将来増加する分の余剰率を取った上で収蔵庫の平米数を試算して基本計画に反映した。
- 収蔵庫の配置は、展示室の近くに設けること、水害の影響を考慮して2階以上に設けることから決まった。また、雨漏りの可能性を考慮して3階の収蔵庫は2階の収蔵庫に比べて小さくなっている。
- 移転に際して、温湿度管理が必要ない資料は廃校を活用した収蔵場所へ移転している。点数としては4：6（市博が4）程度の比率となっている。
- 収集や保管、除籍の方針については、移転時に作成した資料取扱内規で定めている。

〔参考〕松本市立博物館「松本てまりプロジェクト」

<https://matsu-haku.com/matsuhaku/wp-content/uploads/sites/2/2021/08/d523665682d7d24e0384a4a419162e69.pdf>

No.27 戸隠地質化石博物館（長野県長野市、1980年開館） 分類：持（もの）

● **ものの魅力を引き出すミドルヤード展示**

- 3階建ての廃校の全てを博物館として活用。
- 3階に常設展示を設け、2階には常設展示（フロントヤード）と収蔵庫（バックヤード）の中間的な性質を持つミドルヤードを多く配置し、収蔵資料と来館者の距離を近づけている。

〔参考〕戸隠地質化石博物館 <http://www.tgk.janis.or.jp/~togakushi-museum/index.html#section02>

No.28 ふじのくに地球環境史ミュージアム（静岡県静岡市、2016年開館） 分類：持（もの）

● **学びの場が学びの場に生まれかわる**

- 統廃合された高校の旧校舎をリニューアルしてつくられた博物館。

〔参考〕博物館の可能性研究会（2023）「地方自治体、コミュニティ、博物館向けハンドブック 博物館の可能性—持続可能な未来を推進する地域発展のために—」

No.29 静岡市海洋・地球総合ミュージアム（静岡県静岡市、建設中） 分類：持（コスト）

● **P F I（B T O）方式 官民で需要リスクを分担**

- 学術・研究機関との連携や海洋産業の振興などの「公共性」と賑わい・集客施設としての「収益性」があり、様々な利用者が訪れ、海洋・地球を総合的に理解できる仕組みの構築には民間事業者のノウハウの発揮が見込まれることから、公共施設などの整備、維持管理・運営などを民間の資金、経営能力及び技術力を活用して行う P F I（B T O：ビルド・トランスファー・オペレート）方式とした。
- B T O方式は、民間事業者が施設などを建設し、施設完成直後に公共施設などの管理者等に所有権を移転し、民間事業者が維持・管理及び運営を行う事業方式。
- 民間の資金導入に際して、運営独立採算とすることは難しいという判断から差引きサービス型の事業形態とし、需要リスクはプロフィットシェア（提案時からの上ブレ分の分担）・ロスシェア（提案時からの下ブレ分の分担）を導入。

No.30 豊田市博物館（愛知県豊田市、2024年開館） 分類：持（もの）

● **ランドスケープデザインとZEB ready**

- 隣接する豊田市美術館との一体的な敷地利用ができるようなランドスケープデザインとし、2つの敷地を統合してミュージアムゾーンを形成。
- サステナブルな建築として計画。総合的な博物館施設としては初めて、ZEB Readyの認証を受けている。
- 災害時には博物館に災害対策本部が設置できるようになっている。

〔参考・引用〕豊田市博物館「豊田市博物館について」<https://hakubutsukan.city.toyota.aichi.jp/about>

No.31 浜松科学館みらいーら（静岡県浜松市、1986年開館） 分類：持（連携／コスト）

● **企業と連携した、地元産業への興味を喚起する展示**

- 常設展示に浜松の地域産業とも関連の深い「音」「光」「力」に、「自然」「宇宙」「新技術」を加えた6つのテーマを設け、街の地域活性化や子供の未来につなげるため、地場の企業が展示の一部を企業協賛している。

● **P P P（D B O）方式 短期間での設計施工と運営計画**

- 既存科学館の施設及び展示アイテムの老朽化に伴う、科学館のリニューアル。設計・施工・運営を一体としたD B O方式。設計施工は17か月という短期間。

No.32 北名古屋市歴史民俗資料館 昭和日常博物館（愛知県北名古屋市、1990年開館） 分類：持（連携）

● なつかしさが駆動する「博福連携」プロジェクト

- 歴史民俗資料館の豊富な収蔵品を、「思い出ふれあい事業」（回想法事業）の有効な資源として活用していこうとする保健福祉側の視点と、収蔵品を他の分野にも有効利用していこうとする博物館側の視点が両輪となって、回想法事業を進めている。
- 北名古屋市では、回想法を日本で初めて地域の中に取り入れ「地域回想法」として介護予防、認知症予防や地域づくりを目的に「思い出ふれあい事業」として実施。

〔参考〕北名古屋市「回想法ページへようこそ」<https://www.city.kitanagoya.lg.jp/fukushi/3000067.php>

博物館の可能性研究会（2023）「地方自治体、コミュニティ、博物館向けハンドブック 博物館の可能性—持続可能な未来を推進する地域発展のために—」

No.33 三重県総合博物館（三重県津市、2014年開館） 分類：持（人／もの／コスト）

● 民間企業からの協力を獲得する営業開発活動を積極展開

- 三重県の経済・産業・雇用・文化などの面で大きな役割を担っている企業・団体を重要なパートナーと捉え、企画展示の共同実施、イベント・ワークショップなどの共同実施、ワークショップ参加者へのノベルティの提供、ポスターやチケットの設置など広報誘客面での協力、活動と運営に対する金銭的支援など、様々な活動を行う。
- 「博物館企業連携専門員」を配置して上記の活動に対応している。

● 二期工事による収蔵庫の拡張計画

- 延床面積12,000㎡を2期に分けて整備する計画となっている。第1期には10,000㎡、第2期には2,000㎡の整備を行い、特に収蔵エリアは第2期で1,500㎡の拡大が計画されている。

〔参考〕三重県「三重県総合博物館の活動及び運営に対する参加」<https://www.pref.mie.lg.jp/D1KOYOKEL/79784044092.htm>

三重県総合博物館「年報 通巻10号（令和5年度）」<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/common/content/001169804.pdf>

三重県「新県立博物館基本計画」<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/common/content/000113485.pdf>

No.34 滋賀県立琵琶湖博物館（滋賀県草津市、1996年開館） 分類：持（人）

● 博物館をともに作り 人と人の出会いのきっかけを作る

- 琵琶湖博物館の理念に共感し、ともに琵琶湖博物館を作っていこうという意志を持った方のための登録制度として、はしかけ制度を設けている。
- 参加者にとって「博物館で活動することが自分自身の興味や理解を深める上で役に立ち、かつその活動が琵琶湖博物館の活動の幅を広げる」というギブアンドテイクの考え方。
- 活動はグループ制が基本であり、参加者本人の意思のもとで、知識や技術の習得や普及活動、研究活動に関わる。
- 交通費などは支給されないが、材料費などの必要経費は予算の範囲内で利用することができる。

〔参考〕琵琶湖博物館「はしかけ制度とは」<https://www.biawahaku.jp/about/hashifr/hashikake/>

No.35 滋賀県立美術館（滋賀県大津市、1984年開館 2021年リニューアル） 分類：持（もの）

● 既存の文化芸術を超克する可能性と創造力

- アール・ブリュットを収集方針に掲げる国内唯一の公立美術館であり、2016年から収集を行う。
- アール・ブリュットはフランスの画家、ジャン・デュビュッフェによって提唱された概念で、既存の文化の影響を受けずに独特の制作を行う、精神障がい者や独学の作り手などの作品を指す。
- アール・ブリュット作品のコレクションは731件となり、世界でも有数のアール・ブリュット作品のコレクションを有する。

〔参考〕滋賀県立美術館「アール・ブリュットについて」<https://www.shigamuseum.jp/about-the-collection/artbrut/>

No.36 京都市京セラ博物館（京都府京都市、1933年開館 2020年リニューアル） 分類：持（コスト）

● **ネーミングライツ制度の導入**

- 京都市美術館の再整備事業を、市民負担を抑えつつ着実に推進するため、京セラ株式会社から約50億円の支援を得て、通称を「京都市京セラ美術館」とする50年間のネーミングライツ契約を締結。

〔参考〕京都市京セラ美術館<https://kyotocity-kyocera.museum/greeting>

No.37 大阪市立自然史博物館（大阪府大阪市、1958年開館 新館1974年） 分類：持（連携）

● **市民の前で、市民とともに（友の会を母体とするNPO法人との協働）**

- 資料収集、展示から論文に至るまで、活動が市民の前で、市民とともに進められ、アマチュア研究者や研究サークルなどの活動が活発である。
- 地方独立行政法人大阪市博物館機構による運営が行われている。
- 友の会を母体として生まれたNPO法人大阪自然史センターが、自然史博物館と市民とをつなぐ大きな役割を果たしている。
- 全ての職員・外来研究員・関連業者スタッフ・アルバイト・ボランティアなど博物館と連携して事業を行うすべての人を対象として「大阪市立自然史博物館の運営に携わる者の行動規範」が定められている。

〔参考〕大阪市立自然史博物館（2024）「大阪市立自然史博物館館報49」

博物館の可能性研究会（2023）「地方自治体、コミュニティ、博物館向けハンドブック 博物館の可能性—持続可能な未来を推進する地域発展のために—」

No.38 大阪大学附属図書館（大阪府箕面市、1931年開館） 分類：持（連携）

● **大学図書館と市立図書館の一体的運営による社会連携の取り組み**

- 大阪大学が2021年度から箕面市の整備する船場図書館と船場生涯学習センターの指定管理者となった。
- 箕面市立船場図書館は大阪大学外国学図書館の機能を兼ね備え、箕面市と大阪大学の蔵書を所蔵しているため、市民は大学の蔵書も容易に利用できるようになった。

〔参考〕国立大学図書館協会（2023）「大阪大学『大学図書館と市立図書館の一体的運営による社会連携の取り組み』」
<https://www.janul.jp/ja/projects/ga/interview/osaka#>

No.39 兵庫県立人と自然の博物館（兵庫県三田市、1992年開館） 分類：持（人／もの）、収蔵

● **博物館がシンクタンクとして地域課題の解決に寄与する**

- 地域の抱える自然環境の保全・復元・創出やまちづくり、地域づくりなどの多岐にわたる課題に対して、専門的かつ学際的な調査・研究を行う。
- 地質学、古生物学、生物分類学、生態学、造園学、都市計画、環境計画、環境教育学といった様々な分野の研究者が所属する博物館の環境を活かし、地域課題の解決や環境優先社会の実現に向けた様々な活動を支援するために、行政や民間企業などからの調査・研究委託を受けている。

〔参考・引用〕兵庫県立人と自然の博物館「シンクタンク事業」<https://www.hitohaku.jp/research/thinktank.html>

No.40 竹中大工道具館（兵庫県神戸市、1984年開館） 分類：持（もの）

● 資料と「わざ」を五感で感じる

- 消えていく大工道具を収集・保存・研究し、使う人の技や建築、木の文化に関する企画や展示を行う。大工道具の産地と協力し、職人の工場見学などを企画して産地の活性化に貢献している。
- 映像や木の香りの体験、ハンズオン展示など「五感に響く」展示を行う。

〔参考〕竹中大工道具館 <https://www.dougukan.jp/>

博物館の可能性研究会（2023）「地方自治体、コミュニティ、博物館向けハンドブック 博物館の可能性—持続可能な未来を推進する地域発展のために—」

No.41 なら歴史芸術文化村（奈良県天理市、2021年開館） 分類：収蔵

● 施設を利用して研究を行う研究者のための宿泊施設

- 歴史、芸術、食と農など、奈良県の誇る文化に触れることができる施設。
- 日本で初めてとなる文化財4分野（仏像等彫刻、絵画・書跡等、建造物、考古遺物）の修理作業現場の公開や、国内外から招いたアーティストとの交流、子どもを対象としたアートプログラムなどを実施。
- 文化財修復・展示棟では、4分野の修復工房を1階とB1階にて通年公開している。パネルと映像で修理の工程や技術をわかりやすく解説。
- 1階デジタルギャラリーでは奈良県内の文化財に関する動画アーカイブと、奈良県が所蔵する建造物の図面などのデータベースを自由に閲覧できる。

〔参考〕なら歴史芸術文化村「文化財修復・展示棟とは」<https://www3.pref.nara.jp/bunkamura/restoration/>

No.42 鳥取県立美術館（鳥取県倉吉市、1984年開館） 分類：持（コスト）

● PFI（BTO）方式 官民の部門分担

- 鳥取県立博物館の美術分野を母体として新設される。学芸部門は県、一部展示会は民間が実施する。2025年春にオープン予定。
- 経営戦略会議に民間事業者の統括マネージャーが参加することとなっている。

〔参考〕山崎新太（2022）「博物館における官民連携手法の効果的な導入」https://www.bunka.go.jp/gyoji/pdf/93743401_05.pdf

No.43 北栄みらい伝承館(北条歴史民俗資料館)（鳥取県北栄町、2021年開館） 分類：持（もの）、収蔵

● 資料との「お別れ」に取り組む

- 収蔵庫がいっぱいになったことから、収蔵品の民具562点の除籍または希望者への譲渡を前提に「お別れ展示」を開催し、473点を譲渡した。
- 除籍に当たって資料収集方針を新たに定め、除籍規定を項目として加えた。除籍の考え方は以下の通り。
 - ・ 広域的な特徴を表す資料などで他の機関へ譲渡することにより学術的な価値がさらに高まり、広域的な研究の推進に繋がる場合や教育普及活動などに活用される場合
 - ・ 整理・保存の取り組みにより、展示・調査研究が困難な劣化及び同種同等以上の資料が確認できた場合
- 譲渡した後の活用状況についてはアンケートを行い、6割弱から回答を得た。

〔参考〕第18回文化資源学フォーラム報告書「コレクションを手放す 譲渡、売却、廃棄」
https://www.l.u-tokyo.ac.jp/CR/pdf/forum18_report.pdf

No.44 徳島県神山町 神山アーティスト・イン・レジデンス（徳島県神山町、1999年スタート） 分類：持（人）

自然と住民との出会いから 創意あふれる作品を紡ぐ

- 神山アーティスト・イン・レジデンスは、1999年からスタートした国際的なアート・プロジェクト。毎年8月末から約2か月余りの期間、日本国内および海外から3名～5名のアーティストが神山町に滞在。作品を制作し、毎年10月下旬から作品展覧会を開く。
- 異なる環境や文化、地元の人々との交流によって、アーティストは新しい着想を得て、地域住民は材料調達や生活面の支援を通じて新たな価値観に気づく。

〔参考〕「in Kamiyama」<https://www.in-kamiyama.jp/art>

博物館の可能性研究会（2023）「地方自治体、コミュニティ、博物館向けハンドブック 博物館の可能性—持続可能な未来を推進する地域発展のために—」

No.45 徳島県立博物館（徳島県徳島市、1990年開館 2021年リニューアル） 分類：持（もの）

● インクルーシブな博物館のあり方をめざして

- インクルーシブデザイン、展示評価の両ワークショップを通じて、展示内容の方向性確認と体験展示の検証、ユニバーサルデザインの実施を行い、「地域の顔」としての博物館を念頭に、新たに作られる「コミュニケーションゾーン」から「ミュージアムストリート」をめぐるなかで、学芸員と来館者、来館者同士が資料（モノ）をとおして対話や交流を大切にする展示とした。
- 学芸員と協議の上、展示内容の総入れ替えを行うとともに、インクルーシブデザイン、展示評価の両ワークショップを通じて、展示内容の方向性の確認と体験展示の検証、ユニバーサルデザインの実施を行い、「地域の顔」としての博物館づくりとともに、「コミュニケーションゾーン」を中心に、「ミュージアムストリート」から各展示コーナーをめぐる動線の整理により、単なる一方通行動線から部分的選択動線を採用した。

No.46 高知県立高知城歴史博物館（高知県高知市、2017年開館） 分類：持（人）

● 博物館の使命としての地域連携

- 使命として保存、教育普及、調査研究、展示公開という博物館の基本的機能と並列する形で地域連携・観光振興を掲げている。
- 地域連携を担当する地域企画課を設けて、地域と博物館の協働に携わる企画員、学芸員、調査員を配置している。

〔参考〕高知県立高知城歴史博物館 年報 第8号

<https://www.kochi-johaku.jp/wp-content/uploads/2024/07/6e0e5eafd511b3b9c1594c632a4b3335.pdf>

博物館の可能性研究会（2023）「地方自治体、コミュニティ、博物館向けハンドブック 博物館の可能性—持続可能な未来を推進する地域発展のために—」

No.47 福岡市科学館（福岡県福岡市、1999年開館） 分類：持（コスト）

● 内装PFI 再開発と一体となった地域の活性化・賑わいの創出

- 九州大学六本松キャンパスの移転に伴う跡地再開発事業において建設された複合ビルに、福岡市がテナントとして入居・構築した科学館。
- 構築に際して日本で初めての内装PFI（内装・設備設計、工事、運営、維持管理業務など）が実施された。
- 民間ノウハウの活用によりサービスの向上を図るほか、周辺の再開発と一体となって地域の活性化に貢献している。

〔参考・引用〕NTTファシリティーズ一級建築士事務所「福岡市科学館」

<https://www.ntt-f.co.jp/architect/building/fukuokashi-kagakukan.html>

No.48 福岡市博物館（福岡県福岡市、1981年開館） 分類：持（人）

● 民間企業（SPC）との連携、官民の部門分担

- リニューアルにあたり、教育普及活動の接客や広報などの定型的業務はSPCに任せる運営体制を計画するとともに、資料管理や展示の企画などの学芸業務は市直営とし、社会状況の変動に左右されずに博物館業務を継続できる運営体制を計画している。

No.49 福岡市美術館（福岡県福岡市、1979年開館） 分類：持（コスト）

● PFI（RO）方式

- 民間の資金やノウハウ・技術力を活用して公共施設などを整備し、運営するPFI方式を採用。
- 美術館の根幹となる「美術品の収集・保存」、「展覧会の企画・開催」、「教育普及」などの業務については、公共が実施。従前の施設の維持管理業務に加え、「広報集客業務」、「施設の貸出」などの業務については民間。

〔参考引用〕 福岡市美術館<https://www2.panasonic.biz/jp/solution/museum/works/fukuoka-art-museum.html>
内閣府ホームページhttps://www8.cao.go.jp/pfi/pfi_jouhou/jireishuu/pdf/559.pdf

No.50 熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設KIOKU（熊本県阿蘇郡南阿蘇村、2023年開館） 分類：持（もの）

● 施設のテーマを一望する建築

- 震災遺構が周囲に残された立地であることを踏まえ、体験を建物の中だけに閉じず、風景に呼応したおらかな屋根をかけることで、訪れる人がそれぞれの方法で考えることを促すミュージアムを目指した。
- 建築は流れるような平屋の屋根を、敷地を横切るようにかけている。屋根の稜線が風景を切り取るフレームとなり、建物の内にも外にも、敷地外の遺構や阿蘇の風景を印象的に感じられるような計画とした。

〔参考・引用〕 くまもとアートポリス事務局「熊本地震震災 ミュージアム 体験 ・ 展示施設」
<https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/238297.pdf>

No.51 熊本市現代美術館（熊本県熊本市、2002年開館） 分類：持（もの）

● 繁華街の複合ビルにある創造と交流の場

- 市街地の再開発に合わせて2002年に開館。複合ビルには美術館のほかにホテルや百貨店、生涯学習プラザなどがある。
- 立地を活かし、気軽に立ち寄れる市民に親しい美術館となっている。
- 企画展を行うメインギャラリー以外は無料であり、特にホームギャラリーは8千冊の書籍を自由に閲覧することができる。
- 子どもの遊具や絵本が充実している「街なか子育てひろば」は地域子育て拠点施設として子育てアドバイザーに相談できる。
- ショップ&コミュニティスペース「ART LAB MARKET」をクラウドファンディングによってリニューアル。館長を中心に行われる地域社会でのアートに関するリサーチ・実験である「ご用聞き」と併せて、文化芸術拠点としての美術館のあり方を探っている。

〔参考〕 熊本市現代美術館：<https://www.camk.jp/>
令和4年度InnovateMUSEUM事業事例集
博物館の可能性研究会（2023）「地方自治体、コミュニティ、博物館向けハンドブック 博物館の可能性—持続可能な未来を推進する地域発展のために—」

No.52 臼杵市文化財管理センター （大分県臼杵市、2015年開館） 分類：持（もの）、収蔵

● **教室を収蔵庫へリノベーション**

- 地域の廃校を収蔵庫・展示室へリノベーションし、収蔵庫内装や鋼製扉が整備された収蔵庫を増設する。
- 臼杵市内全域を対象とした発掘調査で出土された遺物を整理・保管する、文化財の管理施設。また臼杵市の管理する文化財（主に美術工芸品や歴史資料）の保存施設。

Ⅱ 収蔵庫調査

収 蔵 庫 調 査 報 告 書

1 調査概要

1-1 調査の趣旨

本調査は、山形県立博物館（以下「県立博物館」という。）に収蔵されている資料の規模を把握し、新博物館に必要な収蔵庫の規模や仕様の概略を、今後の資料増加を踏まえて示すことを目的とする。

1-2 調査の方法

(1) 収蔵庫内計測調査（2024年10月～12月）

県立博物館の収蔵庫について、収蔵棚や資料等の採寸を行い、現在の面積数値（㎡）を算出し、現状の把握と課題の分析を行う。

(2) 分野別ヒアリング調査（2024年10月～12月）

県立博物館の各分野の学芸員（地学、植物、動物、考古、歴史、民俗、教育）に対して、①収蔵資料の特性と数量、②過去数年の寄贈・収集で増えた資料の増加率、③現在の収蔵庫の課題または新博物館の収蔵庫への要望、④収蔵資料の登録・管理（コンディションチェックや台帳との突合せ、温湿度データ）の状況等についてヒアリング調査を実施する。

(3) 収蔵庫事例調査（2024年7月～12月）

新博物館の収蔵資料の効果的・効率的な管理や将来的な増加への対応について手法の整理と分析を行うため、資料調査（公開データの収集及び分析）及び「Ⅰ 他県における持続可能な設置事例調査」において収集した先進事例の中から図表1の博物館を選定し、ヒアリング調査を実施する。

また参考として、収蔵庫に適切な仕様・性能は、収蔵庫メーカーへのヒアリングを実施し、全国の事例や実績を踏まえた推奨案を検討する。

図表1 資料調査及びヒアリング調査の対象博物館

	運営	施設名	館種	開館年度
資料調査	県立	栃木県立博物館	総合	1982年（2020年増築）
	県立	兵庫県立人と自然の博物館	自然	1992年（2022年増築）
	市立	松本市立博物館	総合	2023年（移転改築）
	県立	なら歴史芸術文化村	人文	2022年
	市立	臼杵市文化財管理センター	人文	2015年
	市立	砺波民具展示室	人文	2015年
	町立	北栄みらい伝承館	人文	1990年
	財団	アーティゾン美術館	人文	2020年
ヒアリング調査	市立	福岡市博物館	人文	1990年
	県立	長崎歴史文化博物館	人文	2005年
	県立	熊本博物館	総合	1977年
	道立	北海道博物館	総合	2015年
	(大学)	北海道大学総合博物館	総合	1999年

※ヒアリング調査の施設詳細は「Ⅰ 他県における持続可能な博物館の設置事例調査」参照

2-1 県立博物館収蔵庫の状況

県立博物館では、本館の収蔵庫のほか、村山総合支庁北庁舎、天童市の倉庫を外部倉庫として間借りし、約30万5,000点の資料を収蔵している。

図表2 県立博物館収蔵庫の状況

施設名	所在地	面積	状況
県立博物館 本館	山形市	353.1㎡※1	- 各分野にて収蔵庫が分かれており、資料の種類別に収蔵されている。当初建設時に収蔵庫と定められた諸室から、全体的に資料が溢れている状況であり、別部屋等も活用している。特に民俗資料は、トラックヤード横に設けた一時収蔵庫にも収蔵している。 - 収蔵資料は、データベース化されているものが多いが、一部台帳での管理が行われている。また、直近数年間に新たに収蔵した資料については、データベース化されていないものが多い状況である。
外部倉庫1	村山市	259.9㎡	教育資料館の資料や業務書類など4室に書籍関係を中心とした資料を収蔵している。書棚に収容されている資料は検索可能であり、箱に収容されている資料は箱単位で検索が可能となっている。
外部倉庫2	天童市	675.6㎡	民俗の大型資料や考古、地学、動物資料を収蔵しており、資料の出入回数は数か月に1～2回程度となっている。空調の関係から収蔵可能な資料に限られる。

※1 令和6年度 山形県立博物館 館報「施設の概要 (p.22)」から各分野の収蔵庫の面積を参照している。よって、作業室、燻蒸室、一時収蔵庫等は面積には含んでいない。

2-2 収蔵資料面積の状況

1-2 (1) 収蔵庫内計測調査の結果、現在の県立博物館及び外部倉庫の収蔵面積及び収蔵資料面積は図表3のとおりとなった。

収蔵庫面積は、本館の353.1㎡と外部倉庫の935.5㎡を合わせて1,288.6㎡、収蔵資料面積（全ての収蔵資料を重ねずに一面に並べた面積）は1,660.0㎡となった。収蔵資料面積は、県立博物館本館の収蔵庫353.1㎡と比較すると約4.7倍となる。

図表3 収蔵庫面積及び収蔵資料面積

単位：㎡

収蔵資料 の分野	民俗	考古	植物	歴史	地学	動物	小計	教育	合計
(A) 県立博物館本館※1	83.0	49.8	46.5	29.9	46.4	97.5	353.1	—	353.1
(B) 外部倉庫	外部倉庫2 (243.6㎡/1階+241.8㎡/2階+190.2㎡/3階) 民俗、考古学、動物資料で臨時スペースとして使用						675.6	外部倉庫1 259.9	935.5
(A) + (B)	—						1,028.7	259.9	1,288.6

現在の収蔵 資料面積※2	249.0	182.0	215.0	73.0	318.0	456.0	1,493.0	167.0	1,660.0
-----------------	-------	-------	-------	------	-------	-------	---------	-------	----------------

※1 令和6年度 山形県立博物館 館報「施設の概要 (p.22)」から各分野の収蔵庫の面積を参照している。よって、作業室、燻蒸室、一時収蔵庫等は面積には含んでいない。

※2 博物館に収蔵されている資料（館外に保管されている資料を含む）を、積み重ねず一面に並べた場合の延床面積（㎡）。延床面積（㎡）は、資料単体、また資料が保管されている棚、収蔵箱の面積の合計値である。

2-3 分野ごとの特性

1-2 (2) 分野別ヒアリング調査の結果を踏まえ、分野ごとに収蔵資料の特性や収蔵庫に必要な特殊性等を図表4のとおり整理する。

収蔵資料は、温湿度変化に影響を受けやすいかどうかで評価を行い、特に影響を受けやすく、内装の性能・仕様として特段の配慮が推奨されるものを「◎」、それ以外のものを「○」と分類する。歴史分野、動物分野、植物分野、および一部の考古分野（有機質遺物）、民俗分野（古文書、美術工芸など）の資料は、他分野の資料と比べて劣化しやすいため、今後の収蔵庫設計にあたり、特に適切な性能・仕様を検討する必要がある。

また歴史・教育分野の資料は、文書系資料と実物資料（額、刀剣、ピアノ）などの特性に合わせた収蔵什器が必要になることや、民俗分野の資料では、資料により大きさがバラバラであること、考古・地学分野では重量物への対応が必要になることなど、各分野の資料はそれぞれ特性が異なるため、収蔵棚等の仕様や性能についても十分に検討し、適切に設計する必要がある。

図表4 収蔵分野ごとの特性と特殊性能等

分野	県立博物館が所蔵する収蔵資料の主な種類	温湿度変化に影響を受けやすい評価（○＜◎）	性能・仕様（推奨）	分野別の特殊性能・与件
歴史	文書、古文書、額装、掛軸、刀剣	◎	主に温湿度変化の影響を受けやすく、傷みやすいものに適する内装仕様 【内装A案】	・文書系資料と、実物資料（額・刀剣）の特性に合わせた収蔵什器が必要。
動物	哺乳類、昆虫、魚類・両生類（剥製、標本、液浸標本、骨格標本）	◎		・移動棚等の収納面積を最大限に有効活用できる仕組みが望ましい。 ・液浸標本は、厳格な温湿度管理が不要なため別室に分けることも可能。
植物	植物標本（さく葉標本、キノコ類）	◎		・各年の分類群の更新・変更により、収蔵する棚の下部半分は空けておくことが必要（推奨）。
考古	土器、石器、土製品、鉄製品、木製品などの有機質遺物	○ ※一部◎		・テンバコ収納時に、資料を入れた箱が重なっていると下段は取り出すことが困難。
地学	岩石、化石、貝類、現生標本	○	主に温湿度変化の影響を比較的受けにくいものに適する内装仕様 【内装B案】	・引き出しに収納可能なものが多い一方、大型の資料は不定形で重い。資料を入れた箱が重なっていると下段は取り出すことが困難。
教育	書籍、紙資料、教育に関わる道具	○		・文章系資料と、実物資料（ピアノ等）の特性に合わせた収蔵什器が必要。
民俗	民具、古文書、美術工芸（紙、布、木、わら、竹、鉄や焼物等）	○ ※一部◎		・資料の大小の差が極めて大きい。引き出しに入れた資料は可視化されず、通気性が悪い。

（参考）メーカー推奨される内装案

【内装A案】床：鋼製床組+木質系不透湿板 t 15+フローリング t 15

壁：木質系不透湿板 t 12+無機質系中性調湿板 t 8（キュアライトS）

天井：木質系不透湿板 t 12+無機質系中性調湿板 t 8（キュアライトS）

・空調停止時などで温湿度変動が生じた場合、内装B案と比較すると温湿度変化が小さくなる仕上げ

【内装B案】床：鋼製床組+木質系不透湿板 t 15+ラワン合板 t 12+長尺シート t 2

壁：木質系不透湿板 t 12+無機質系中性調湿板 t 8

天井：木質系不透湿板 t 12+調湿ロックウール化粧吸音板 t 9

2-4 他館における収蔵庫の状況

1-2 (3) 収蔵庫事例調査において、本県の収蔵庫の規模・仕様等の検討の参考となるものについて、下記のとおり整理する。

(1) 収蔵庫の規模・仕様等の決定方法

- ① 北海道大学総合博物館では、2016年の耐震改修とそれに伴うリニューアル時に、分野ごとに向こう30年分の標本資料増加を加味した収蔵面積を割り当てたが、一部の分野では資料の増加ペースが想定を大きく上回っている。
- ② 長崎歴史文化博物館では、絵画などの古文書・木材と金属・陶磁器類では適した湿度が異なるため収蔵庫を分けており、それぞれ資料に適した収蔵環境で保管している。
- ③ 栃木県立博物館、兵庫県立人と自然の博物館、松本市立博物館、なら歴史芸術文化村では、内装仕様として、吸放湿性能及び環境性能に優れた調湿パネルや、空調停止時や外的要因で温湿度が変動した場合でも温湿度安定性が極めて高い素材を採用している。

(2) 開館時からの収蔵品の変化と増加率、収蔵庫不足への対応

- ① 写真や映像フィルムなど、一般的な資料保存環境管理よりもさらに繊細な保存条件を要する資料が増えており、種別に応じた収蔵室を整備することが望ましい。また近年の温暖化などの気候変動により、過去30年間を対象とした「平年」の気象条件よりも厳しい外気環境（夏期の温湿度上昇）や風雨・風雪の災害を想定することが望ましい。
[北海道博物館]
- ② 増加対策は、各分野で収集基準を定めて、それを順守し受け入れ・寄贈を受けることが望ましい。例）熊本市域のもので今後展示の活用が見込めるもの [熊本博物館]
- ③ 「みせる収蔵庫」の設置は、「展示普及」と「収蔵」のハイブリッドの面がメリットだが、「収蔵」という面では資料が置けるスペースが限られ、使い勝手が良くないことが想定されるため目的をしっかりと検討すべき。 [熊本博物館]
- ④ 熊本県博物館ネットワークセンターは、1996年に策定された「県立博物館基本構想」に基づく立地で、運転免許試験会場だった建築を改築して収蔵庫として活用している。
- ⑤ 臼杵市文化財管理センターでは、地域の廃校^{うすき}を収蔵庫・展示室へリノベーションし、発掘調査で出土した遺物を整理・保管している。砺波市^{となみ}では、現役の小学校のフロアを使用し、国の重要民俗文化財を含む民具を収蔵する展示室（砺波民具展示室）を整備している。
- ⑥ 北栄みらい伝承館（北条歴史民俗資料館）では、収蔵庫が満杯になったことから、収蔵品の民具の562点の除籍または希望者への譲渡を前提に「お別れ展示」を開催し、473点を譲渡した。

(3) 収蔵庫の機能性やエネルギーコスト等における特徴

- ① 収蔵庫内の通信インフラ環境を整えることが望ましい。例）収蔵資料データベースにアクセス可能とし登録作業を行えるようにする。全ての収蔵室内の温湿度データを一元的に監視・記録できるシステムを導入し、時間外や休館日でも担当者のスマートフォンから監視可能としている。 [北海道博物館]
- ② 松本市立博物館や栃木県立博物館では、収蔵庫の壁を二重構造にすることで、空気環境の急変を防ぎ、空調設備費などのエネルギーコストを削減している。
- ③ アーティゾン美術館では、収集・保管機能を東京都郊外のアトリサーチセンターに設置し、展示・公開機能を東京駅に近い美術館に分離している。

3 収集・保管施設面積の試算

博物館の収集・保管機能を有する施設(以下「収集・保管施設」)は、収蔵資料を保管する収蔵庫と、トラックヤード、荷解き室、前室などの諸室(以下「作業室等」)に分けられる。

ここでは、①現在の収蔵資料を適切に保管するために必要な収蔵庫面積、②収蔵資料の増加に対応するために必要な収集・保管施設の面積、③収蔵庫設備の単価について試算する。

また、試算結果は、「Ⅲ 事業費シミュレーション調査」において使用する。

3-1 適切な保管に必要な収蔵庫面積

2-2で調査した収蔵資料面積に基づき、現在の収蔵資料を適切に保管するために必要な収蔵庫面積を試算する。試算方法は、分野ごとに必要な収蔵棚や室内通路を含む収蔵庫レイアウト(付表2)を作成し、その面積を算出する。

試算の結果、現在の博物館の収蔵資料を適切に保管するために必要な面積は1,848.4㎡となる。外部倉庫を利用しない場合、県立博物館本館の収蔵庫353.1㎡の約5.2倍の面積が必要となる。収蔵庫面積は、収蔵資料を保管する収蔵棚やテンバコ等の配置スペースのほか、通路や作業スペースが必要なことから、収蔵資料面積よりも大きくなる。

付表2 適切な保管に必要な収蔵庫レイアウトより抜粋した延床面積(凡例:横×縦)

※図表5には、小数第2位を繰り上げて記載。

民俗: 31.420m × 17.050m = 535.71㎡	考古: 7.340m × 14.910m = 109.43㎡
植物: 14.815m × 12.460m = 184.59㎡	歴史: 6.271m × 13.260m = 83.15㎡
地学: 12.525m × 17.725m = 222.00㎡	動物: 22.550m × 18.765m = 423.15㎡
教育: 15.840m × 18.310m = 290.03㎡	

図表5 適切な保管に必要な収蔵庫面積

単位: ㎡

	民俗	考古	植物	歴史	地学	動物	教育	合計
収蔵資料面積※ ¹	249.0	182.0	215.0	73.0	318.0	456.0	167.0	<u>1,660.0</u>
適切な保管に必要な収蔵庫面積※ ²	535.8	109.5	184.6	83.2	222.0	423.2	290.1	<u>1,848.4</u>

※¹ 博物館に収蔵されている資料(館外に保管されている資料を含む)を、積み重ねず一面に並べた場合の延床面積(㎡)。延床面積(㎡)は、資料単体、また資料が保管されている棚、収蔵箱の面積の合計値である。

※² 収蔵資料面積に対して収蔵棚や収蔵箱等を活用し、適切に保管する場合に必要な収蔵庫面積(㎡)。

3-2 収蔵資料の増加に対応するために必要な収集・保管施設の面積

1-2(2)分野別ヒアリング調査の結果、県立博物館では、収蔵品の収集方針・基準(コレクションポリシー)を見直している一方で、外部からの寄贈品などの受入れに対して、各担当者の裁量によって柔軟に対応しており、今後も収蔵品の増加が見込まれる。

この状況を踏まえ、現状の受入れ状況を前提に、今後必要となる収蔵資料面積及び適正な保管のために求められる収蔵庫面積を試算する。

(1) 1年間で増加する必要な収蔵庫面積

県立博物館の建設時の収蔵庫面積353.1㎡(図表3)に対して、現在の資料を適切な保管に必要な収蔵庫面積は1,848.4㎡(図表5)であることから、必要な収蔵庫面積は、開館からの53年間で1,495.3㎡、1年間に28.2㎡増加したことになる。

図表 6 1年間で増加する必要な収蔵庫面積

単位：㎡

	民俗	考古	植物	歴史	地学	動物	教育	合計
収蔵庫面積(a) ^{※1} (1971年)	83.0	49.8	46.5	29.9	46.4	97.5	—	353.1
適切な保管に必要な 収蔵庫面積(b) ^{※2}	535.8	109.5	184.6	83.2	222.0	423.2	290.1	1,848.4
53年間の増加面積 (c)=(b)-(a)	452.8	59.7	138.1	53.3	175.6	325.7	290.1	1,495.3
1年間の増加面積 (c)/53年	8.5	1.1	2.6	1.0	3.3	6.1	5.5	28.2

※1 令和6年度 山形県立博物館 館報「施設の概要 (p.22)」から各分野の収蔵庫の面積を参照している。よって、作業室、燻蒸室、一時収蔵庫等は面積には含んでいない。

※2 収蔵資料面積に対して収蔵棚や収蔵箱等を活用し、適切に保管する場合に必要な収蔵庫面積(㎡)。

(2) 作業室等の面積

公開データから面積が確認できる他県の都道府県立博物館の平均値から作業室等の面積を算出すると480.0㎡となる。

図表 7 他県の都道府県立博物館における収集・保管施設の面積

単位：㎡

施設名	収集・保管施設面積(a)	収蔵庫面積(b)	作業室等(a-b)
岩手県立博物館	2,084.0	1,822.0	262.0
三重県総合博物館	2,803.0	2,281.0	522.0
滋賀県立琵琶湖博物館	5,128.0	4,472.0	656.0
平均面積	3,339.3	2,858.3	480.0

(3) 収蔵資料増加の想定年数

三重県総合博物館の事例を参考として、開館10年後までの収蔵資料の増加を見込み、試算を行う。

(4) 開館10年後に必要な収集・保管施設の面積

(1)から1年間で増加する必要な収蔵庫面積を28.2㎡とすると、開館10年後(2024年から20年後)に必要な収集・保管施設の面積は2,892.4㎡となる。

図表 8 開館10年後の収集・保管施設の面積

単位：㎡

事業年数 (現在からの経過年数)	2024年 (0年)	2025年 (1年)	2034年 (10年/開館)	2044年 (20年/開館10年後)
資料増加に対応するため 必要な収蔵庫面積	1,848.4	1,876.6	2,130.4	2,412.4
作業室等の面積 (他館平均)	480.0	480.0	480.0	480.0
合 計	2,328.4	2,356.6	2,610.4	2,892.4

3-3 収蔵庫設備の単価

収蔵庫設備の単価は、収蔵庫内装と収蔵棚に分けて設定する。

(1) 収蔵庫内装の単価

2-3で設定した（参考）推奨される内装A案・B案をもとに単価を算出すると、A案では40.0万円/㎡、B案では35.1万円/㎡、平均で37.5万円/㎡となる。

なお、収蔵庫メーカーの2025年2月時点の金額を採用しているため、今後に物価高騰などの社会的影響を受ける可能性があるため留意事項とする。

図表9 収蔵庫内装の単価設定

内装 仕様	単価 (万円/㎡)	備 考
内装 A案	40.0	※鋼製床組はSL～FLH200mm、 耐荷重500kg/㎡の条件設定 ※壁天井軽鉄下地は、建築工事設定 ※施工面積300㎡以上の条件で単価設定 ※税込価格
内装 B案	35.1	
平均単価	37.5	

（参考）メーカー推奨される内装案

【内装A案】床：鋼製床組+木質系不透湿板 t 15+フローリング t 15

壁：木質系不透湿板 t 12+無機質系中性調湿板 t 8（キュアライトS）

天井：木質系不透湿板 t 12+無機質系中性調湿板 t 8（キュアライトS）

・空調停止時などで温湿度変動が生じた場合、内装B案と比較すると温湿度変化が小さくなる仕上げ

【内装B案】床：鋼製床組+木質系不透湿板 t 15+ラワン合板t12+長尺シートt2

壁：木質系不透湿板 t 12+無機質系中性調湿板 t 8（キュアライトS）

天井：木質系不透湿板 t 12+調湿ロックウール化粧吸音板t9

(2) 収蔵棚の単価

付表2で設定した適切な保管に必要な収蔵庫レイアウトをもとに、付表3のとおり収蔵庫什器を設定して単価を算出すると、平均で31.5万円/㎡となる。

なお、収蔵棚メーカーの2025年2月時点の金額を採用しているため、今後、物価高騰などの社会的影響を受ける可能性があるため留意事項とする。

図表10 収蔵棚の単価設定

分野別 仕様	単価 (万円/㎡)	備 考
民 俗	47.5	※税込価格
考 古	15.8	
植 物	31.1	
歴 史	21.3	
地 学	28.6	
動 物	66.0	
教 育	10.3	
平均単価	31.5	

(1) 適正な収蔵庫規模の検討

現在の収蔵資料を適切に保管するために必要な収蔵庫面積は1,848.4㎡と算出された。一方、外部倉庫を含む収蔵庫面積は1,288.6㎡であり、逼迫した状況にある。また、今後さらなる収蔵品の増加が見込まれており、計画的な収集・保管を行う必要がある。

県立博物館の移転整備に際しては、適切な保管環境を確保するため、適正規模の収蔵庫を整備することが求められる。適正規模の決定には、今後の収蔵資料の受入方針、新博物館の敷地面積、収蔵庫建設に係る費用や維持管理費などを総合的に勘案する必要がある。

また、収蔵庫は24時間体制で温湿度管理を行うため、電気料金や保守管理費などの維持管理コストの増大が想定され、財政負担の軽減や省エネ対策、再生可能エネルギーの導入を検討することが課題となる。

(2) 最適な収蔵環境の整備

県立博物館では7分野で資料が収蔵・整理されており、中には温湿度の変化に影響を受けやすい資料も含まれており、適切に保管・活用できる収蔵環境を整備することが求められる。他県事例を参考にしながら、民間事業者の専門的知見を活用し、収蔵庫の規模や収蔵資料に適した内装の性能・仕様や、業務効率化に資する通信インフラ環境を検討することが望ましい。

また、速やかに収蔵資料の整理やデータベース化を進めるとともに、収蔵環境の最適化に向けた継続的なモニタリングと改善施策を実施することが重要になる。

(3) 地域の文化財の保存と継承

全国の博物館では、供用期間内に収蔵庫が逼迫するケースが見受けられる。緊急の寄贈や受け入れが発生することで、当初の計画時に試算した面積との乖離が生じる可能性があることにも留意する必要がある。

県立博物館には、後継者不在となった地域の文化財の受け皿としての役割が期待されているが、一方で、収蔵庫の容量には限界があるため、他県の事例を参考にしながら、除籍規定を含む新たな資料収集方針の策定が必要となる。

他県では、収蔵品（民具）の除籍や希望者への譲渡を前提とした「お別れ展示」を開催することで、収蔵庫の逼迫を防ぐ取り組みが行われている。県立博物館としても、他県事例の取り組みを参考にしながら、資料収集に係る方針や基準を明確に定めることが課題となる。

また、地域の文化財については、地域の文脈を重視し、文化財保護行政を担当する市町村の教育委員会と連携した対応を図る必要がある。

(4) 博物館の魅力創造と持続可能性の両立

他県の事例では、展示・公開機能を主要駅の周辺に配置することで利用者数の増加につなげた事例や、収集・保管機能を展示・公開機能と分離し、収蔵スペースを確保することで増加する収蔵品に対応した事例がある。

人口減少が進む中で、持続可能な博物館運営を行うためには、集客に特化した施設と収蔵に特化した施設を分けるなど、柔軟な発想で博物館の構想を検討する必要がある。

付表 1 分野別ヒアリング調査結果

ヒアリング項目

- 1 現博物館に収蔵されている資料の特性と数量について
- 2 過去数年の寄贈・収集で増えた資料の増加率について
- 3 現博物館の収蔵庫に対する課題、または新博物館の収蔵庫への要望について
- 4 収蔵資料の登録・管理（コンディションチェックや台帳との突き合わせ、温湿度データ）の状況

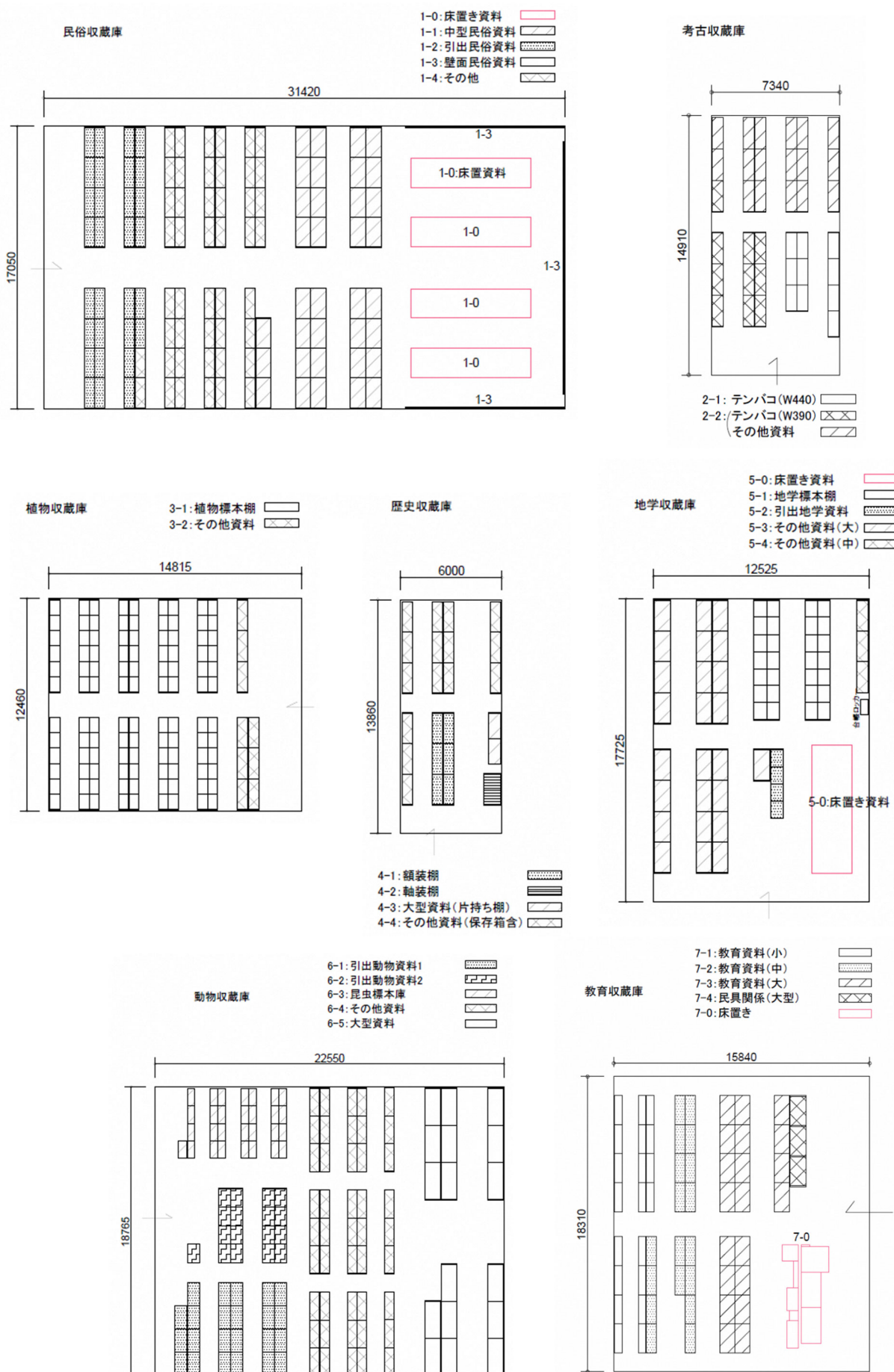
分野	項目	主な内容
歴史	1	・収蔵資料数27,664点のうち、登録資料25,973点、未登録資料1,691点。 ・資料特性は文書資料（古文書）が中心で、絵図・絵画資料、書籍・雑誌類、写真、実物資料、その他（未分類）の構成。紙資料だけではなく、掛軸、屏風、看板、刀剣、コインなどの収蔵資料を保管している。※文書資料がおよそ23,925点で半数以上を占めている。
	2	・過去3年間の寄贈資料点数は合計243点。文書資料から刀剣などを含む実物資料を受け入れている。資料の受け入れについては、文書箱ごと年5箱程度を目安としているが、額、刀剣等の受け入れがあった場合はその限りではない。※収蔵資料数の約0.9パーセントに相当する。
	3	・古文書は文書箱に収め、整理整頓に努めているが、掛軸や額、屏風などはその形状から箱に入れて保管するのが難しい。また、絵画・古地図などの折り曲げられない資料は、横置きする棚が必要。それぞれの形状に合わせて収蔵場所を作ってほしい。 ・歴史収蔵庫は、文献室の隣にあり、気候の影響を受けやすい。そのため、年間を通して温湿度が安定しない。冬季は乾燥して低温低湿、逆に夏は高温高湿になりやすく、文書など紙資料の保管に適した環境としては疑問。年間を通して一定の環境が保てるようにしたい。また収蔵庫は廊下で囲まれた建物の内側に設置して、外気の影響を抑えたい（参考：福島県立博物館）。また温湿度の点検も遠隔で自動的に記録できるほうが良い。（参考：松本市立博物館） ・現在、研究室は通路を挟んで反対側にあり、調査研究の度に外に持ち出す必要がある。燻蒸や温湿度管理など資料を保存する観点から考え、前室や調査用テーブルを設けて収蔵内で資料調査が行えることが望ましい。また、通路が狭く資料の出し入れが困難なため、台車が通れて積み下ろし作業ができる幅の通路が必要。 ・浮世絵（錦絵）や引き札は、歴史分野・民俗分野ともに収蔵している。こうした紙媒体の資料は保存に適した環境が同じである。民俗分野が収蔵する民俗資料は、温湿度など保存環境が異なるものもある。以上のことから「分野別の収蔵」という従来の考えから「保管環境が同じ資料を収蔵」する考えを検討してはどうか。
	4	・管理の状況は、1年毎に防虫剤を入れ替えし、文書等を管理している。温湿度は、出勤時に点検・記録を行っている。分野ごとに整理・管理方法がバラバラなため将来的に統合が必要。 ・台帳整理は開館時（1971年）に紙媒体による台帳を作成。以降は寄贈手続きの書類（コピー）を補完して管理。平成23年ごろから「ファイルメーカー」に台帳の情報を入力（震災に伴う緊急雇用の活用）。台帳の整理業務が必要なため、登録資料の新規入力は滞っている状態である。
動物	1	・哺乳類、魚類、両生類、昆虫など収蔵しており、現在の登録資料は4万点であるが、未整理資料が何点あるかは現在整理をしている段階である。
	2	・年間、学芸研究業務内で収集するものが20点、加えて寄贈など資料の受け入れがある。剥製から昆虫など大きさがバラバラであるが、年間30点～40点をベースに、イレギュラーな対応が各年で生じる可能性が考えられる。 ・高校の廃校に伴う受け入れで県立博物館へ連絡が入る。
	3	・現在、収蔵棚の上にも資料が配架されている状況から、スペースを出来るだけ確保できるように移動棚等の設備があると良いのではないかな。
	4	・過去3年間は登録作業を行っていないため棚卸し作業が必要である。 ・動物分野全体として温湿度環境の種類を変更する必要はない。ただし、液浸標本は、その他の動物標本と比較して厳格な温湿度管理を必要としないため、別室に分ける考え方もあり得る。 ・哺乳類・鳥類の剥製や昆虫標本などは特にカビが生えやすく、夏季に湿度が60%に迫るのは現状大きな課題になっている。

分野	項目	主な内容
植物	1	・さく葉標本がメインで、資料のスケールはA3より少し大きいくらいで規格が揃っている。 ・東北圏では植物標本は最も多く、古いものでは大正時代の資料がある。 ・データベース上は75,000点だが、データベースと対応取れているものは70,000点。登録できていない40,000点が収蔵棚の上に積み上げられていて、そこに今年度中に20,000点の資料が入ってくる。 ・分類は館によってスタイルが変わるが、山形県博は和名基準になっている。近年では分子系統学に基づく分類が行われているが、まだ山形県博は対応できていない。 ・植物標本とキノコ等の標本は分ける館もあるが、温湿度環境は同一で問題ない。動物の剥製が維持できる環境であれば植物標本の保存環境としては十分であり、自然系標本は一体的に管理することが可能だと考えている。 ・極端な変動がなければ問題なく、湿度は30%～60%程度まで耐えることができる。勤務時には52%を超えるときには除湿をかけている。
	2	・基本的には年間で1,000点あるかどうかという増加率。100点前後の年もある。大規模に増えていないため、まだ収蔵庫内で賄えているという状況。今年度はレアなケースがあり、庄内から2万点の資料が入る予定。古い資料が見つかった場合と、現在の標本を収集している研究者からの寄贈の場合には一気に増加する場合がある。
	3	・温湿度環境は、本来、さく葉標本の保管には重要だが、空調が老朽化しており一定にならない。 ・2年に1回の燻蒸によって資料への被害は辛うじて防ぐことができている状況だが、本来は1年に1回にしたい。他館では資料の受け入れ時にしっかりと燻蒸を行って、その後はモニタリングによって管理するとか、5年に1回燻蒸を行うというような考え方もあるが、現在の県立博物館の建築・設備の状況では不可能。 ・本来ならば木の棚はNGで、スチールなどの棚であるべきだが、明治期の棚などがコレクションと一緒に運び込まれているケースがある。植物標本用のスチールラックであれば間違いはないと考える。都立大の牧野標本館が理想的だと考えている。 ・植物標本はすぐに分類が変わっていくため、国立科学博物館のように、収蔵棚を2段にして、上段を収蔵スペース、下段を資料入れ替え用の退避スペースとして、それぞれ同じくらいの容量を整備しておきたい。
	4	・古い標本と新しい標本とではラベルの付け方が異なり、混在させないようにしている。 ・データベース上で確認して、収蔵庫内で何がどこにあるかがわかることが理想だが、その状況まで整理を進めるには学芸員に加えて2名程度のスタッフを付けて、すべての時間を資料整理に割ければ2年程度で作業可能だと考えている。 ・自然系の資料については判別ができる人がいれば人文系に比べて進めやすい。 ・整理作業に割ける場所がないということが一番の課題。庫内で整理するにしても、パソコンやネット環境等が整っていない。
考古	1	・基本的にはテンパコと呼ばれる容器に資料を収めている。テンパコはいくつかサイズがあるが、入りきらないものは段ボール等で保管している状況である。 ・テンパコが重ねられていて、下の箱から資料を取り出すことが難しい。 ・収蔵資料のほかに発掘調査記録（図面、写真、フィルム）や個人コレクションもある。 ・国宝と重要文化財を保管する耐火金庫設備を備えている。 ・データベース登録済みと書かれた箱があっても、その中身を確認することが難しい状況がある。 ・資料の貴重性にはおよそいくつかの段階があり、貴重なものから国宝・重文を含む指定文化財→発掘調査報告書掲載資料→発掘調査報告書から漏れた資料→粉々になった土器の破片など。開館当初は盛んに発掘を行っていたが、報告書が出ていないものがあり、報告書がない資料については活用されづらいため、ワークショップでの活用などを考えている。
	2	・しばらく資料の増加はなく、寄贈もほとんど行われていない。また、県埋蔵文化財センターからの資料の受け入れも近年はない。一方で、記録が散逸しているため、正確な資料増加のペースを把握することは難しい。
	3	・検索のしやすさを考えるならば箱を重ねずに遺跡単位で保管できるとよい。 ・収蔵庫そのものの話ではないが、現在の博物館は分野を問わず学芸員の部屋が狭すぎると感じる。分野を問わず、十分な作業スペースが必要である。 ・現在は発掘調査を行っていないが、将来的には発掘をしていきたいと考えている。 ・県埋蔵文化財センターは、外部倉庫2の面積の10倍ほどの収蔵スペースで資料保管を行っている。今後、温湿度が敏感な資料などは受け入れていく必要があるのではないかと考えている。 ・有機物や鉄など、土器などと比べて、特別な収蔵環境が必要な資料は全体の1割程度である。
	4	・収蔵資料のデータ登録は進んでいない。処理できていない資料が多い。例えば外部倉庫2の資料はデータベースに含まれていない。箱の外にナンバリングがなされておらず、データベースと収蔵場所が対応していない資料が多くある。 ・現状の収蔵資料データベースには本来登録すべき水準にない資料も入っている。例えば、どこで発掘されたかわからず、資料としての価値が低いものがある。しっかりと登録データベースを整備するのであればゼロベースで、大人数で作業をする必要があるが、現在の業務と並行して進めることは難しい。 ・休館をしたうえで資料整理だけに力を注いでも作業員10人（うち数人は専門家）で少なくとも3年はかかる。埋蔵文化財センターとの協力関係を構築して、資料整理のノウハウをもらいたい。

分野	項目	主な内容
地学	1	・貝類など引き出しの規格化が可能なものは多い。大型の資料は不定形で重い。 ・地下の広い面積を収蔵スペースとして使っている。 ・台帳上の登録資料は約12,000点。未登録資料は5,000点ほどで、未整理資料は収蔵庫前の廊下にある資料のみ。ただし、台帳と資料とがすべて対応しているかは不明である。 ・現生標本は同定が必要であり、地学の収蔵スペースに置いておく必要がある。
	2	・寄贈資料がほとんどで、自ら採取する資料は少ない。 ・基本的には昨年度、山形大学から寄贈された資料棚（青の棚）が2年程度で埋まるようなペース。 ・本年度現時点で受け入れている寄贈は3件で、2件は資料数点、1件は資料数百点。 ・15年から20年に1度、大型脊椎動物が発掘されるイメージ。容量としてはmamログワクジラの骨格を想定するとよい。 ・収蔵庫前の廊下に置かれている資料は昨年一式寄贈されたものであり、5年に1回くらいのペースで廊下に置かれているくらいの量がまとまって寄贈されてくるイメージだが、そのペースは上がりつつある。基本的に県内資料である。 ・比較用の現生生物の標本も地学の収蔵資料であり、これも5年に1回くらいのペースで入る。現在は庄内浜で7mくらいのクジラを埋めている。
	3	・現在の収蔵庫の温度は比較的一定しているが、湿度の変動が大きい。40%～60%の間で保ちたいが、現状は夏場80%くらいまで上がるため、ヒビなどの資料劣化につながっている。 ・全体に資料は重い、資料を入れた箱が重なっていると下の段はなかなか取り出すことができない。引き出し型になっている必要がある。 ・金属のラックでふたが閉まり、引き出しごと抜き出すことができることが理想である。
	4	・地学の台帳と現在全館のデータベースの番号とが統一されたフォーマットになっていない。 ・点数の記載も人によってまちまちな解釈となっている状況である。 ・現在は基本的に発掘された場所で管理している。研究寄りの館では分類群で分けるが、場所で管理した方が、とりまわしが良い。
民俗	1	・大小の差が極めて大きく、100個あってもダンボールにおさまるものから大きな脱穀機や、民家の解体資材まである。寄贈の状況次第のため、個数では面積を出せないと思う。素材や規模がまちまちであり、古文書や紙製品、布、木、わら、竹、鉄や焼き物など。分野としては歴史分野とも近く、民俗と歴史の双方に古文書があったり、コレクションが民俗と歴史で分かれていたりということがある。資料の整理が必要。また民俗資料として美術工芸の分野の資料も所蔵している。 ・外部倉庫2には大型の資料を収めている。全体としてメタデータが不足している。
	2	・増加率は、何も入っていない外部倉庫2の1階の3倍程度の面積が10年で埋まるようなイメージ。寄贈の状況次第のため、個数では面積を出せない。例えばそこまで大きくない資料で算出したとすると、民家の解体などを行ったら5年分くらいはすぐに埋まってしまう。
	3	・今後より多くの資料を受け入れていきたいと考えているが、現状では調査が間に合わない。
	4	・データベースに登録されていない資料が多く、台帳も近年は作成が滞っている状況である。データベースに登録されているものであっても情報が間違っていたり、あまりにも基礎的な情報しか登録されていなかったり、点数の数え方が異なっていたりという不備がある状況である。資料を完全に登録して管理できる状況に持っていくには、すぐにでも閉館して整理作業を始めないと間に合わないのではないかと。 ・ゼロベースで作業する必要があるが、専門性がある人が10人いても5年以上はかかるのではないかと。 ・点数と名称、大きさと画像だけに絞っても、専門家を含む10人程度の作業員で3年以上はかかる。 ・1年間資料を把握する期間を設けるとして、令和8年度から資料整理に着手するのが理想である。
教育	1	・近世から現代にかけての教科書や文庫、刊行物などの教育文献資料、また教育現場で使われていたピアノやオルガンなど大型の教育資料を収蔵している。 ・現在、教育資料館の収蔵庫、外部倉庫1のスペースで資料を保管している状況である。
	2	・近年は抑制的に寄贈資料を受け入れており、過去5年間で100点程度である。 ・ほとんどは書籍類だが、玩具や実験器具などの物品もある。
	3	・外部倉庫1は庁舎内の空調システムであるため温湿度環境は一定の環境ではない。 ・文献資料は収蔵棚に収めて管理されているが、大型の教育物具資料は平置きで配置されているため、それぞれ収蔵に適した計画のうえ管理していく必要がある。
	4	・収蔵資料データベース上では約44,500点の登録を行っており、約20,700点が未分類の状況である。未分類整理を行うには現在の体制では困難であり、人員と日数などが必要な状況である。 ・公開データベース上では40,628件の資料を公開しており、資料の閲覧希望がある場合は、検索の上、実物資料がどの場所に保管してあるかまでは把握できる状態である。

付表2 適切な保管に必要な収蔵庫レイアウト (合計 1,848.4 m²)

※各レイアウトの収蔵什器の凡例 (例 1-0) は付表3の番号を参照



付表3 レイアウト作成に係る収蔵庫什器リスト

1-1 パレットラック  35 台	1-2 引出+オープン棚 (300kg/段)  W1800×D600×H2400: 下部引出: 7段×2列 (H150/段板厚) 上部オープン棚: 有効2段 (H1900-350/段?)	1-3 壁面メッシュ  W900×H2400/台	1-4 中量ラック  W1800×D600×H2400 有効2段、有効3段、有効4段 の3パターン	
2-1 中量ラック  W1500×D600×H2400 (有効4段)	2-2 中量ラック  W1800×D600×H2400 (有効4段)			
3-1 植物標本用スチール棚 ※イメージ図  イメージに一番近いのはL型蔵量物品棚 (仕切り板付) W900×D550×H2100 (有効8段×3列)		3-2 中量ラック  W1800×D600×H2400 (有効4段)		
4-1 スチール 網装棚  縦仕切り2枚 W1800×D600×H2400 有効1段、有効2段 の2パターン	4-2 スチール製輪装棚  W1800×D1000×H2400 (有効10段)	4-3 キャンテラック  W1550×D720×H2100 (有効3段)	4-4 中量ラック  W1800×D600×H2400 有効4段、有効5段、有効9段の3パターン	
5-1 地字標本棚 根受けだけつけた場を想定しています。 受けの上に標本箱載せる予定です。 ※イメージ図  W1000×D700×H2400 (有効13段×2列) (H120/段以上)		5-2 引出+オープン棚 (300kg/段)  W1000×D700×H2400 下部引出: 16段×2列 (H100/段板厚) 上部オープン棚: 有効1段	5-3 中量ラック  W1800×D900×H2400 (有効4段)	
6-1 引出+オープン棚 (300kg/段)  W1500×D750×H2400 下部引出: 6段×2列 (H170/段板厚) 上部オープン棚: 有効5段 (H1900-350/段?)	6-2 引出+オープン棚 (300kg/段)  W1200×D750×H2400 下部引出: 7段×1列 (H200/段板厚) 上部オープン棚: 有効2段	6-3 スチール製昆虫標本庫  W1130×D480×H1800 (有効19段もしくは112段) W1130×D600×H1800 (有効15段×2列) の2パターン W1130×D480×H1800 (2L段) W1130×D600×H1800 (有効15段×2列)	6-4 中量ラック  W1800×D600×H2400 有効2段、3段、4段、6段の4パターン	6-5 パレットラック  W2400×D1000×H2400 (有効2段)
7-1 中量ラック  W1800×D450×H2400 (有効6段)	7-2 中量ラック  W1800×D600×H2400 (有効6段)	7-3 中量ラック  W1800×D900×H2400 (有効2～4段)	7-4 パレットラック  W1800×D1900×H2400 (有効2段)	

(参考) 過去5年間の寄贈・収集資料データに基づく開館10年後の収集・保管施設面積

(1) 40年間で増加する収蔵資料面積

県立博物館の過去5年間の寄贈・収集資料データをもとに、1年間で増加する収蔵資料面積を70.04㎡と設定すると、40年間で増加する収蔵資料面積は2,801.6㎡となる。

図表11 分野別の収蔵資料面積の増加

単位：㎡

分野	現在の収蔵資料面積 [a]	1年間で増加する収蔵資料面積・増加率		5年間で増加する収蔵資料面積 ([b] *5)	40年間で増加する収蔵資料面積 ([b] *40)
		収蔵資料面積* [b]	増加率 ([b] / [a])		
民俗	249.0	43.72	17.6%	218.6	1,748.8
考古	182.0	7.04	3.9%	35.2	281.6
植物	215.0	5.12	2.4%	25.6	204.8
歴史	73.0	1.50	2.1%	7.5	60.0
地学	318.0	7.68	2.4%	38.4	307.2
動物	456.0	4.86	1.1%	24.3	194.4
教育	167.0	0.12	0.1%	0.6	4.8
合計	1,660.0	70.04	4.2%	350.2	2,801.6

※各分野の学芸員が算出した増加面積

(2) 40年後の収蔵資料を適切に保管するために必要な収蔵庫面積

本編3-1と同様に、(1)で算出した40年後の収蔵資料面積2,801.6㎡を適切に保管するための収蔵庫レイアウトを作成し、その面積を算出すると2,613.6㎡となり、1年間で増加する収蔵庫面積は全分野の合計で65.34㎡となる。

図表12 40年後の収蔵資料を適切に保管するために必要な収蔵庫面積

単位：㎡

分野	現在の収蔵資料の適正な保管に必要な収蔵庫面積 [c]	1年間で増加する収蔵庫面積・増加率		5年間で増加する収蔵庫面積 ([d] *5)	40年間で増加する収蔵庫面積 ([d] *40)
		収蔵庫面積 [d]	増加率 ([d] / [c])		
民俗	535.8	36.48	6.8%	182.4	1,459.2
考古	109.5	2.96	2.7%	14.8	118.4
植物	184.6	5.98	3.2%	29.9	239.2
歴史	83.2	2.99	3.6%	15.0	119.6
地学	222.0	8.08	3.6%	40.4	323.2
動物	423.2	8.68	2.1%	43.4	347.2
教育	290.1	0.17	0.1%	0.9	6.8
合計	1,848.4	65.34	3.5%	326.7	2,613.6

(3) 開館10年後に必要な収集・保管施設の面積

(2)から1年間で増加する必要な収蔵庫面積を65.34㎡とすると、開館10年後（2024年から20年後）に必要な収集・保管施設の面積は3,635.2㎡となる。

図表13 開館10年後に必要な収集・保管施設の面積

単位：㎡

事業年数 (現在からの経過年数)	2024年 (0年)	2029年 (5年)	2034年 (10年/開館)	2044年 (20年/開館10年)
適切な保管に必要な収蔵庫面積	1,848.4	2,175.1	2,501.8	3,155.2
作業室等	480.0	480.0	480.0	480.0
合 計	2,328.4	2,655.1	2,981.8	3,635.2

Ⅲ 事業費シミュレーション調査

事業費シミュレーション調査報告書

1 調査概要

1-1 調査の趣旨

山形県立博物館（以下「県立博物館」という。）の現状を踏まえ、新博物館で対応すべき課題を「魅力ある展示（「理解しやすく、楽しく学べる」）」、「収集に係る課題への対応（将来的なさらなる資料増加への対応を含め）」、「学芸員等の博物館で働く者にとって機能性の優れた設備」の3つに整理した上で、他県の設置事例を参考とし、1-2に示す作業プロセスで事業費のシミュレーション（試算）を行い、比較評価を行う。

1-2 作業プロセス

プロセス1 シミュレーション条件の設定

(1) 試算のパターン設定

「Ⅰ 他県における持続可能な設置事例調査」及び「Ⅱ 収蔵庫調査」における他県の設置事例を参考として、博物館の4つの基本的機能（展示・公開、収集・保管、調査・研究、教育・普及）の設置状況に応じてパターン分けするとともに、それぞれの施設の面積を設定する。

(2) 費用項目

博物館の設置運営に係る費用を図表1のとおり設定し、事業費の試算を行う。

なお、図表1中、現時点で試算に必要な条件が未確定である「土地に係る経費」については、本調査の対象外とし、「その他備品購入費」、「デジタルアーカイブ構築費」、「開設準備費」、「人件費」、「活動費」については、今後の検討の参考として他県の公立博物館の状況を整理し、参考値を示す。

図表1 博物館の設置運営に係る費用

	項 目	内 容
イニシャルコスト	土地に係る経費	土地取得費、造成費、各種調査費（測量、地盤調査、埋蔵文化財調査）
	建築費	本体工事費、外構工事費、設計管理費
	施設整備費	電気空調設備、給排水管衛生設備等の工事費、設計管理費
	展示設備費	展示室の造作、電気・照明、映像・音響（機器、ソフト）、模型・造形・レプリカ・サイン・グラフィック、什器・備品に係る費用、設計管理費
	収蔵設備費	収蔵庫内の内装工事費、設計管理費
	その他備品購入費	展示機能以外の収蔵棚や研究機器等に係る什器、備品に係る費用
	デジタルアーカイブ構築費	デジタルアーカイブの構築に係る経費
ランニングコスト	開設準備費	開設記念事業費、資料収集費、収蔵品・備品等の移転費
	維持管理費	水道光熱費、警備・清掃・設備保守、建物維持修繕、展示保守メンテナンス、事務費、一般管理費
	人件費	常勤、非常勤職員の人件費
	活動費	博物館活動（企画展の開催等の展示・公開、収集・保管、調査・研究、教育・普及）に関する経費

(3) 単価の設定

各費用の単価は、他県の設置事例を参考として面積1㎡当たりの単価を設定した。

プロセス2 事業費試算

プロセス1で設定したシミュレーション条件に基づき、(面積) × (単価) で試算した。

また、公開承認施設とする場合や子ども向け展示室を設置する場合など、事業費が追加となる要因の検討、試算を行った。

プロセス3 比較評価

一体型、分散型、公開承認施設とする場合、子ども向け展示室を設ける場合など、様々な類型によるシミュレーション結果を踏まえ、定性的評価（博物館が対応すべき3つの課題など）と定量的評価（事業費試算で試算したコストの比較）から比較評価を行う。

1-3 留意事項

本試算は、国土交通省の建設工事費デフレーターをもとに2023年度価格に換算した建設単価を使用したものであり、博物館の着工・開館までの物価や人件費の上昇などによる影響は含まないため、今後事業費が増大する可能性がある。

また、現時点で試算に必要な条件が不明な費用については、試算の対象外としていることにも十分留意する必要がある。

2 シミュレーション条件の設定

2-1 パターン・施設・敷地

(1) パターン

「Ⅰ 他県における持続可能な設置事例調査」及び「Ⅱ 収蔵庫調査」において調査した他県の設置事例を参考として、全ての機能を同一敷地・建物内に配置する全機能「一体型」と、基本的機能のうち親和性の高い展示・公開と教育・普及、収集・保管と調査・研究に分け、それぞれを分散して配置する機能「分散型」の2つの類型を設定する。

(2) 施設面積

公開データから機能別面積が確認できる12の都道府県立総合博物館の平均値を参考として、博物館の基本的機能である「展示・公開」、「収集・保管」、「教育・普及」、「調査・研究」の4つの機能と、管理運営、ミュージアムショップ等の来館者サービス機能、機械設備など延床面積から基本的機能が占める面積を除いたものを「その他」とし、それぞれの面積を設定する。

「分散型」においては一部機能が両施設で重複することから、受託業者が運営する博物館の実績等を踏まえ、重複部分の面積は「収集・保管」で10%、「調査・研究」で50%、「その他」で20%とし、「一体型」の面積に加算してそれぞれの施設に配分する。

図表2 都道府県立総合博物館における各機能の面積と平均

単位：㎡

施設	展示・公開	収集・保管	教育・普及	調査・研究	延床面積	敷地面積	公開承認施設
北海道博物館	3,916	2,842	633	532	12,947	16,258	○
青森県立郷土館	2,954	1,079	118	41	7,607	3,848	○
岩手県立博物館	3,564	2,084	615	674	12,052	53,113	○
秋田県立博物館	3,767	1,540	697	513	11,946	15,000	
福島県立博物館	2,918	2,198	693	885	11,071	37,270	○
千葉県立中央博物館（本館）	4,291	3,591	※2	※2	15,254	13,178	
岐阜県立博物館	2,879	1,379	※2	※2	10,242	38,744	
三重県総合博物館	2,370	2,803	1,086	791	11,705	38,884	○
滋賀県立琵琶湖博物館	4,453	5,128	902	1,604	22,701	42,434	
鳥取県立博物館	2,611	1,584	206	451	9,699	14,228	○
山口県立山口博物館※1	1,648	1,083	185	687	5,164	19,905	
徳島県立博物館	2,866	1,753	420	697	8,063	406,000	
他館事例の平均値を参考にした設定値	3,200	2,300	550	700	11,610	30,000	
山形県立博物館	1,516	606	245	220	4,230	6,012	

各機能の設定面積

	展示・公開※3	収集・保管※4	教育・普及	調査・研究	小計	その他※5	合計
一体型	3,200	2,890	550	700	7,340	5,285	12,625
分散型	3,200	3,179	550	1,050	7,979	6,342	14,321

※1 公開データにおいて、本館は機能別面積の記載があるが、別館は延床面積のみの記載であり、平面図から面積を推定し加算している。

※2 公開データから数値を得られなかったため、空白としている。

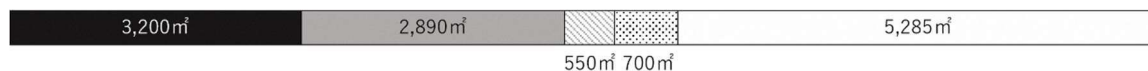
※3 知育遊具等を備えた簡易な子ども向け展示コーナーを含む。

※4 「Ⅱ 収蔵庫調査」の試算結果を踏まえ一体型を2,890㎡、分散型を3,179㎡（2,890㎡×1.1）とする。

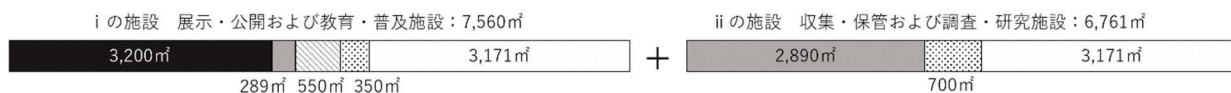
※5 一体型は基本的機能が全て明らかな10館における基本的機能と「その他」の面積の平均割合を参考として、基本的機能の面積の72%と設定する。分散型は6,342㎡（5,285㎡×1.2）とする。

図表3 一体型及び分散型の施設面積のイメージ

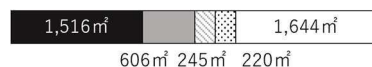
一体型の施設面積 延床面積：12,625㎡ → 現在の県立博物館の約3.0倍



分散型の施設面積 延床面積：14,321㎡ → 現在の県立博物館の約3.4倍



(参考) 現在の山形県立博物館の施設面積 延床面積：4,230㎡



2-2 費用項目と単価

(1) イニシャルコスト

① 施設整備費

「Ⅱ 収蔵庫調査報告」より、収蔵設備費を設定する。また、収蔵設備費を用いて、公開データから施設整備費が確認可能な施設を参考として、建築費・施設設備費、展示設備費を設定する。

なお、分散型の施設のうち収集・保管及び調査・研究施設については、基本的に一般利用者が来館しない施設と位置付け、別途単価を設定する。

ア 収蔵設備費

「Ⅱ 収蔵庫調査報告」から収蔵設備費の単価は0.38百万円/㎡とする。

イ 建築費・施設設備費・展示設備費

2010年以降に新たに整備された延床面積1万㎡規模の都道府県立総合博物館で、施設整備費のデータ収集が可能な施設である三重県総合博物館（2014年開設）をモデルとして、国土交通省建設工事費デフレーター（非木造非住宅の数値を用いて、2024年11月の指数130.6/2012年の指数92.8から、係数1.41）により2024年の金額に換算すると、建築費・施設設備費は9,218百万円、単価は0.70百万円/㎡、展示設備費は1,371百万円、単価は0.58百万円/㎡となる。

なお、三重県総合博物館の施設機能を考慮し、建築費・施設設備費には、ミュージアムショップの整備を含み、カフェ・レストラン等の飲食施設の整備は含まないものとする。

図表 4 建築費・施設設備費、展示設備費の単価

施設名	延床面積 (㎡)	展示面積 (㎡)	2010年実績値 (百万円)		2024年換算値 (百万円、換算係数1.41)	
			建築費・ 施設設備費	展示設備費	建築費・ 施設設備費	展示設備費
三重県 総合博物館	11,705	2,370	6,550	974	9,218	1,371
	㎡単価		-	-	0.70	0.58

- ・三重県ウェブサイト「新三重県立博物館（仮称）建設工事等の施工者が決定しました」による。
<https://www.pref.mie.lg.jp/MIEMU/HP/2010110453.htm>
- ・展示面積に企画展示室800㎡含む。
- ・造成費用は含まれていない。
- ・展示工事費は詳細設計時の制作施工費概算による。
- ・建築工事費は施工者決定における工事種別金額に展示工事概算のエントランスエリア、交流創造エリア及び野外展示・共用部演出の造作費用等を加算。
- ・工事費データに設計料相当額を建築8%、展示10%加算
- ・消費税5%込みの価格を消費税10%として換算

ウ 分散型施設のうち収集・保管及び調査・研究施設の建築費、収蔵設備費

分散整備時における収集・保管及び調査・研究施設は、建築的にもデザイン性やメッセージ性が求められる展示・公開施設と異なり、一般的な建築仕様でも十分であると考えられる。このため、都道府県が整備する事務所用途の建築工事費をもとに単価を設定すると0.56百万円/㎡となる。

（建築費・施設設備費の単価設定）

国土交通省「2023（令和5）年度建築着工統計調査」における用途別、建築種別（建築物の数、床面積の合計、工事費予定額）より、都道府県を建築主とする事務所用途建築の工事費用予定額合計（5,255,834万円）を床面積の合計（112,308㎡）で割った47万円/㎡に設計料8%、消費税10%を加算する。

$$\text{設定㎡単価} = 47\text{万円} / \text{㎡} \times \text{設計料}1.08 \times \text{消費税}1.1 = 55.8\text{万円} \div 0.56\text{百万円} / \text{㎡}$$

② その他備品購入費（参考）

その他の備品購入費については、今後の検討項目であり、現時点で試算することは困難であるが、今後の検討のため参考値を示す。

2010年以降に新たに整備された延床面積1万㎡規模の都道府県立総合博物館で、収蔵棚を除くその他備品購入費のデータ収集が可能な施設である三重県総合博物館（2014年開設）をモデルとして、（一財）建設物価調査会の建設資材物価指数（2024年12月の指数114.1/2012年の指数96.5から、係数1.18）により2024年の金額に換算すると、その他備品購入費は1,071百万円となる。

ア 収蔵棚に係る費用

「Ⅱ 収蔵庫調査報告」のとおり、収蔵棚の単価を315千円/㎡とする。

三重県総合博物館の収集・保管面積は2,803㎡であることから、収蔵棚に係る費用は884百万円である。

$$315,386 / \text{㎡} \times 2,803\text{㎡} = 884,026\text{千円}$$

イ 収蔵棚に係る費用を除く、その他備品購入費

三重県総合博物館の、収蔵棚に係る費用を除く、その他備品購入費は平成24（2012）年実績値で157,874千円であり、2024年度換算値は186,668千円である。

157,874千円×換算係数1.18（（一財）建設物価調査会建設資材物価指数）＝186,668千円

ア 884,026千円 ＋ イ 186,668千円 ＝ 1,070,694千円となる。

③ デジタルアーカイブ構築費（参考）

映像設備やデジタルアーカイブの仕様については、今後の検討項目であり、現時点で試算を行うことは困難であるが、今後の検討のため参考値を示す。

データ収集が可能な三重県総合博物館（2014年開設）をモデルとして、国内企業物価指数（2024年の指数122.6/2012年の指数97.7から、係数1.25）で2024年の金額に換算すると、デジタルアーカイブ構築費は218百万円となる。

（デジタルアーカイブ構築費）

三重県総合博物館のデジタルアーカイブ構築費は2012年の実績値で173,667千円であり、2024年換算値は217,928千円である。

173,663千円×換算係数1.25（国内企業物価指数）＝217,928千円

④ 開設準備事業費（参考）

開設記念事業費、資料収集費、収蔵品・備品等の移転費の規模や内容について、今後の検討項目であり、現時点では活動費の試算を行うことは困難であるが、今後の検討のため参考値を示す。

データ収集が可能な三重県総合博物館（2014年開設）をモデルとして、国内企業物価指数（③と同様に係数1.25）により2024年の金額に換算すると、開設準備事業費は246百万円となる。

（開設準備事業費）

三重県総合博物館の開設準備事業は2012年の実績値で195,759千円であり、2024年換算値は245,650千円である。なお、金額の換算は国内企業物価指数による。

195,759千円×換算係数1.25（国内企業物価指数）＝245,650千円

(2) ランニングコスト

① 維持管理費

全国の都道府県立の総合博物館のうち、公開データから維持管理費の確認が可能な三重県立総合博物館をモデルとして維持管理費の単価を19.5千円／年・㎡と設定する。

図表5 延床面積1㎡当たりの維持管理費

施設名	運営形態	延床面積 (㎡)	維持管理費 (千円／年)	延床面積1㎡ 当たり維持管理費 (千円／年・㎡)
三重県総合博物館	直営	11,705	228,198	19.5
山形県立博物館※	直営	4,230	26,039	6.2

※2023年度当初予算

② 人件費（参考）

新博物館における組織体制及び職員数については、今後の検討項目であり、現時点で人件費を試算することは困難である。しかし、今後の検討の参考として、公開データから人件費が確認可能な三重県総合博物館（2014年開設）をモデルとして、参考値を203百万円／年と設定する。

③ 活動費（参考）

展示・公開（企画展の開催等）や収集・保管、調査・研究、教育・研究等の博物館活動の内容・規模などについては、今後の検討項目であり、現時点では活動費の試算を行うことは困難である。しかし、今後の検討の参考として、図表6に示す、公開データから活動費が確認可能な全国16館の公立博物館の活動費を平均した、70,083千円と設定する。16館の延床面積は平均で11,679㎡であり、一体型の施設整備に近似している。

なお、図表6に示す他県の公立博物館では、平均職員数は約34名、平均活動費は約7千万円となっており、現在の県立博物館と比較して、職員数は1.3倍、活動費は12.3倍である。新博物館の組織体制や活動内容を他県の公立博物館と同程度のものとする場合、運営に係る費用についても、現在の数倍以上に増大することが想定される。

図表6 公立博物館の延床面積、職員数及び活動費

施設名	運営形態	延床面積 (㎡)	職員数 (人)	活動費 (千円/年)	延床面積1㎡当 たり活動費 (千円/年・㎡)	公開承認施設
埼玉県立自然の博物館	直営	3,022	19	12,489	4.1	
広島市こども文化科学館	指定管理者	4,683	15	27,160	5.8	
宮崎県総合博物館	直営	7,367	17	24,888	3.4	
石川県立歴史博物館	直営	7,746	22	72,023	9.3	○
山梨県立博物館	直営	8,760	43	81,659	9.3	○
ふくやま草戸千軒ミュージアム	直営	8,941	32	25,397	2.8	
ふじのくに地球環境ミュージアム	直営	9,334	19	69,489	7.4	
鳥取県立博物館※	指定管理者	9,699	39	111,227	11.5	○
三重県総合博物館	直営	11,705	32	41,635	3.6	○
ミュージアムパーク茨城県自然博物館※ ¹	直営	11,995	69	129,629	10.8	
長崎歴史文化博物館	指定管理者	13,309	26	72,503	5.4	
九州歴史博物館	直営	13,841	28	36,873	2.7	○
東北歴史博物館	直営	15,446	43	37,585	2.4	○
福岡市博物館	直営	16,921	38	57,018	3.4	○
北九州市立いのちのたび博物館	直営	17,089	36	69,449	4.1	
滋賀県立琵琶湖博物館	直営	27,005	63	252,310	9.3	
16館平均		11,679	34	70,083	6.0	
山形県立博物館	直営	4,230	26	5,677※ ²	1.3	

※1 鳥取県立博物館と茨城県立自然博物館は、恐竜展や昆虫展などの特別展に大きく予算を割いており、展示関係（共催展など）の活動費が多くなっている。

※2 2023年度当初予算

3 事業費試算

3-1 イニシャルコスト

(1) 施設整備費

「2 シミュレーション条件の設定」に基づき、一体型と分散型に分け、施設整備費の試算を行う。

① 一体型

建築費、施設設備費の単価を0.70百万円/㎡、展示設備費の単価を0.58百万円/㎡、収蔵設備費の単価を0.38百万円/㎡として試算すると、施設整備費は118億円となる。

図表7 一体型の施設整備費

機能区分	面積 (㎡)	建築費・施設設備費 (百万円)		展示設備費 収蔵設備費 (百万円)		合計 (百万円)
		㎡単価	整備費	㎡単価	整備費	
展示・公開	3,200	0.70	2,240	0.58	1,856	4,096
収集・保管	2,890		2,023	0.38	1,098	3,121
教育・普及	550		385			385
調査・研究	700		490			490
その他	5,285		3,700			3,700
合 計	12,625		8,838		2,954	11,792

② 分散型

分散型施設のうち i 展示・公開及び教育・普及施設の建築費・施設設備費の単価を0.70百万円/㎡、ii 収集・保管及び調査・研究施設の建築費・施設設備費の単価を0.56百万円/㎡、展示設備費の単価を0.58百万円/㎡、収蔵設備費を0.38百万円/㎡として試算すると、施設整備費は121億円となる。

図表8 分散型の施設整備費

分類	機能区分	面積 (㎡)	建築費・施設設備費 (百万円)		展示設備費 収蔵設備費 (百万円)		合計 (百万円)
			㎡単価	整備費	㎡単価	整備費	
i の 施設	展示・公開	3,200	0.70	2,240	0.58	1,856	4,096
	収集・保管	289		202	0.38	110	312
	教育・普及	550		385			385
	調査・研究	350		245			245
	その他	3,171		2,220			2,220
	小計	7,560		5,292		1,966	7,258
ii の 施設	展示・公開	-	0.56	-			-
	収集・保管	2,890		1,618	0.38	1,098	2,716
	教育・普及	-		-			-
	調査・研究	700		392			392
	その他	3,171		1,776			1,776
	小計	6,761		3,786		1,098	4,884
合 計		14,321		9,078		3,064	12,142

(参考) 収蔵資料の増加見込みの試算について

単位：百万円

機能区分	開館10年後まで見込んだ場合		(参考) 開館後20年後まで見込んだ場合	
	一体型 (図表7)	分散型 (図表8)	一体型	分散型
展示・公開	4,096	4,096	4,096	4,096
収集・保管	3,121	3,028	3,426	3,325
教育・普及	385	385	385	385
調査・研究	490	637	490	637
その他	3,700	3,996	3,842	4,149
合 計	11,792	12,142	12,238	12,592

(2) イニシャルコストの比較

イニシャルコストは、一体型で133億円、分散型で137億円となり、分散型の場合、一体型より4億円かかり増しする。

図表9 イニシャルコストの比較

単位：百万円

費用項目	一体型	分散型
施設整備費	11,792	12,142
その他備品購入費	1,071	
デジタルアーカイブ構築費	218	
開設準備事業費	246	
合 計	13,327	13,677

3-2 ランニングコスト

(1) 維持管理費

「2 シミュレーション条件の設定」に基づき、一体型と分散型に分け、維持管理費を試算すると、一体型では年間2億4,600万円、分散型では2億7,900万円となる。

図表10 維持管理費

	面積 (㎡)	維持管理費単価 (千円/㎡・年)	維持管理費 (千円/年)
一体型	12,625	19.5	246,188
分散型	14,321		279,260

(2) ランニングコストの比較

ランニングコストは、一体型で5億1,900万円、分散型で5億5,200万円となり、分散型の場合、一体型より3,300万円かかり増しする。

図表11 ランニングコストの比較

単位：百万円

費用項目	一体型	分散型
維持管理費	246	279
人件費	203	
活動費	70	
合 計	519	552

3-3 事業費の増減要因となる施設条件の検討

(1) 公開承認施設（文化財保護法第53条）

博物館や美術館などの国宝・重要文化財の所有者（管理団体を含む）以外の者が、当該文化財を公開しようとする場合、文化庁長官の許可が必要であるが、文化財の公開活用の観点から、文化財の公開に適した施設として、あらかじめ文化庁長官の承認を受けた場合、公開後の届出で足りることとされている。この承認を受けた施設を「公開承認施設」という。

公開承認施設の承認基準（平成8年8月2日文化庁告示第9号）

- 一 博物館等の施設の設置者が、重要文化財の公開を円滑に実施するために必要とされる経理的基礎及び事務的能力を有しており、かつ、重要文化財の公開に係る事業を実施するにふさわしい者であること。
- 二 博物館等の施設の組織等が、次に掲げる要件を満たすものであること。
 - イ 重要文化財の保存及び活用について専門的知識又は識見を有する施設の長が置かれていること。
 - ロ 博物館法（昭和26年法律285号）第5条第1項に規定する学芸員の資格を有する者であり、文化財の取扱いに習熟している専任の者が2名以上置かれていること。
 - ハ 博物館等の施設全体の防火及び防犯の体制が確立していること。
- 三 博物館等の施設の建物及び設備が、次に掲げる要件を満たし、文化財の保存又は公開のために必要な措置が講じられていること。
 - イ 建物が、耐火耐震構造であること。
 - ロ 建物の内部構造が、展示、保存及び管理の用途に応じて区分され、防火のための措置が講じられていること。
 - ハ 温度、相対湿度及び照度について文化財の適切な保存環境を維持することができる設備を有していること。
 - ニ 防火及び防犯のための設備が適切に配置されていること。
 - ホ 観覧者等の安全を確保するための十分な措置が講じられていること。
 - ヘ 博物館等の施設が同一の建物内で他の施設（商業施設を除く。）と併設して設置されているときは、文化財の保存又は公開に係る設備が、当該博物館等の施設の専用のものであること。
 - ト 博物館等の施設が同一の建物内で商業施設と併設して設置されているときは、当該博物館等の施設が、文化財の公開を行う専用の施設として商業施設から隔絶（非常口を除く。）していること。
- 四 博物館等の施設において、承認の申請前5年間に、文化財保護法第53条第1項に基づく重要文化財の公開を適切に3回以上行った実績があること。

① イニシャルコスト

公開承認施設の承認を受けるためには、「文化財公開施設の計画に関する指針」（1995年8月、文化庁文化財保護部）で定める施設基準を満たしたうえで、文化庁等関係機関の確認手続きを経る必要がある。

一般的に都道府県立博物館を新設する場合、「文化財公開施設の計画に関する指針」に基づき設計を行うため、施設に関する新たな費用が生じる可能性は低い。

なお、既存建物への入居やリニューアルの場合この限りではなく、敷地と建築条件等に応じて、費用負担が生じる可能性がある。

② ランニングコスト

公開承認施設の承認を受けるためには、承認申請前の5年間に重要文化財の公開を3回以上行ったうえで、文化庁等関係機関による館内環境調査や申請手続きに係る検査を受ける必要がある。

このため、5年間の活動費としては、(ア)展覧会開催費用45,000千円、(イ)館内環境調査・検査費用4,050千円、(ウ)学芸員研修費用400千円の合計で約4,900万円、年間で980万円の追加費用が生じる。

なお、公開承認施設の承認を継続する場合、5年ごとに(ア)、(イ)の費用負担が生じる。

図表12 公開承認施設の承認手続きに必要な費用（5年間）

項 目	費用（千円）	適 用
(ア) 展覧会開催費用	45,000	・ 国宝・重要文化財の展示会を3回開催 15,000千円×3回
(イ) 館内環境調査、検査費用	4,050	・ 上記展示会に係る館内の環境調査 1,000千円×3回 ・ 申請手続きに係る環境調査 1,000千円×1回 ・ 申請手続きに係る検査 50千円×1回
(ウ) 学芸員研修費用	400	・ 文化庁主催の研修会の受講 100千円×4回
合 計	49,450	

図表13 東北・北海道の公開承認施設（2024年10月現在）

所在地	施設名	所在地	施設名
北海道	北海道博物館	青森県	青森県立郷土館
岩手県	岩手県立博物館、一関市博物館	秋田県	なし
宮城県	仙台市博物館、東北歴史博物館	山形県	米沢市上杉博物館
福島県	福島県立博物館		

(2) 子ども向け展示室（面積450㎡）

国立科学博物館「親と子のたんけんひろば コンパス」を参考として、造形や標本等を多用し、山形の自然や歴史・文化を、実物と触れ合い、遊びながら学べる子ども向け展示室450㎡を整備する場合を検討する。

2-2から建築費・施設設備費の単価を0.70百万円/㎡、維持管理費を19.5千円/㎡・年、受託事業者の実績を参考として展示設備費を0.65百万円/㎡と設定すると、施設整備は6.08億円、維持管理費は年間880万円となる。

図表14 子ども向け展示室整備に係る費用

	面積 (㎡)	建築費・施設 設備費単価 (百万円/㎡)	展示設備単価 (百万円/㎡)	施設整備費 (百万円)	維持管理費単価 (千円/㎡・年)	維持管理費 (千円/年)
	(a)	(b)	(c)	{a×(b+c)}	(d)	(a×d)
子ども向け展示室	450	0.70	0.65	608	19.5	8,775

(3) 飲食施設

他館の設置事例を参考として、3-1で試算した施設に、面積が150㎡、250㎡の2通りの飲食施設を設ける場合を検討する。維持管理費は、売上でまかなうことを想定し、試算の対象としない。

① カフェ（面積150㎡）

秋田県立博物館を参考として、主に来館者の休憩スペースとしての役割を担うカフェとし、一般的な厨房設備・什器備品を想定する。2-2から建築費・施設設備費の単価を0.70百万円/㎡、受託事業者の実績を参考として内装工事費用と厨房機器等の設備にかかる単価を0.35百万円/㎡と設定すると、施設整備は1.58億円となる。

② レストラン（面積250㎡）

滋賀県立琵琶湖博物館を参考として、山形の食文化を体験するレストランであり、来館者の休憩スペースとしての役割に加え、五感による体感を伴う博物館体験の一翼を担う、県産材や県内企業による什器・備品類を利用した空間を想定する。2－2から建築費・施設設備費の単価を0.70百万円／㎡、受託事業者の実績を参考として内装工事費用と厨房機器等の設備にかかる単価を0.60百万円／㎡と設定すると、施設整備費は3.25億円となる。

図表15 飲食施設整備に係る費用

項 目	面積 (㎡) (a)	建築費、施設設備費の単価 (百万円／㎡) (b)	内装工事、厨房機器等 にかかる単価 (百万円／㎡) (c)	施設整備費 (百万円) {a×(b+c)}
①カフェ	150	0.70	0.35	158
②レストラン	250		0.60	325

(4) シアタールーム（面積150㎡）

東北歴史博物館を参考として、3－1で試算した施設に、面積が150㎡の、山形の自然・歴史・文化を感じられる映像を上映するシアタールームを設ける場合を検討する。

受託事業者の実績を参考として、建築費、施設設備費、シアタールームの映像・音響設備、什器備品および映像コンテンツの制作費等の合計の単価を2.20百万円／㎡、2－2から維持管理費を19.5千円／㎡・年と設定すると、施設整備費は3.3億円、維持管理費は年間290万円となる。

図表16 シアタールーム整備に係る費用

	面積 (㎡) (a)	建築費・施設設備費・ 映像設備等単価 (百万円／㎡) (b)	施設整備費 (百万円) (a×b)	維持管理費単価 (千円／㎡・年) (c)	維持管理費 (千円／年) (a×c)
シアタールーム	150	2.20	330	19.5	2,925

4 比較評価

4-1 事業費の比較評価

(1) 追加要素を含むイニシャルコスト

子ども向け展示室、カフェ、レストラン、シアタールームなどの付帯施設の有無により施設整備費が増加し、イニシャルコストは133億円から151億円となる。

なお、文化庁が示す施設基準を遵守し施設整備を行う場合、公開承認施設を目指す場合も追加の費用は発生しない。

図表17 追加要素を含むイニシャルコストの比較

単価：百万円

	項目	一体型	分散型
基本的な項目	施設整備費	11,792	12,142
	その他備品購入費	1,071	1,071
	デジタルアーカイブ構築費	218	218
	開設準備費	246	246
	小 計	13,327	13,677
追加要因	公開承認施設	—	—
	子ども向け展示室（施設整備費）	608	608
	カフェ（施設整備費）	158	158
	レストラン（施設整備費）	325	325
	シアタールーム（施設整備費）	330	330
合 計		14,748	15,098

(2) 追加要素を含むランニングコスト

子ども向け展示室、シアタールーム等の付帯施設があることで維持管理費が増加し、公開承認施設を目指す場合は活動費が増加するため、ランニングコストは年間5億1,900万円から5億7,400万円となる。

図表18 追加要素を含むランニングコストの比較

単価：百万円／年

	項目	一体型	分散型
基本的な項目	維持管理費	246	279
	人件費	203	203
	活動費	70	70
	小 計	519	552
追加要因	公開承認施設（活動費）	10	10
	子ども向け展示室（維持管理費）	9	9
	カフェ	—	—
	レストラン	—	—
	シアタールーム（維持管理費）	3	3
合 計		541	574

4-2 利点と課題の整理

(1) 一体型の利点と課題

展示室と収蔵庫が同一敷地・建物内にあることで、収蔵資料を活用した展示・公開や教育・普及の活動を容易に行うことができる。職員は博物館活動に総合的に取り組むことができ、魅力ある展示を行いやすい。また、来館者が調査・研究や収集・保管の活動を身近に感じられ、多くの人々に博物館活動全体への理解が深まることが期待できる。

一方、広い土地をまとめて確保する必要があり、市街地に設けた場合には開館後の資料増加への対応、郊外に設けた場合には交通アクセスが課題となる。

(2) 分散型の利点と課題

展示・公開を主とする施設をより集客力の高いエリアに配置し、収集・保管を主とする施設を郊外に配置することで、集客性の向上と十分な収蔵庫の確保という課題に対応できる。柔軟な敷地の選択が可能であり、博物館の展示・公開機能への交通アクセスと、開館後の資料増加への対応を両立できる。

一方、管理部門等を中心に重複する機能もあり、延床面積の増加や施設整備費や維持管理費の増嵩につながる。特に、展示室と収蔵庫が離れた場所にあることから、展示替えや企画展ごとに収蔵資料の運搬が必要となるなど、資料の破損リスクの増大や、職員の負担増加の可能性がある。

(3) 公開承認施設の承認を受ける場合の利点と課題

公開承認施設の承認を受けた場合、企画展・特別展等において重要文化財を公開する手続きを簡易化でき、職員の事務負担を減らすことができる。

また、貴重な資料を適切に扱える施設として信頼を得られるため、国内外の機関から国宝や重要文化財をはじめとした貴重な資料を借用できる可能性が高まり、魅力ある展示の実現に寄与する。

一方、承認を得るためには、申請前の5年間に他者所有の重要文化財等を3回以上適切に公開した実績が必要となることや、5年ごとの継続手続の際も同様の要件があるため、継続的に展示会開催経費がかかり増しする。

(4) 子ども向け展示室の利点と課題

未就学児などを対象とした展示室は、幅広い年齢に対応して博物館体験を提供できることになり、あらゆる来館者が楽しめる魅力ある展示を実現することで博物館の持続可能性の基盤になりうる。

一方、子ども向けの展示物は、施設整備費や維持管理経費が増加するほか、未就学児、小学校低学年・高学年、中高生向けなど、対象とする年齢層が限定されるため、子ども向けの展示を行う類似施設の状況を参考として、博物館全体の展示構成等を踏まえた慎重な検討が必要になる。

(5) 飲食施設の利点と課題

飲食施設は来館者の快適な利用に貢献するだけでなく、地域の食文化を扱ったメニューなどを提供することで展示・公開機能では訴求することが難しい「味覚」の体験を提供することが可能となり、博物館体験の魅力を高めて、来館者の楽しみや学びに寄与できる。また、広い飲食可能スペースを確保することにより、学校団体などが昼食場所として活用することも想定できる。

一方、施設の整備に当たり、飲食スペースと博物館資料を扱うスペースを明確に区分し、資料の汚損や虫害等の防止に留意しなければならない。委託、直営などの運営手法や赤字が生じる場合の対応など、立地や周辺環境を踏まえた詳細かつ慎重な検討が必要になる。

(6) シアタールームの利点と課題

シアタールームでの映像演出は、映像や音響を活用して静的な展示では伝えきれない情報を効果的に伝えることができる。また、映像コンテンツを変えることで、施設・設備はそのままに、来館者に新鮮な体験をもたらすことができる。

一方、施設整備費や維持管理費などのハード面のコストが増加するだけでなく、ソフト面では専門的な技術と知識が必要な映像コンテンツの制作にコストがかかる。また、近年の映像演出技術の進展を背景に、設置当時には最新の展示であっても数年で陳腐化してしまうリスクがある。

5 新博物館の施設整備に向けた留意事項

(1) 新博物館の整備、運営に係る費用

シミュレーションの結果、県立博物館の移転整備に係るイニシャルコストは133億円から151億円、移転後のランニングコストは年間5億1,900万円から5億7,400万円と高額になった。今後、急速に人口減少が進む中でも持続可能な博物館とするためには、新博物館として必要な役割や機能をしっかりと吟味、厳選しながら、立地場所、施設の規模や設備、活動内容等を検討する必要がある。

(2) 民間活力の活用の検討

県の財政負担軽減や官民連携の視点から、他県の博物館や博物館以外の公共施設の事例も参考としながら、PFIや指定管理者制度などのPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ：官民連携）の導入、一部業務の外部委託など、より効率的・効果的な施設整備と運営の手法を検討する必要がある。

(3) SDGs推進の視点

施設整備に当たっては、バリアフリーやユニバーサルデザインへの対応として、多目的トイレ、キッズルーム、おやこルーム、おむつ交換室、授乳室、出入口スロープ、点字ブロック、身体障がい者用駐車場、車いす利用者用の観覧スペース等の設置に配慮しなければならない。

また、環境負荷の低減（カーボンニュートラル）の観点から、徹底した省エネの推進、再生エネルギーの導入といった視点も持ち、検討を進めなければならない。

(4) 物価高騰等への留意

建築資材等の物価や人件費の高騰、建築業界の慢性的な人手不足等の影響を受け、全国的に大規模公共施設整備事業の入札不調が発生している。今後も同様の傾向が続くことが見込まれるため、この点に十分留意し、新博物館の基本構想や基本計画の検討を進める必要がある。

IV 小中学校教員調査

小中学校教員調査報告書

1 調査概要

1-1 調査の趣旨

山形県立博物館（以下「県立博物館」という。）の移転整備に当たり、新博物館における小中学生の利活用を促進する方策を探ることを目的とする。

1-2 調査の方法

県立博物館との現在の関わりを、山形県内全域の小学校及び中学校（以下「小中学校」という。）の教員の実感として聞き取るとともに、将来の新博物館の利活用を促進する糸口を探る調査を行った。定量調査と定性調査を組み合わせ、全県的課題の把握と実効性のある解決策の抽出を図る。

(1) アンケート調査（定量調査）

調査対象：「山形学校名鑑」（山形県教育局、2023年11月）に記載のある学校を対象に、村山、最上、置賜、庄内の地域毎に児童・生徒数や地域バランスを考慮し、小学校10校、中学校10校をそれぞれ選定 計80校

調査期間：2024年9月～10月

調査方法：各学校へアンケート用紙を送付し、郵送又はインターネットにより回答

調査項目：①ご自身について

②貴校で実施されている校外学習について

③現在の県立博物館を校外学習で利用することについて

④移転後の新しい県立博物館に期待されることについて 計16問

図表 1 調査対象校の所在地と選定数

単位：校

区分	村山地域 計20	最上地域 計20	置賜地域 計20	庄内地域 計10
小学校 計40	山形市、寒河江市、 上山市、村山市、 天童市、東根市、 尾花沢市、山辺町、 中山町、河北町、	新庄市3、金山町、 最上町、舟形町、 真室川町、大蔵村、 鮭川村、戸沢村	米沢市、長井市2、 南陽市2、高畠町、 川西町、小国町、 白鷹町、飯豊町	鶴岡市6、酒田市、 三川町、庄内町、 遊佐町
中学校 計40	山形市2、寒河江市、 上山市、天童市、 東根市2、尾花沢市、 河北町、大石田町	新庄市4、金山町、 最上町、舟形町、 真室川町、大蔵村、 鮭川村	米沢市2、長井市、 南陽市2、高畠町、 川西町、小国町、 白鷹町、飯豊町	鶴岡市3、酒田市3、 三川町、庄内町2、 遊佐町

※市町村名の後に数字がない場合は1校を選定

(2) インタビュー調査（定性調査）

調査対象：山形県教育センター、山形市内の中学校2校、酒田市内の中学校1校

調査期間：2025年1月

調査方法：インタビュー形式による聞き取り

調査項目：アンケート調査で特徴的な事項がみられた調査項目

2-1 アンケート調査の有効回答数及び分布

調査票を郵送した小中学校80校のうち、小学校25校、中学校18校の計43校より回答があった。また、県内の地域別の内訳は図表2のとおりとなった。

図表2 小中学校別、地域別の回答数

単位：校

区分	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	合 計
小学校	7	6	6	6	25 (回収率62.5%)
中学校	3	5	6	4	18 (回収率45.0%)
合 計	10	11	12	10	43 (回収率53.8%)

2-2 アンケート調査のクラスター（階層）の設定

校外学習先での県立博物館の利用経験や今後の意向を踏まえ、県立博物館との関係性を3つのクラスターに分類し、クラスターの傾向を把握し、課題の抽出を行う。

クラスターは、設問6（本年度の校外学習での利用（予定））、設問7（今後の校外学習での利用意向）、設問9（過去の校外学習での利用経験）により3つの利用度クラスター図表3を設定する。

【利用度クラスター】

予定層：本年度の利用又は今後の利用意向あり

変更層：過去に利用経験はあるが、本年度の利用又は今後の利用意向はなし

未知層：過去に利用経験がなく、本年度の利用又は今後の利用意向もなし

図表3 利用度クラスターの設定と校数

設問9 過去の校外学習での利用経験	設問6 本年度の校外学習での利用（予定）	設問7 今後の校外学習での利用意向	校数	
○	○	○	1	} 予定層 計11校
○	○	×	6	
○	×	○	2	
×	×	○	2	
○	×	×	16	→ 変更層
×	×	×	16	→ 未知層

2-3 調査結果の整理

2-2で設定した利用度クラスター「予定層」「変更層」「未知層」によるクロス集計を行い、その結果をもとに、(1)校外学習の予定と意向、(2)県立博物館のリニューアルへの期待の2つの視点からアンケートとインタビューの調査結果を整理する。なお、インタビュー調査結果については二重罫線で囲んでいる。

(1) 校外学習の予定と意向

① 校外学習先としての県立博物館の利用状況（別表4）

校外学習の訪問（予定）先は、例示施設の全体の1位が県立博物館と山形県庁16.3%となっている。

階層別では、予定層の1位は県立博物館、2位は県庁、変更層では1位が加茂水族館、2位が山形県庁と県産業科学館、未知層では1位が上杉博物館となっている。

※「その他」は選択肢として挙げた県内の文化施設以外の施設で、例示施設の一覧にはないが行きたい施設がある場合、「該当なし」は例示施設名の一覧に行きたい施設がない場合の選択肢。

図表4 校外学習の行先（回答なしを除く）

単位：％

		n=	県立博物館	山形県庁	上杉博物館	致道博物館	加茂水族館	浜田広助記念館	新庄ふるさと歴史センター	県産業科学館	その他	該当なし
全 体		43	<u>16.3</u>	<u>16.3</u>	7.0	2.3	11.6	2.3	2.3	7.0	<u>41.9</u>	11.6
ク 利 用 ス タ ー	予定層	11	<u>63.6</u>	<u>45.5</u>	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1	<u>18.2</u>	0.0
	変更層	16	0.0	<u>12.5</u>	0.0	6.3	<u>25.6</u>	0.0	6.3	<u>12.5</u>	<u>43.8</u>	12.5
	未知層	16	0.0	0.0	<u>18.8</u>	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<u>56.3</u>	<u>18.8</u>

※上位3位までを**太字**としている。以下同じ。

② 校外学習を実施する理由（別表7）

校外学習を実施する理由は、全体の1位が「体験を通して学ぶため」46.5%、2位が「学習内容の理解を深めるため」44.2%、3位が「学習の意欲を高めるため」30.2%となっている。

クラスター別では、予定層と変更層では1位が「学習内容の理解を深めるため」であるが、未知層では1位が「体験を通して学ぶため」となっている。また、未知層では「歴史を知るため」の割合が他の階層より高くなっている。

校外学習では、全体として学びや学習への効果が求められている。変更層のトップは「学習内容の理解を深めるため」、未知層は「歴史を知るため」が上位である。

図表5 校外学習を実施する理由（「その他」、「該当なし」を除く）

単位：％

	n=	学習内容の理解を深めるため	学習に対する意欲を高めるため	体験を通して学ぶため	社会のしくみを知るため	歴史を知るため	山形県に関する知識を高めるため	動物・植物などの生命の大切さを知るため	感動体験を得るため	自然の偉大さ・美しさに触れるため
全 体	43	<u>44.2</u>	<u>30.2</u>	<u>46.5</u>	18.6	25.6	16.3	9.3	7.0	7.0
ク ラ ス タ ー 利 用 度	予定層	<u>54.5</u>	<u>45.5</u>	<u>45.5</u>	27.3	27.3	36.4	9.1	9.1	9.1
	変更層	<u>50.0</u>	<u>25.0</u>	<u>43.8</u>	18.8	12.5	6.3	12.5	12.5	6.3
	未知層	<u>31.3</u>	25.0	<u>50.0</u>	12.5	<u>37.5</u>	12.5	0.0	6.3	6.3

校外学習を実施する理由（別表7、別表11）

- ・ 学校、教員、学習のねらいによっても学習先は変わる。選択および実施理由は学習内容との関わりが要因であると考えられる。（小学校・中学校）
- ・ 社会科教員としては、展示物がアップデートされると良い。理科教員としては、資料集にあるものと同じなら行かない。県立博物館にしかないものがあれば行く。（中学校）
- ・ 中学校は総合学習の時間で自分たちが調べたいものが得られる場所を選んで動いている。博物館よりも生の人間とのコミュニケーションに重きを置いて進めている。（中学校）
- ・ 校外での直接体験は自然体験などレクリエーションを含んだ活動として、子どもたちが生き生きと活動できることが重視されてきている。（中学校）

③ 校外学習で行きたい場所（別表8）

校外学習で行きたい場所は、全体の1位が県産業科学館16.3%、2位が山形県庁14.0%、3位が県立博物館と加茂水族館11.6%となった。

階層別にみると、予定層の1位は県立博物館、2位が加茂水族館と県産業科学館、変更層の1位は県産業科学館、2位は山形県庁、3位は蔵王、致道博物館、未知層の1位は「該当なし」、2位が山形県庁、加茂水族館となっている。

変更層では、蔵王など自然体験やレクリエーションなどの意向がみられる。

図表6 校外学習で行きたい場所（回答なしを除く）

単位：％

	n=	山形県立博物館	山形県庁	蔵王（お金等）	山形県郷土館「文翔館」	山寺（立石寺）	山形美術館	上杉博物館（米沢市）	羽黒山（神社、五重塔、石段）	致道博物館（鶴岡市）	本間美術館（酒田市）
全 体	43	11.6	<u>14.0</u>	4.7	2.3	2.3	2.3	7.0	4.7	7.0	2.3
利用度 クラスター	予定層	11	<u>45.5</u>	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
	変更層	16	0.0	<u>18.8</u>	<u>12.5</u>	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3	<u>12.5</u>
	未知層	16	0.0	<u>12.5</u>	0.0	0.0	6.3	6.3	6.3	0.0	6.3

	n=	慈恩寺（寒河江市）	慈恩寺ミュージアム（寒河江市）	西沼田遺跡公園（天童市）	山形市野草園	加茂水族館（鶴岡市）	新庄ふるさと歴史センター	山形県産業科学館	その他	該当なし
全 体	43	2.3	2.3	2.3	2.3	11.6	2.3	<u>16.3</u>	4.7	<u>14.0</u>
利用度 クラスター	予定層	11	9.1	9.1	0.0	0.0	<u>18.2</u>	<u>18.2</u>	0.0	0.0
	変更層	16	0.0	0.0	6.3	6.3	6.3	<u>25.0</u>	6.3	<u>12.5</u>
	未知層	16	0.0	0.0	0.0	0.0	<u>12.5</u>	6.3	6.3	<u>25.0</u>

校外学習先の選定（別表4、別表8）

- ・ 学習単元に沿って選択しており、単元に沿う、沿わない、使いやすい、使いやすくない、学習指導要領に沿う、沿わないが、選択の判断材料となっている。（小学校・中学校）
- ・ 展示資料に対して小学校、中学校の理科の学習からもう一步踏み込んだ解説や動画が脇にあると良い。見せ方や導き方、トータルで考えられた展示があると非常に魅力がある。（小学校・中学校）
- ・ 盲学校にいた経験から、じかに触れるということは大きな意味がある。レプリカの展示で触れるということも考えられる。（特支）
- ・ 教科書や学習指導要領とのつながりを教員に提示することが効果的。リーフレットを準備し、学校側に渡しておくなど、具体的なアプローチがあると来館利用への道筋ができる。（中学校）
- ・ 子どもたちがいかに楽しめるか、レクリエーション的な内容、子どもが楽しめる内容であれば先生も仕組みやすい。勉強に行く反面、面白さを追求している。（中学校）
- ・ 校外学習は、自分たちの課題について調べていく探究学習が行われている。その足がかりとしての期待感が博物館にある。（中学校）
- ・ 総合的な学習の学びを深められる場になると良い。見るだけでなく、体験がひとつあるだけで全然違う。わくわく感があるとよい。（中学校）
- ・ 校外学習先として博物館が選ばれる理由は、歴史を学ぶのが一番の理由である。（小学校）

④ 校外学習で行きたいと考えた理由（別表11）

校外学習で行きたいと考えた理由は、全体の1位が「体験を通して学ぶため」34.9%、2位が「歴史を知るため」32.6%、3位が「学習に対する意欲を高めるため」と「山形県についての知識を高めるため」27.9%となっている。

階層別でみると、予定層では「学習に対する意欲を高めるため」、「歴史を知るため」、「山形県についての知識を高めるため」の割合が高く、変更層では「体験を通して学ぶため」、「学習内容の理解を深めるため」、未知層では「体験を通して学ぶため」、「歴史を知るため」の割合が高くなっている。

予定層では、歴史・山形といった特定分野での活用が他層に比べて高い。また、校外学習先に県立博物館を選択しなくなった変更層で「学習内容の理解を高めるため」が1位となっているにもかかわらず、学習先に選ばれない。

図表7 校外学習で利用したい理由（「その他」、「該当なし」を除く）

単位：％

		n=	学習内容の理解を深めるため	学習意欲を高めるため	体験を通して学ぶため	社会のしくみを知るため	歴史を知るため	山形県についての知識を高めるため	動物・植物などの生命の大切さを知るため	感動体験を得るため	自然の偉大さ・美しさに触れるため
全 体		43	20.9	<u>27.9</u>	<u>34.9</u>	7.0	<u>32.6</u>	<u>27.9</u>	11.6	7.0	11.6
ク リ 用 ス タ ー	予定層	11	27.3	<u>45.5</u>	36.4	0.0	<u>45.5</u>	<u>45.5</u>	27.3	9.1	9.1
	変更層	16	<u>31.3</u>	<u>25.0</u>	<u>31.3</u>	6.3	<u>25.0</u>	<u>25.0</u>	6.3	6.3	18.8
	未知層	16	6.3	<u>18.8</u>	<u>37.5</u>	12.5	<u>31.3</u>	<u>18.8</u>	6.3	6.3	6.3

⑤ 校外学習で県立博物館を利用しない理由（別表14）

校外学習で県立博物館を利用しない理由は、全体の1位が「遠い・交通の便が良くないから」60.0%となった。階層別にみても同様の傾向となっている。

図表8 校外学習で県立博物館を利用しない理由（回答なしを除く）

単位：％

		n=	県立博物館のことをよく知らないから	展示物が魅力的でないから	遠い／交通の便が良くないから	交通費が高いから	その他
全 体		25	12.0	4.0	<u>60.0</u>	16.0	8.0
ク リ 用 ス タ ー	予定層	2	0.0	0.0	<u>100.0</u>	0.0	0.0
	変更層	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	未知層	23	13.0	4.3	<u>56.5</u>	17.4	8.7

※標本数は回答数とする

(2) 県立博物館のリニューアルへの期待

① 県立博物館の印象・イメージ（別表15、別表20）

県立博物館の印象・イメージは、全体として「子どもの教育によい」、「大人が勉強になる」、「貴重なものが見られる」、「山形県のことわかる」で高い評価を得ている。一方で「雰囲気が明るい」、「長い時間過ごせる」、「身近」、「快適」では比較的评价が低くなっている。

階層別でみると、予定層では「通常の生活では感じられない体験が得られる」が他層に比べて印象・イメージが高く、博物館への期待度が高いことが仮説として立てられる。変更層では「説明・解説が分かりやすい」、「楽しめる」、「児童・生徒たちが喜ぶ」など肯定的な印象・イメージが他層に比べて高い。

一方で、予定層・未知層で「楽しめる」のポイントが低く、「児童・生徒たちが喜ぶ」も低調である。

図表 9 県立博物館の印象・イメージ

		比較的评价が高いもの	比較的评价が低いもの
全 体		1 位：子どもの教育によい 2 位：大人が勉強になる 3 位：貴重なものが見られる	1 位：雰囲気が明るい 2 位：長い時間過ごせる 3 位：身近
利用度 クラスター	予定層	1 位：大人が勉強になる 2 位：子どもの教育によい、 山形県のことわかる	1 位：身近 2 位：雰囲気が明るい 3 位：快適
	変更層	1 位：大人が勉強になる 2 位：子どもの教育によい、 貴重なものが見られる	1 位：長い時間過ごせる、 雰囲気が明るい 3 位：快適
	未知層	1 位：子どもの教育によい 2 位：大人が勉強になる、 貴重なものが見られる、 山形県のことわかる	1 位：身近 2 位：長い時間過ごせる、 雰囲気が明るい

県立博物館の印象・イメージ（別表15、別表20）

- ・ 入口が暗く、怖い感じ、入りづらい感じがする。（小学校・中学校）
- ・ 県博は、貴重な資料が豊富に展示されているが見ただけで終わり、体験できるものが少ない。（小学校・中学校）
- ・ 資料は並べているだけでは子どもたちは楽しめないし、喜ばれない。見るだけでなく、触れる、嗅ぐ、聞く、場合によって味わうなど、五感をフルに使って子どもたちが体験できることが必要である。（中学校）
- ・ 生活では得られない体験が得られているか、という点でイメージや評価は分かれている。また、いつもと違うことをやっているなど、展示のソフトはアップデートが必要である。（中学校）
- ・ 博物館は発見の場であり、実物を見て事実を検証する場だと考える。発見、体験、探究などの言葉がイメージできる。（中学校）

② 新しい県立博物館に期待する役割（別表16）

新しい県立博物館に期待する役割は、全体の1位が「子どもが自ら学びに訪れる博物館」74.4%、2位が「大人が学びに訪れる博物館」と「学校教育と連動して学びを深められる博物館」55.8%となっている。学びに関する内容の充実が高く、学校教育との連動が期待されている。また、学びに次ぐものに「子どもが遊びに訪れる」への期待も高い。

階層別にみると、予定層では、子どもの遊び場所や観光への期待値が他層に比べて低く、変更層では子どもの自らの学びや学校教育との連動への期待値が他層に比べて高い。

変更層では、ものづくりの継承への期待が比較的高い。

未知層では、他層に比べて山形の未来、子どもの居場所、インクルーシブ、地域社会への参加などの割合が高く、学びや学習にとどまらない要素の需要が高くなっている。

図表10 新博物館に期待する役割（回答なしを除く）

単位：％

		n=	博物館 子どもが遊びに訪れる	子どもが自ら学びに訪れる博物館	子どもの居場所になる博物館	大人が学びに訪れる博物館	学校教育と連動して学びを深められる博物館	生涯学習を支援する博物館	証言など、県民の記憶を集める博物館	山形の生活の知恵・技術を継承する博物館	ものづくりの技と心を継承する博物館	山形の食文化を継承・発展する博物館	山形の未来を考えられる博物館
全 体		43	25.6	<u>74.4</u>	20.9	<u>55.8</u>	<u>55.8</u>	41.9	11.6	25.6	23.3	11.6	27.9
ク リ 用 度 ス タ ー	予定層	11	9.1	<u>63.6</u>	9.1	<u>54.5</u>	<u>54.5</u>	<u>63.6</u>	9.1	36.4	18.2	18.2	18.2
	変更層	16	31.3	<u>93.8</u>	12.5	<u>50.0</u>	<u>81.3</u>	31.3	12.5	37.5	37.5	6.3	12.5
	未知層	16	31.3	<u>62.5</u>	37.5	<u>62.5</u>	31.3	37.5	12.5	6.3	12.5	12.5	<u>50.0</u>

		n=	高度な研究を行い成果を発信する博物館	仕事に役立つ情報や技術が得られる博物館	観光の視点から山形の色を伝える博物館	産業振興（農業など）する博物館	様々な人が交流するインクルーシブな博物館	ボランティア活動が活発な博物館	地域の人々が運営に参加できる博物館	地域社会への参加を促す博物館	地域文化の担い手を育てる博物館	地球規模の課題に取り組む博物館
全 体		43	4.7	2.3	18.6	2.3	18.6	4.7	9.3	11.6	16.3	9.3
ク リ 用 度 ス タ ー	予定層	11	9.1	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	18.2	18.2
	変更層	16	6.3	0.0	25.0	0.0	12.5	12.5	12.5	6.3	12.5	6.3
	未知層	16	0.0	6.3	18.8	6.3	31.3	0.0	12.5	25.0	18.8	6.3

新博物館に期待する役割（別表16）

- ・ 役割や機能の拡がりを期待している。学校が一番求めているのは、子どもが自ら主体的に学ぶことである。先生方からも魅力があり、子どもたちにとっても、遊びからの学びを体験できる博物館がよい。（中学校）
- ・ 調べて、見るだけでは中学生には響かない。リアルに自分の感覚とつながり、実感をもてると、学習意欲が高まる。学校の単元に沿った内容で、本物に触れる体験ができることが望ましい。（中学校）
- ・ インクルーシブはこれから大事である。障害の有無だけでなく世代のつながりが必要である。（中学校）
- ・ 博物館の入りやすさについて、明るい雰囲気、無料のスペース、気軽に入れることは重要である。（中学校）
- ・ 幼稚園児や保育園児が入りやすい博物館であれば、小中高となっても入りやすいのではないかと。子どもたちが夜、勉強できるスペースを用意するのもよい。（中学校）
- ・ 親が幼稚園児や保育園児を連れていける施設になってほしい。新博物館を考えると入口として「幼児でも楽しい」というコンセプトがあると魅力的だ。（小学校）
- ・ 博物館利用の入口を広くしてほしい。博物館利用が目的ではない人も身近に施設を訪れ、何度か訪れているうちに博物館の利用につながっていく、そうしたこともあると良いのではないかと。（小学校）

③ 校外学習先として新博物館に期待するモノ・コト（別表17）

校外学習先として新博物館に期待するモノ・コトは、全体の1位が「デジタル技術による演出が施されている」44.2%、2位が「要望に応じた体験・見学ツアーを組んでもらえる」39.5%、3位が「展示物（レプリカ）に触れることができる」32.6%となっている。

階層別にみると、予定層では、指導状況に応じたツアー対応や、多くのテーマ・分野の展示への期待が高い。

変更層では、要望に応じた体験・見学ツアーと、エンタメ要素も織り交ぜられた見学への期待が1位である。

未知層では、学芸員によるガイド・解説が2位で、また、公式HPやSNSでこまめな情報発信・情報更新、事前の見どころ確認への期待が多層に比べて高い。

図表11 校外学習先として新博物館に期待するモノ・コト（回答なしを除く）

単位：％

	n=	学芸員のガイド・解説付きで見学できる	エンタメ要素も織り交ぜられた見学を体験できる	展示物に光・音・振動などの効果演出が施されている	デジタル技術による演出が施されている	展示物が分かりやすく、展示物がくわしく解説されている	展示物（レプリカ）含むに触れることができる	身近な生活文化や自然環境に関する展示物が見られる	通常展示されないような貴重な展示物が見られる	出来るだけ多くのテーマ・分野の展示が見られる	出来るだけ多くの展示物（展示数）が見られる
全 体	43	30.2	30.2	16.3	44.2	11.6	32.6	23.3	9.3	20.9	23.3
ク 利 用 度 ス タ ー	予定層	18.2	18.2	18.2	45.5	18.2	27.3	18.2	18.2	36.4	27.3
	変更層	25.0	50.0	12.5	37.5	12.5	31.3	31.3	12.5	18.8	31.3
	未知層	43.8	18.8	18.8	50.0	6.3	37.5	18.8	0.0	12.5	12.5

	n=	公式HPやSNSでこまめな情報発信・情報更新される	事前に見どころ紹介を確認できる	休息など学習以外の過ごし方ができる	マンガ・アニメで説明・解説するパンフレットや動画がある	学芸員との触れ合いの場・ワークショップを開催できる	指導状況に応じた体験・見学ツアーを組んでもらえる	要望に応じた体験・見学ツアーを組んでもらえる
全 体	43	20.9	25.6	14.0	18.6	7.0	30.2	39.5
ク 利 用 度 ス タ ー	予定層	2.4	4.9	2.4	2.4	9.1	36.4	36.4
	変更層	1.5	4.5	4.5	4.5	6.3	31.3	50.0
	未知層	10.9	9.4	3.1	6.3	6.3	25.0	31.3

校外学習先として新博物館に期待するモノ・コト（別表17）

- 校外学習では遊びの要素が大事となる。遊びの中から学びをみつけていくような博物館の機能があると良い。（小学校・中学校）
- 特別支援学校のカリキュラムでの訪問は、交通機関の利用・駅での過ごし方・博物館などでの楽しみ方が一体的に経験される。博物館での受入対応ができること、交通機関での対応がともになされているとよい。（特支）
- 団体見学ツアーは最初に全体説明があることは前提で、あとは子どもたちが自由に見られるシステムが良い。（中学校）
- ツアーガイドはもっと聞きたいと思うような説明の仕方が必要。学芸員による説明のスキルアップも必要と感じる。（中学校）
- 見学時、子どもたちは途中で飽きるので、観光ガイドのような説明の仕方や、学びを後押しするような話し方が必要だと思う。（中学校）
- あそこになかったものが見られた、などの満足度を高める工夫が必要。季節ごとなど、山形の四季を味わえるような企画は面白いと思う。（中学校）

④ 博学連携の推進のために期待されること（別表18、別表21）

博学連携の推進のために期待されることは、全体の1位が「交通アクセスへの配慮」、2位が「学芸員による出張授業」、3位が「展示物（レプリカ）の貸し出し」となっている。また、児童・生徒及び先生の見学事前学習、見学後の事後フォローへの期待が高い。階層別にみると予定層では「先生への見学後フォロー」が他層に比べて低い。また、変更層では先生への見学事前すり合わせと、見学後フォローの期待が高い。未知層では保管資料の貸し出しが他層に比べて期待が高い。

図表12 博学連携の推進のために期待すること

		期待が大きいもの
全 体		1位：交通アクセスへの配慮 2位：学芸員による出張授業 3位：展示物（レプリカ）の貸し出し
利用度 クラスター	予定層	1位：展示物（レプリカ）の貸し出し 2位：交通アクセスへの配慮、 学芸員による出張授業
	変更層	1位：学芸員による出張授業 2位：展示物（レプリカ）の貸し出し 3位：交通アクセスへの配慮
	未知層	1位：交通アクセスへの配慮 2位：学芸員による出張授業 3位：児童・生徒への事前学習、 児童・生徒たちへの見学後の事後フォロー

博学連携の推進のために期待すること（別表18、別表21）

- ・ 「交通アクセスへの配慮」への期待値が予定層から未知層にかけてポイントが高くなっていくことが注目された。予定層は比較的近い学校が多いのではないかと考えられる。（中学校）
- ・ 学校側が一番求めていることは、生徒が主体的に学ぶこと。パッケージとしてプログラムを学習との関連で開発し、それをうまくPRするとよい。（中学校）
- ・ 学芸員による出張授業について小学校は期待している。詳しく知りたい方は来館してください、という流れだと学校行事にも組み込みやすい。企業の社会貢献活動の一環として出前授業が行われている。（小学校・中学校）
- ・ 総合の取り組みは困っている学校も多い。本来の探究学習ができていないところが多い。学生を交えて「新しい博物館」を議論するワークショップの実施などは良いと思う。（中学校）

3 博学連携の推進に向けた課題と今後の方向性

県内の小中学校が、校外学習先として県立博物館を利用する割合は全体の2割弱であり、その利用しない理由は「遠い」、「県立博物館のことをよく知らない」が上位となっている。

県立博物館の印象・イメージは、「子どもの教育に良い」、「大人が勉強になる」、「貴重なものが見られる」の評価が高く、「雰囲気明るい」、「長い時間過ごせる」、「身近」の評価が低くなっている。

新博物館に期待する役割は、「子どもが自ら学びに訪れる博物館」、「大人が学びに訪れる博物館」、「学校と連動して学びを深められる博物館」の割合が高く、期待されるコト・モノは、「デジタル技術による演出が施されている」、「要望に応じた体験・見学ツアーを組んでもらえる」、「展示物に触れることができる」の割合が高くなっている。

博学連携のために期待されることは、「交通アクセスへの配慮」、「学芸員による出張授業」、「展示物の貸し出し」の割合が高くなっている。

以上のアンケート調査結果と教員へのインタビュー結果を踏まえ、3-1 校外学習の予定と意向、3-2 新博物館のリニューアルへの期待の視点から、今後、博学連携を推進する上で重要な課題や方向性を整理する。

3-1 校外学習の予定と意向

(1) 学習との結びつきを重視した博物館資源の活用

校外学習先の選定は、学習内容との関わりが大きな要因であり、教科書や学習指導要領とのつながりを教員に示しておくことが重要となる。また、リーフレットなどを準備し、小中学校に事前配布するなどの具体的なアプローチがあると、来館利用までの道筋ができると考えられる。

このため、教員と連携し、学習指導要領にあった展示や解説マニュアル、貸し出し展示物リストの作成、学年や障がいの有無、その他様々な要望に対応できる館内パッケージツアーや学習プログラムの整備などを行うことが望ましい。また、小中学校の学習から一歩踏み込んだ解説や動画、映像装置を使った演出、五感をフルに使った「わくわく」するような体験展示を整備することも効果的である。

さらに、新博物館の整備過程そのものが、子どもたちが地域を学ぶ最良の教材となり得ることから、探究学習と連携したワークショップの開催などにより、新博物館への関心を高めていくことも求められる。

(2) 特別支援学校と開発する博物館見学・体験プログラム

特別支援学校のカリキュラムでの訪問は、交通機関の利用・駅での過ごし方・博物館などでの楽しみ方が一体的に経験できるプログラムとなっている。そのため、近接する交通機関等と連携し、学習プログラムと一体化した博物館見学・体験プログラム、手で触れて感じるハンズオン展示などを検討していく必要がある。

(3) 遠隔地の小中学校と博物館を結ぶ仕組み

校外学習として博物館を利用する際、移動時間や交通アクセスの確保が大きな壁になっている。県内4地域全ての小中学校と県立博物館を結ぶ仕組みとして、遠隔地にいても博物館体験が可能なサービスを提供するため、鶴岡市郷土資料館と連携し、今年度初めて庄内地域で開催した移動博物館「庄内自然史博物展（2025.1.25～3.23）」や出張授業などのアウトリーチ活動を充実させることが重要となる。

(4) 人と人とのつながりを広げ、活用した認知度向上

博学連携の推進に向けては、まずは、博物館活動や学習指導要領と連動した博物館の利用イメージを小中学校に知ってもらうことが重要であり、HP、SNS、メディアを通じた情報発信とともに、学校への広報、教育関係者の集会や連絡網などを通じた教員への直接PRを積極的に進めていく必要がある。

3-2 新博物館のリニューアルへの期待の視点

(1) 誰もが入りやすく、多世代で楽しめる博物館のイメージづくり

特に幼児の頃から親子で博物館を訪れることは、子どもたちと博物館との接点を生み、再び訪れるきっかけとなり得る。見学以外の目的でも安心して楽しく過ごせる環境を備えるため、子ども用の休憩スペースや遊び場としても使える展示コーナー、また中高生向けには学習スペースの整備なども検討する必要がある。

なお、博物館におけるインクルーシブデザインや合理的配慮による誰もが利用できる環境整備にあり方については、引き続き検討を進める必要がある。

(2) モノやコトを通して感じる博物館ならではの体験を充実

教室での学びとは異なるモノやコトを通してリアルに感じる博物館ならではの体験が重要となる。実物資料に触れる展示や、多様な世代との交流をきっかけに関連事象への興味につなげるハンズオン展示などが求められている。

3-1(1)の再掲となるが、小中学校の学習から一步踏み込んだ解説や動画、映像装置を使った演出、五感をフルに使った「わくわく」するような体験展示を整備することも効果的である。

(3) 学びだけではない、レクリエーションや遊びの重視

新しい博物館には、学校利用をきっかけとして、日常でも過ごせる環境、学びと遊びの分け隔てのない博物館体験の提供が求められている。遊戯性の高い体験型展示や、1年を通して四季折々に、多様な人々との交流を育むイベントやワークショップを開催することで、遊びながら学べる工夫を博物館全体に取り入れていくことも必要となる。

(4) 教員が博物館を使いやすくなるメニューづくり

児童・生徒の博物館体験を充実させ、使いやすくするためには、事前に教員に対して博物館の利用メニューを提示しておくことが重要となる。このため、学校団体利用メニューの開発、個別ニーズに応じた見学コースの設定、教員向けの利活用説明会の開催、生徒が自主的に学べる学習プログラムなどを検討していく必要がある。

また、学校側の要望にきめ細かく対応するため、博物館側の受入態勢としては、独立した教育普及部門の設置や、エデュケーターの配置、教育を主題にした人材育成システムの構築などが考えられる。

3-3 その他

(1) 新博物館への関心の喚起

3-1(1)の再掲となるが、新博物館の整備過程そのものが、子どもたちが地域を学ぶ最良の教材となり得ることから、探究学習と連携したワークショップの開催などにより、新博物館への関心を高めていくことも求められる。

別表 小中学校教員アンケート調査集計表

別表 1 回答数と分布

Q1. 学校名をご記入ください。表中の上段は割合(%)、下段は件数(以下全て同じ。)

		標本数	地域別			
			村山	最上	置賜	庄内
全体		43	23.3 10	25.6 11	27.9 12	23.3 10
種別	小学校	25	28.0 7	24.0 6	24.0 6	24.0 6
	中学校	18	16.7 3	27.8 5	33.3 6	22.2 4

別表 2 回答者の担当教科

Q4. 担当教科を教えてください。小学校の担任の先生のように担当教科が複数にわたる場合には、得意教科を教えてください。

		標本数	1 国語	2 算数・数学	3 理科	4 生活	5 社会	6 外国語活動・外国語	7 音楽	8 図画工作・美術	9 技術・家庭	10 体育・保健体育	11 特別の教科 道徳	12 総合的な学習の時間	13 特別活動	14 その他
全体		43	11.6 5	20.9 9	32.6 14	0.0 0	16.3 7	7.0 3	4.7 2	11.6 5	9.3 4	7.0 3	2.3 1	7.0 3	4.7 2	2.3 1
種別	小学校	25	12.0 3	24.0 6	40.0 10	0.0 0	16.0 4	4.0 1	8.0 2	12.0 3	12.0 3	4.0 1	0.0 0	4.0 1	4.0 1	4.0 1
	中学校	18	11.1 2	16.7 3	22.2 4	0.0 0	16.7 3	11.1 2	0.0 0	11.1 2	5.6 1	11.1 2	5.6 1	11.1 2	5.6 1	0.0 0
地域別	村山	10	10.0 1	20.0 2	30.0 3	0.0 0	20.0 2	0.0 0	10.0 1	0.0 0	10.0 1	10.0 1	0.0 0	10.0 1	0.0 0	10.0 1
	小学校	7	14.3 1	28.6 2	14.3 1	0.0 0	28.6 2	0.0 0	14.3 1	0.0 0	14.3 1	0.0 0	0.0 0	14.3 1	0.0 0	14.3 1
	中学校	3	0.0 0	0.0 0	66.7 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	最上	11	0.0 0	18.2 2	45.5 5	0.0 0	0.0 0	9.1 1	0.0 0	0.0 0	18.2 2	18.2 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	0.0 0	16.7 1	50.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	0.0 0	20.0 1	40.0 2	0.0 0	0.0 0	20.0 1	0.0 0	0.0 0	20.0 1	20.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	置賜	12	25.0 3	25.0 3	8.3 1	0.0 0	25.0 3	8.3 1	8.3 1	25.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	8.3 1	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	33.3 2	16.7 1	16.7 1	0.0 0	33.3 2	0.0 0	16.7 1	33.3 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	6	16.7 1	33.3 2	0.0 0	0.0 0	16.7 1	16.7 1	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0
	庄内	10	10.0 1	20.0 2	50.0 5	0.0 0	20.0 2	10.0 1	0.0 0	20.0 2	10.0 1	0.0 0	10.0 1	10.0 1	20.0 2	0.0 0
	小学校	6	0.0 0	33.3 2	83.3 5	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0	16.7 1	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0
	中学校	4	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 2	0.0 0	0.0 0	25.0 1	0.0 0	0.0 0	25.0 1	25.0 1	25.0 1	0.0 0

※複数選択のため合計は100.0%を超える

別表 3 回答者の担当学年

Q5. 担当(または主に担当している学年)を教えてください。

		標本数	1 小学一年	2 小学二年	3 小学三年	4 小学四年	5 小学五年	6 小学六年	7 中学一年	8 中学二年	9 中学三年	10 担任外
全体		43	0.0 0	2.3 1	9.3 4	11.6 5	11.6 5	7.0 3	7.0 3	20.9 9	9.3 4	48.8 21
種別	小学校	25	0.0 0	4.0 1	16.0 4	20.0 5	20.0 5	12.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	56.0 14
	中学校	18	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 3	50.0 9	22.2 4	38.9 7
地域別	村山	10	0.0 0	0.0 0	0.0 0	10.0 1	10.0 1	0.0 0	10.0 1	20.0 2	0.0 0	60.0 6
	小学校	7	0.0 0	0.0 0	0.0 0	14.3 1	14.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	71.4 5
	中学校	3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	66.7 2	0.0 0	33.3 1
	最上	11	0.0 0	0.0 0	18.2 2	9.1 1	18.2 2	9.1 1	0.0 0	18.2 2	9.1 1	54.5 6
	小学校	6	0.0 0	0.0 0	33.3 2	16.7 1	33.3 2	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 3
	中学校	5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	40.0 2	20.0 1	60.0 3
	置賜	12	0.0 0	8.3 1	16.7 2	25.0 3	0.0 0	8.3 1	8.3 1	33.3 4	25.0 3	25.0 3
	小学校	6	0.0 0	16.7 1	33.3 2	50.0 3	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 2
	中学校	6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	66.7 4	50.0 3	16.7 1
	庄内	10	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	20.0 2	10.0 1	10.0 1	10.0 1	0.0 0	60.0 6
	小学校	6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 2	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	66.7 4
	中学校	4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	25.0 1	0.0 0	50.0 2

※複数選択のため合計は100.0%を超える

別表 4 校外学習の行先

Q6. (A. 場所) 本年度実施または実施予定の主な校外学習をお教えてください。

A. 場所		標本数	1 山形県立博物館	2 山形県庁	3 蔵王（お釜等）	4 山形県郷土館「文翔館」	5 山寺（立石寺）	6 山形美術館	7 山寺芭蕉記念館	8 最上観光歴史館	9 うきたむ風土記の丘考古資料館（高島町）	10 上杉博物館（米沢市）	11 羽黒山（神社、五重塔、石段）	12 致道博物館（鶴岡市）	13 出羽三山歴史博物館（鶴岡市）	14 本間美術館（酒田市）	15 慈恩寺（寒河江市）	16 慈恩寺ミュージアム（寒河江市）	17 西沼田遺跡公園（天童市）	18 山形市野草園	19 加茂水族館（鶴岡市）	20 浜田広介記念館（高島町）	21 新庄ふるさと歴史センター	22 山形県産業科学館	23 その他	該当なし
全体		43	16.3 7	16.3 7	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	7.0 3	0.0 0	2.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	11.6 5	2.3 1	2.3 1	7.0 3	41.9 18	11.6 5
種別	小学校	25	28.0 7	28.0 7	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	4.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	20.0 5	4.0 1	0.0 0	12.0 3	28.0 7	8.0 2
	中学校	18	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	5.6 1	0.0 0	61.1 11	16.7 3	
地域別	村山	10	10.0 1	20.0 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	20.0 2	40.0 4	20.0 2
	小学校	7	14.3 1	28.6 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	28.6 2	28.6 2	14.3 1
	中学校	3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	66.7 2	33.3 1	
	最上	11	36.4 4	27.3 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	18.2 2	0.0 0	9.1 1	9.1 1	36.4 1	0.0 0
	小学校	6	66.7 4	50.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 2	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0	
	中学校	5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	2.0 0	0.0 0	1.0 0	80.0 4	0.0 0
	置賜	12	16.7 2	16.7 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	8.3 1	0.0 0	41.7 5	8.3 1	
	小学校	6	33.3 2	33.3 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0	50.0 3	0.0 0	
	中学校	6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 2	16.7 1	
	庄内	10	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	10.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	30.0 3	0.0 0	0.0 0	50.0 5	20.0 2	
	小学校	6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 3	0.0 0	0.0 0	33.3 2	16.7 1	
	中学校	4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	75.0 3	25.0 1
利用度 別	予定層	11	63.6 7	45.5 5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	9.1 1	9.1 1	0.0 0	9.1 1	18.2 2	0.0 0
	変更層	16	0.0 0	12.5 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	6.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 4	0.0 0	0.0 0	12.5 2	43.8 7	12.5 2
	未知層	16	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	18.8 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	6.3 1	0.0 0	56.3 9	18.8 3	

※複数選択のため合計は100.0%を超える

別表 5 校外学習の実施学年

Q6. (B. 学年) 本年度実施または実施予定の主な校外学習をお教えてください。（複数選択可）

B. 理由		標本数	1 小学 一年生	2 小学 二年生	3 小学 三年生	4 小学 四年生	5 小学 五年生	6 小学 六年生	7 中学 一年生	8 中学 二年生	9 中学 三年生	該当なし
全体		43	23.3 10	14.0 6	11.6 5	34.9 15	7.0 3	4.7 2	27.9 12	16.3 7	14.0 6	14.0 6
種別	小学校	25	40.0 10	24.0 6	20.0 5	60.0 15	12.0 3	8.0 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	8.0 2
	中学校	18	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	66.7 12	38.9 7	33.3 6	22.2 4	22.2 4
地域別	村山	10	10.0 1	20.0 2	10.0 1	20.0 2	10.0 1	0.0 0	10.0 1	0.0 0	10.0 1	20.0 2
	小学校	7	14.3 1	28.6 2	14.3 1	28.6 2	14.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	14.3 1
	中学校	3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	0.0 0	33.3 1	33.3 1	33.3 1
	最上	11	27.3 3	0.0 0	18.2 2	54.5 6	0.0 0	0.0 0	27.3 3	18.2 2	18.2 2	9.1 1
	小学校	6	50.0 3	0.0 0	33.3 2	100.0 6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	60.0 3	40.0 2	40.0 2	20.0 1	20.0 1
	置賜	12	16.7 2	8.3 1	8.3 1	41.7 5	0.0 0	41.7 5	16.7 2	8.3 1	8.3 1	8.3 1
	小学校	6	33.3 2	16.7 1	16.7 1	83.3 5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	83.3 5	33.3 2	16.7 1	16.7 1	16.7 1
	庄内	10	40.0 4	30.0 3	10.0 1	20.0 2	20.0 2	30.0 3	30.0 3	20.0 2	20.0 2	20.0 2
	小学校	6	66.7 4	50.0 3	16.7 1	33.3 2	33.3 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1
	中学校	4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	75.0 3	75.0 3	50.0 2	25.0 1	25.0 1
利用度 別	予定層	11	25.0 5	5.0 1	10.0 2	40.0 8	0.0 0	0.0 0	10.0 2	5.0 1	5.0 1	0.0 0
	変更層	16	16.7 4	16.7 4	8.3 2	25.0 6	8.3 2	4.2 1	4.2 1	4.2 1	8.3 2	8.3 2
	未知層	16	3.6 1	3.6 1	3.6 1	3.6 1	3.6 1	32.1 9	17.9 5	14.3 4	14.3 4	14.3 4

※複数選択のため合計は100.0%を超える

別表6 校外学習の利用ケース

Q6. (C. 利用ケース) 本年度実施または実施予定の主な校外学習をお教えてください。(複数選択可)

C. 利用ケース		標本数	1 授業または校外学習	2 クラブ・部活動・サークル	3 放課後子ども教室・放課後児童クラブ(学童)	4 その他	無回答
全体		43	79.1 34	0.0 0	0.0 0	2.3 1	18.6 8
種別	小学校	25	92.0 23	0.0 0	0.0 0	0.0 0	8.0 2
	中学校	18	61.1 11	0.0 0	0.0 0	5.6 1	33.3 6
地域別	村山	10	80.0 8	0.0 0	0.0 0	0.0 0	20.0 2
	小学校	7	85.7 6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	14.3 1
	中学校	3	66.7 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1
	最上	11	72.7 8	0.0 0	0.0 0	9.1 1	18.2 2
	小学校	6	100.0 6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	40.0 2	0.0 0	0.0 0	20.0 1	40.0 2
	置賜	12	91.7 11	0.0 0	0.0 0	0.0 0	8.3 1
	小学校	6	100.0 6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	6	83.3 5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1
	庄内	10	70.0 7	0.0 0	0.0 0	0.0 0	30.0 3
	小学校	6	83.3 5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1
	中学校	4	50.0 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 2
利用度 別	予定層	11	90.9 10	0.0 0	0.0 0	0.0 0	18.2 2
	変更層	16	81.3 13	0.0 0	0.0 0	0.0 0	12.5 2
	未知層	16	68.8 11	0.0 0	0.0 0	6.3 1	25.0 4

別表7 校外学習を実施する理由

Q6. (D. 理由) 本年度実施または実施予定の主な校外学習をお教えてください。(複数選択可)

D. 理由		標本数	1 学習内容の理解を深めるため	2 学習に対する意欲を高めるため	3 体験を通して学ぶため	4 社会のしくみを知るため	5 歴史を知るため	6 山形県についての知識を高めるため	7 動物・植物などの生命の大切さを知るため	8 感動体験を得るため	9 自然の偉大さ・美しさに触れるため	10 その他	11 該当なし
全体		43	44.2 19	30.2 13	46.5 20	18.6 8	25.6 11	16.3 7	9.3 4	7.0 3	7.0 3	9.3 4	18.6 8
種別	小学校	25	56.0 14	32.0 8	48.0 12	24.0 6	20.0 5	20.0 5	12.0 3	12.0 3	8.0 2	8.0 2	8.0 2
	中学校	18	27.8 5	27.8 5	44.4 8	11.1 2	33.3 6	11.1 2	5.6 1	0.0 0	5.6 1	11.1 2	33.3 6
地域別	村山	10	40.0 4	30.0 3	40.0 4	20.0 2	0.0 0	10.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	10.0 1	20.0 2
	小学校	7	57.1 4	42.9 3	42.9 3	28.6 2	0.0 0	14.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	14.3 1
	中学校	3	0.0 0	0.0 0	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	33.3 1
	最上	11	45.5 5	45.5 5	45.5 5	27.3 3	54.5 6	27.3 3	18.2 2	9.1 1	9.1 1	0.0 0	18.2 2
	小学校	6	50.0 3	50.0 3	50.0 3	33.3 2	50.0 3	50.0 3	33.3 2	16.7 1	16.7 1	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	40.0 2	40.0 2	40.0 2	20.0 1	60.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	40.0 2
	置賜	12	58.3 7	33.3 4	50.0 6	25.0 3	25.0 3	16.7 2	8.3 1	0.0 0	8.3 1	16.7 2	8.3 1
	小学校	6	83.3 5	16.7 1	50.0 3	33.3 2	16.7 1	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0
	中学校	6	33.3 2	50.0 3	50.0 3	16.7 1	33.3 2	16.7 1	16.7 1	0.0 0	16.7 1	16.7 1	16.7 1
	庄内	10	30.0 3	10.0 1	50.0 5	0.0 0	20.0 2	10.0 1	10.0 1	20.0 2	10.0 1	10.0 1	30.0 3
	小学校	6	33.3 2	16.7 1	50.0 3	0.0 0	16.7 1	0.0 0	16.7 1	33.3 2	16.7 1	16.7 1	16.7 1
	中学校	4	25.0 1	0.0 0	50.0 2	0.0 0	25.0 1	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 2
利用度 別	予定層	11	54.5 6	45.5 5	45.5 5	27.3 3	27.3 3	36.4 4	9.1 1	9.1 1	9.1 1	9.1 1	9.1 1
	変更層	16	50.0 8	25.0 4	43.8 7	18.8 3	12.5 2	6.3 1	12.5 2	12.5 2	6.3 1	6.3 1	18.8 3
	未知層	16	31.3 5	25.0 4	50.0 8	12.5 2	37.5 6	12.5 2	6.3 1	0.0 0	6.3 1	12.5 2	18.8 3

※複数選択のため合計は100.0%を超える

別表 8 校外学習で行きたい場所

Q7. (A. 場所) 今後、校外学習で行きたいと考えている場所をお教えてください。

			1 山形県立博物館	2 山形県庁	3 蔵王（お釜等）	4 山形県郷土館「文翔館」	5 山寺（立石寺）	6 山形美術館	7 山寺芭蕉記念館	8 最上蔵光歴史館	9 うまたむ風土記の丘考古資料館（高島町）	10 上杉博物館（米沢市）	11 羽黒山（神社 五重塔、石段）	12 致道博物館（鶴岡市）	13 出羽三山歴史博物館（鶴岡市）	14 本間美術館（酒田市）	15 慈恩寺（寒河江市）	16 慈恩寺ミュージアム（寒河江市）	17 西沼田遺跡公園（天童市）	18 山形市野草園	19 加茂水族館（鶴岡市）	20 浜田広介記念館（高島町）	21 新庄ふるさと歴史センター	22 山形県産業科学館	23 その他	該当なし	
A. 場所																											
全体		43	11.6 5	14.0 6	4.7 2	2.3 1	2.3 1	2.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	7.0 3	4.7 2	7.0 3	0.0 0	2.3 1	2.3 1	2.3 1	2.3 1	2.3 1	11.6 5	0.0 0	2.3 1	16.3 7	4.7 2	14.0 6	
種別	小学校	25	12.0 3	16.0 4	8.0 2	4.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	8.0 2	4.0 1	12.0 3	0.0 0	0.0 0	4.0 1	4.0 1	4.0 1	0.0 0	16.0 4	0.0 0	0.0 0	20.0 5	0.0 0	12.0 3	
	中学校	18	11.1 2	11.1 2	0.0 0	0.0 0	5.6 1	5.6 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	5.6 1	5.6 1	0.0 0	0.0 0	5.6 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	5.6 1	5.6 1	0.0 0	5.6 1	11.1 2	11.1 2	16.7 3	
地域別	村山	10	0.0 0	20.0 2	20.0 2	0.0 0	10.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	10.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	10.0 1	10.0 1	0.0 0	10.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	30.0 3	0.0 0	10.0 1	
	小学校	7	0.0 0	28.6 2	28.6 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	14.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	14.3 1	14.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	28.6 2	0.0 0	0.0 0	
	中学校	3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	0.0 0	33.3 1	
	最上	11	27.3 3	18.2 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	9.1 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	36.4 4	0.0 0	9.1 1	27.3 3	0.0 0	9.1 1	
	小学校	6	33.3 2	33.3 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 3	0.0 0	0.0 0	33.3 2	0.0 0	0.0 0	
	中学校	5	20.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	20.0 1	0.0 0	20.0 1	20.0 1	0.0 0	20.0 1	
	置賜	12	16.7 2	16.7 2	0.0 0	8.3 1	0.0 0	8.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	8.3 1	8.3 1	16.7 2	
	小学校	6	16.7 1	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0	33.3 2	
	中学校	6	16.7 1	33.3 2	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 1	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0	
	庄内	10	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	20.0 2	20.0 2	0.0 0	10.0 1	0.0 0	0.0 0	10.0 1	10.0 1	0.0 0	0.0 1	0.0 0	0.0 0	10.0 1	20.0 2	
	小学校	6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	33.3 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	
	中学校	4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	0.0 0	0.0 0	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	25.0 1		
	利用度 クラスター別	予定層	11	45.5 5	9.1 1	0.0 0	9.1 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	9.1 1	0.0 0	9.1 1	0.0 0	0.0 0	9.1 1	9.1 1	0.0 0	0.0 0	18.2 2	0.0 0	0.0 0	18.2 2	0.0 0	0.0 0
		変更層	16	0.0 0	18.8 3	12.5 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	6.3 1	6.3 1	12.5 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	6.3 1	6.3 1	0.0 0	0.0 1	0.0 0	25.0 4	6.3 1	12.5 2
		未知層	16	0.0 0	12.5 2	0.0 0	0.0 0	6.3 1	6.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	6.3 1	6.3 1	0.0 0	6.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	12.5 2	0.0 0	6.3 1	6.3 1	6.3 1	25.0 4

※複数選択のため合計は100.0%を超える

別表 9 校外学習を実施したい学年

Q7. (B. 学年) 今後、校外学習で行きたいと考えている場所をお教えてください。（複数選択可）

B. 学年		標本数	1 小学一年生	2 小学二年生	3 小学三年生	4 小学四年生	5 小学五年生	6 小学六年生	7 中学一年生	8 中学二年生	9 中学三年生	該当なし
全体		43	9.3 4	4.7 2	11.6 5	30.2 13	2.3 1	7.0 3	23.3 10	18.6 8	11.6 5	16.3 7
種別	小学校	25	16.0 4	8.0 2	20.0 5	52.0 13	4.0 1	12.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.0 4
	中学校	18	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	55.6 10	44.4 8	27.8 5	16.7 3
地域別	村山	10	10.0 1	0.0 0	10.0 1	50.0 5	0.0 0	0.0 0	10.0 1	10.0 1	20.0 2	20.0 2
	小学校	7	14.3 1	0.0 0	14.3 1	71.4 5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	14.3 1
	中学校	3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	33.3 1	66.7 2	33.3 1
	最上	11	27.3 3	0.0 0	18.2 2	45.5 5	0.0 0	0.0 0	27.3 3	9.1 1	9.1 1	9.1 1
	小学校	6	50.0 3	0.0 0	33.3 2	83.3 5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	60.0 3	20.0 1	20.0 1	20.0 1
	置賜	12	0.0 0	8.3 1	0.0 0	16.7 2	8.3 1	8.3 1	33.3 4	33.3 4	8.3 1	16.7 2
	小学校	6	0.0 0	16.7 1	0.0 0	33.3 2	16.7 1	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 2
	中学校	6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	66.7 4	66.7 4	16.7 1	0.0 0
	庄内	10	0.0 0	10.0 1	20.0 2	10.0 1	0.0 0	20.0 2	20.0 2	20.0 2	10.0 1	20.0 2
	小学校	6	0.0 0	16.7 1	33.3 2	16.7 1	0.0 0	33.3 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1
	中学校	4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 2	50.0 2	25.0 1	25.0 1
	予定層	11	27.3 3	9.1 1	27.3 3	45.5 5	9.1 1	9.1 1	18.2 2	18.2 2	0.0 0	0.0 0
	変更層	16	6.3 1	0.0 0	12.5 2	50.0 8	0.0 0	12.5 2	12.5 2	12.5 2	12.5 2	18.8 3
	未知層	16	0.0 0	6.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	37.5 6	25.0 4	18.8 3	25.0 4

※複数選択のため合計は100.0%を超える

別表10 校外学習を実施したい利用ケース

Q7. (C. 利用ケース) 今後、校外学習で行きたいと考えている場所をお教えてください。(複数選択可)

C. 利用ケース		標本数	1 授業または校外学習	2 クラブ・部活動・サークル	3 放課後子ども教室・放課後児童クラブ(学童)	4 その他	無回答
全体		43	76.7 33	7.0 3	0.0 0	2.3 1	16.3 7
種別	小学校	25	84.0 21	0.0 0	0.0 0	4.0 1	12.0 3
	中学校	18	66.7 12	16.7 3	0.0 0	0.0 0	22.2 4
地域別	村山	10	90.0 9	10.0 1	0.0 0	0.0 0	10.0 1
	小学校	7	100.0 7	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	3	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0	33.3 1
	最上	11	90.9 10	0.0 0	0.0 0	0.0 0	9.1 1
	小学校	6	100.0 6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	80.0 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	20.0 1
	置賜	12	75.0 9	8.3 1	0.0 0	0.0 0	16.7 2
	小学校	6	66.7 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 2
	中学校	6	83.3 5	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	庄内	10	50.0 5	10.0 1	0.0 0	10.0 1	30.0 3
	小学校	6	66.7 4	0.0 0	0.0 0	16.7 1	16.7 1
	中学校	4	25.0 1	25.0 1	0.0 0	0.0 0	50.0 2
利用度 別	予定層	11	100.0 11	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	変更層	16	75.0 12	6.3 1	0.0 0	6.3 1	18.8 3
	未知層	16	62.5 10	12.5 2	0.0 0	0.0 0	25.0 4

※複数選択のため合計は100.0%を超える

別表11 校外学習で利用したい理由

Q7. (D. 理由) 今後、校外学習で行きたいと考えている場所をお教えてください。(複数選択可)

D. 理由		標本数	1 学習内容の理解を深めるため	2 学習に対する意欲を高めるため	3 体験を通して学ぶため	4 社会のしくみを知るため	5 歴史を知るため	6 山形県についての知識を高めるため	7 動物・植物などの生命の大切さを知るため	8 感動体験を得るため	9 自然の偉大さ・美しさに触れるため	10 その他	該当なし
全体		43	20.9 9	27.9 12	34.9 15	7.0 3	32.6 14	27.9 12	11.6 5	7.0 3	11.6 5	4.7 2	16.3 7
種別	小学校	25	24.0 6	32.0 8	32.0 8	4.0 1	32.0 8	32.0 8	16.0 4	8.0 2	16.0 4	4.0 1	12.0 3
	中学校	18	16.7 3	22.2 4	38.9 7	11.1 2	33.3 6	22.2 4	5.6 1	5.6 1	5.6 1	5.6 1	22.2 4
地域別	村山	10	10.0 1	20.0 2	30.0 3	10.0 1	30.0 3	30.0 3	0.0 0	10.0 1	20.0 2	10.0 1	10.0 1
	小学校	7	14.3 1	28.6 2	28.6 2	14.3 1	28.6 2	42.9 3	0.0 0	14.3 1	14.3 1	14.3 1	0.0 0
	中学校	3	0.0 0	0.0 0	33.3 1	0.0 0	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	0.0 0	33.3 1
	最上	11	27.3 3	36.4 4	45.5 5	0.0 0	27.3 3	45.5 5	36.4 4	18.2 2	9.1 1	0.0 0	9.1 1
	小学校	6	33.3 2	50.0 3	33.3 2	0.0 0	33.3 2	50.0 3	50.0 3	16.7 1	16.7 1	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	20.0 1	20.0 1	60.0 3	0.0 0	20.0 1	40.0 2	20.0 1	20.0 1	0.0 0	0.0 0	20.0 1
	置賜	12	16.7 2	41.7 5	25.0 3	16.7 2	33.3 4	33.3 4	8.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 2
	小学校	6	0.0 0	33.3 2	16.7 1	0.0 0	16.7 1	33.3 2	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 2
	中学校	6	33.3 2	50.0 3	33.3 2	33.3 2	50.0 3	33.3 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	庄内	10	30.0 3	10.0 1	40.0 4	0.0 0	40.0 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	20.0 2	10.0 1	30.0 3
	小学校	6	50.0 3	16.7 1	50.0 3	0.0 0	50.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 2	0.0 0	16.7 1
	中学校	4	0.0 0	0.0 0	25.0 1	0.0 0	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	50.0 2
利用度 別	予定層	11	27.3 3	45.5 5	36.4 4	0.0 0	45.5 5	45.5 5	27.3 3	9.1 1	9.1 1	0.0 0	0.0 0
	変更層	16	31.3 5	25.0 4	31.3 5	6.3 1	25.0 4	25.0 4	6.3 1	6.3 1	18.8 3	6.3 1	18.8 3
	未知層	16	6.3 1	18.8 3	37.5 6	12.5 2	31.3 5	18.8 3	6.3 1	6.3 1	6.3 1	6.3 1	25.0 4

※複数選択のため合計は100.0%を超える

別表 12 県立博物館の認知度

Q8. このアンケートにご回答される前から、ご存知でしたか。

		標 本 数	1 場 所・ 展 示 内 容 な ど を 知 っ て い た	2 場 所 の み 知 っ て い た	3 名 前 の み 知 っ て い た	4 知 ら な か っ た
全体		43	88.4 38	4.7 2	7.0 3	0.0 0
種別	小学校	25	100.0 25	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	18	72.2 13	11.1 2	16.7 3	0.0 0
地域別	村山	10	90.0 9	10.0 1	0.0 0	0.0 0
	小学校	7	100.0 7	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	3	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0
	最上	11	90.9 10	0.0 0	9.1 1	0.0 0
	小学校	6	100.0 6	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	80.0 4	0.0 0	20.0 1	0.0 0
	置賜	12	75.0 9	8.3 1	16.7 2	0.0 0
	小学校	6	100.0 6	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	6	50.0 3	16.7 1	33.3 2	0.0 0
	庄内	10	100.0 10	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	100.0 6	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	4	100.0 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0

別表 13 県立博物館の利用状況

Q9. 校外学習で「山形県立博物館」を利用したことはありますか。

		標 本 数	1 行 っ た こ と が あ る	2 行 っ た こ と は な い
全体		43	58.1 25	41.9 18
種別	小学校	25	92.0 23	8.0 2
	中学校	18	11.1 2	88.9 16
地域別	村山	10	80.0 8	20.0 2
	小学校	7	100.0 7	0.0 0
	中学校	3	33.3 1	66.7 2
	最上	11	54.5 6	45.5 5
	小学校	6	100.0 6	0.0 0
	中学校	5	0.0 0	100.0 5
	置賜	12	50.0 6	50.0 6
	小学校	6	100.0 6	0.0 0
	中学校	6	0.0 0	100.0 6
	庄内	10	50.0 5	50.0 5
	小学校	6	66.7 4	33.3 2
	中学校	4	25.0 1	75.0 3

別表14 校外学習で県立博物館を利用しない理由

Q10. 校外学習で「山形県立博物館」を利用しない理由として、当てはまるものすべてに○をつけてください。

		標本数※	1 「山形県立博物館」のことがよく知らないから	2 児童・生徒たちが博物館に興味がないから	3 児童・生徒たちが「県立博物館」の展示物に興味がないから	4 児童・生徒たちへの学習効果が期待できないから	5 展示物が魅力的でないから	6 児童・生徒たちに見せたいテーマ・分野の展示がないから	7 展示が分かりにくく、児童・生徒たちへの説明が難しいから	8 児童・生徒たちが楽しく学べる展示物が少ないから	9 映像やデジタル技術による演出が少ないから	10 休息など学習以外の過ごし方ができる場所がないから	11 特別展・期間限定の展示がない／少ないから	12 遠い／交通の便が良くないから	13 交通費が高いから	14 その他	15 特に理由はない
種別	全体	25	12.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	4.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	60.0 15	16.0 4	8.0 2	0.0 0
	小学校	2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	23	13.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	4.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	56.5 13	17.4 4	8.7 2	0.0 0
地域別	村山	2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 1	0.0 0	50.0 1	0.0 0
	小学校	0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 1	0.0 0	50.0 1	0.0 0
	最上	8	12.5 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	62.5 5	12.5 1	12.5 1	0.0 0
	小学校	0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	8	12.5 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	62.5 5	12.5 1	12.5 1	0.0 0
	置賜	9	22.2 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	11.1 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	44.4 4	22.2 2	0.0 0	0.0 0
	小学校	0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	9	22.2 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	11.1 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	44.4 4	22.2 2	0.0 0	0.0 0
	庄内	6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	83.3 5	16.7 1	0.0 0	0.0 0
	小学校	2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	75.0 3	25.0 1	0.0 0	0.0 0
利用度 別	予定層	2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	変更層	0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	未知層	23	13.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	4.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	56.5 13	17.4 4	8.7 2	0.0 0

※標本数は回答数とする

別表15 県立博物館の印象・イメージ

Q11. 「山形県立博物館」にどんな印象・イメージを持っていますか。各項目の5つから1つを選択ください。

		標本数	1 子どもの教育によい					2 大人が勉強になる					3 楽しめる				
			1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない
種別	全体	43	41.9 18	46.5 20	11.6 5	0.0 0	0.0 0	48.8 21	34.9 15	11.6 5	4.7 2	0.0 0	16.3 7	41.9 18	34.9 15	7.0 3	0.0 0
	小学校	25	48.0 12	48.0 12	4.0 1	0.0 0	0.0 0	60.0 15	32.0 8	8.0 2	0.0 0	0.0 0	20.0 5	48.0 12	20.0 5	12.0 3	0.0 0
	中学校	18	52.0 6	44.0 8	4.0 4	0.0 0	0.0 0	33.3 6	38.9 7	16.7 3	11.1 2	0.0 0	11.1 2	33.3 6	55.6 10	0.0 0	0.0 0
地域別	村山	10	50.0 5	50.0 5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	60.0 6	30.0 3	10.0 1	0.0 0	0.0 0	30.0 3	40.0 4	30.0 3	0.0 0	0.0 0
	小学校	7	42.9 3	57.1 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	57.1 4	28.6 2	14.3 1	0.0 0	0.0 0	28.6 2	28.6 2	42.9 3	0.0 0	0.0 0
	中学校	3	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	66.7 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	最上	11	45.5 5	45.5 5	9.1 1	0.0 0	0.0 0	54.5 6	27.3 3	9.1 1	9.1 1	0.0 0	18.2 2	27.3 3	45.5 5	9.1 1	0.0 0
	小学校	6	66.7 4	33.3 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	83.3 5	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 1	16.7 3	16.7 1	0.0 1	0.0 0
	中学校	5	20.0 1	60.0 3	20.0 1	0.0 0	0.0 0	20.0 1	40.0 2	20.0 1	20.0 1	0.0 0	20.0 1	0.0 0	80.0 4	0.0 0	0.0 0
	置賜	12	41.7 5	33.3 4	25.0 3	0.0 0	0.0 0	50.0 6	33.3 4	16.7 2	0.0 0	0.0 0	8.3 1	41.7 5	41.7 5	8.3 1	0.0 0
	小学校	6	33.3 2	50.0 3	16.7 1	0.0 0	0.0 0	50.0 3	50.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	50.0 3	16.7 1	16.7 1	0.0 0
	中学校	6	50.0 3	16.7 1	33.3 2	0.0 0	0.0 0	50.0 3	16.7 1	33.3 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 2	66.7 4	0.0 0	0.0 0
	庄内	10	30.0 3	60.0 6	10.0 1	0.0 0	0.0 0	30.0 3	50.0 5	10.0 1	10.0 1	0.0 0	10.0 1	60.0 6	20.0 2	10.0 1	0.0 0
	小学校	6	50.0 3	50.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 3	33.3 2	16.7 1	0.0 0	0.0 0	16.7 1	66.7 4	0.0 0	16.7 1	0.0 0
	中学校	4	0.0 0	75.0 3	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	75.0 3	0.0 0	25.0 1	0.0 0	0.0 0	50.0 2	50.0 2	0.0 0	0.0 0
利用度 別	予定層	11	36.4 4	63.6 7	0.0 0	0.0 0	0.0 0	54.5 6	45.5 5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	9.1 1	45.5 5	27.3 3	18.2 2	0.0 0
	変更層	16	56.3 9	37.5 6	6.3 1	0.0 0	0.0 0	62.5 10	31.3 5	6.3 1	0.0 0	0.0 0	25.0 4	50.0 8	25.0 4	0.0 0	0.0 0
	未知層	16	31.3 5	43.8 7	25.0 4	0.0 0	0.0 0	31.3 5	31.3 5	25.0 4	12.5 2	0.0 0	12.5 2	31.3 5	50.0 8	6.3 1	0.0 0

別表15 県立博物館の印象・イメージ

Q11.「山形県立博物館」にどんな印象・イメージを持っていますか。各項目の5つから1つを選択ください。

		標本数	4 快適					5 ワクワクする					6 驚き・インパクトが大きい				
			1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない
全体		43	16.3 7	23.3 10	53.5 23	2.3 1	4.7 2	14.0 6	32.6 14	46.5 20	4.7 2	2.3 1	16.3 7	30.2 13	46.5 20	4.7 2	2.3 1
種別	小学校	25	16.0 4	24.0 6	52.0 13	4.0 1	4.0 1	12.0 3	40.0 10	48.0 12	0.0 0	0.0 0	12.0 3	36.0 9	48.0 12	4.0 1	0.0 0
	中学校	18	16.7 3	22.2 4	55.6 10	0.0 0	5.6 1	16.7 3	22.2 4	44.4 8	11.1 2	5.6 1	22.2 4	22.2 4	44.4 8	5.6 1	5.6 1
地域別	村山	10	30.0 3	30.0 3	30.0 3	10.0 1	0.0 0	20.0 2	40.0 4	40.0 4	0.0 0	0.0 0	30.0 3	30.0 3	30.0 3	10.0 1	0.0 0
	小学校	7	28.6 2	14.3 1	42.9 3	14.3 1	0.0 0	14.3 1	28.6 2	57.1 4	0.0 0	0.0 0	14.3 1	28.6 2	42.9 3	14.3 1	0.0 0
	中学校	3	33.3 1	66.7 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	66.7 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	最上	11	18.2 1	18.2 2	63.6 0	0.0 0	0.0 0	18.2 2	27.3 3	45.5 5	9.1 1	0.0 0	18.2 2	27.3 3	45.5 5	9.1 1	0.0 0
	小学校	6	16.7 1	33.3 2	50.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	50.0 3	33.3 2	0.0 0	0.0 0	16.7 1	50.0 3	33.3 2	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	20.0 1	0.0 0	80.0 4	0.0 0	0.0 0	20.0 1	0.0 0	60.0 3	20.0 1	0.0 0	20.0 1	0.0 0	60.0 3	20.0 1	0.0 0
	置賜	12	16.7 2	16.7 2	58.3 7	0.0 0	8.3 1	16.7 2	33.3 4	50.0 6	0.0 0	0.0 0	16.7 2	33.3 4	50.0 6	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	16.7 1	16.7 1	50.0 3	0.0 0	16.7 1	16.7 1	33.3 2	50.0 3	0.0 0	0.0 0	16.7 1	33.3 2	50.0 3	0.0 0	0.0 0
	中学校	6	16.7 1	16.7 1	66.7 4	0.0 0	0.0 0	16.7 1	33.3 2	50.0 3	0.0 0	0.0 0	16.7 1	33.3 2	50.0 3	0.0 0	0.0 0
	庄内	10	0.0 0	30.0 3	60.0 6	0.0 0	10.0 1	0.0 0	30.0 3	50.0 5	10.0 1	10.0 1	0.0 0	30.0 3	60.0 6	0.0 0	10.0 1
	小学校	6	0.0 0	33.3 3	66.7 6	0.0 0	0.0 1	0.0 0	50.0 3	50.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 2	66.7 4	0.0 0	0.0 0
	中学校	4	0.0 0	25.0 1	50.0 2	0.0 0	25.0 1	0.0 0	0.0 0	50.0 2	25.0 1	25.0 1	0.0 0	25.0 1	50.0 2	0.0 0	25.0 1
利用度別	予定層	11	9.1 1	18.2 2	63.6 7	0.0 0	9.1 1	9.1 1	45.5 5	45.5 5	0.0 0	0.0 0	9.1 1	45.5 5	45.5 5	0.0 0	0.0 0
	変更層	16	18.8 3	37.5 6	31.3 5	6.3 1	6.3 1	12.5 2	37.5 6	43.8 7	0.0 0	6.3 1	18.8 3	31.3 5	37.5 6	6.3 1	6.3 1
	未知層	16	18.8 3	12.5 2	68.8 11	0.0 0	0.0 0	18.8 3	18.8 3	50.0 8	12.5 2	0.0 0	18.8 3	18.8 3	56.3 9	6.3 1	0.0 0

Q11.「山形県立博物館」にどんな印象・イメージを持っていますか。各項目の5つから1つを選択ください。

		標本数	7 雰囲気明るい					8 身近					9 感動が得られる				
			1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない
全体		43	7.0 3	16.3 7	58.1 25	14.0 6	4.7 2	9.3 4	25.6 11	44.2 19	16.3 7	4.7 2	14.0 6	39.5 17	41.9 18	4.7 2	0.0 0
種別	小学校	25	8.0 2	12.0 3	56.0 14	20.0 5	4.0 1	8.0 2	32.0 8	40.0 10	16.0 4	4.0 1	12.0 3	48.0 12	36.0 9	4.0 1	0.0 0
	中学校	18	5.6 1	22.2 4	61.1 11	5.6 1	5.6 1	11.1 2	16.7 3	50.0 9	16.7 3	5.6 1	16.7 3	27.8 5	50.0 9	5.6 1	0.0 0
地域別	村山	10	20.0 2	10.0 1	50.0 5	20.0 2	0.0 0	10.0 1	40.0 4	50.0 5	0.0 0	0.0 0	30.0 3	40.0 4	30.0 3	0.0 0	0.0 0
	小学校	7	28.6 2	0.0 0	42.9 3	28.6 2	0.0 0	14.3 1	42.9 3	42.9 3	0.0 0	0.0 0	14.3 1	42.9 3	42.9 3	0.0 0	0.0 0
	中学校	3	0.0 0	33.3 1	66.7 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	66.7 2	0.0 0	0.0 0	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	最上	11	9.1 1	18.2 2	54.5 6	18.2 2	0.0 0	9.1 1	36.4 4	27.3 3	27.3 3	0.0 0	18.2 2	18.2 2	54.5 6	9.1 1	0.0 0
	小学校	6	0.0 0	33.3 2	50.0 3	16.7 1	0.0 0	0.0 0	50.0 3	33.3 2	16.7 1	0.0 0	16.7 1	33.3 2	33.3 2	16.7 1	0.0 0
	中学校	5	20.0 1	0.0 0	60.0 3	20.0 1	0.0 0	20.0 1	20.0 1	20.0 1	40.0 2	0.0 0	20.0 1	0.0 0	80.0 4	0.0 0	0.0 0
	置賜	12	0.0 0	25.0 3	58.3 7	8.3 1	8.3 1	0.0 0	25.0 3	66.7 8	0.0 0	8.3 1	8.3 1	50.0 6	41.7 5	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	0.0 0	16.7 1	50.0 3	16.7 1	16.7 1	0.0 0	33.3 2	50.0 3	0.0 0	16.7 1	16.7 1	50.0 3	33.3 2	0.0 0	0.0 0
	中学校	6	0.0 0	33.3 2	66.7 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	83.3 5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 3	50.0 3	0.0 0	0.0 0
	庄内	10	0.0 0	10.0 1	70.0 7	10.0 1	10.0 1	20.0 2	0.0 0	30.0 3	40.0 4	10.0 1	0.0 0	50.0 5	40.0 4	10.0 1	0.0 0
	小学校	6	0.0 0	0.0 0	83.3 5	16.7 1	0.0 0	16.7 1	0.0 0	33.3 2	50.0 3	0.0 0	0.0 0	66.7 4	33.3 2	0.0 0	0.0 0
	中学校	4	0.0 0	25.0 1	50.0 2	0.0 0	25.0 1	25.0 1	0.0 0	25.0 1	25.0 1	25.0 1	0.0 0	25.0 1	50.0 2	25.0 1	0.0 0
利用度別	予定層	11	0.0 0	18.2 2	63.6 7	9.1 1	9.1 1	0.0 0	18.2 2	54.5 6	18.2 2	9.1 1	9.1 1	45.5 5	45.5 5	0.0 0	0.0 0
	変更層	16	12.5 2	12.5 2	43.8 7	25.0 4	6.3 1	12.5 2	43.8 7	31.3 5	6.3 1	6.3 1	18.8 3	43.8 7	25.0 4	12.5 2	0.0 0
	未知層	16	6.3 1	18.8 3	68.8 11	6.3 1	0.0 0	12.5 2	12.5 2	50.0 8	25.0 4	0.0 0	12.5 2	31.3 5	56.3 9	0.0 0	0.0 0

別表15 県立博物館の印象・イメージ

Q11.「山形県立博物館」にどんな印象・イメージを持っていますか。各項目の5つから1つを選択ください。

		標本数	10 見どころが多い					11 長い時間過ごせる					12 何度も来館して楽しめる				
			1 とても そう思う	2 やや そう思う	3 どちら ともい えない	4 あまり そう思 わない	5 そう 思わな い	1 とても そう思 う	2 やや そう思 う	3 どちら ともい えない	4 あまり そう思 わない	5 そう 思わな い	1 とても そう思 う	2 やや そう思 う	3 どちら ともい えない	4 あまり そう思 わない	5 そう 思わな い
全体		43	16.3 7	30.2 13	46.5 20	7.0 3	0.0 0	11.6 5	20.9 9	41.9 18	23.3 10	2.3 1	14.0 6	23.3 10	48.8 21	11.6 5	2.3 1
種別	小学校	25	16.0 4	32.0 8	44.0 11	8.0 2	0.0 0	12.0 3	24.0 6	40.0 10	24.0 6	0.0 0	12.0 3	24.0 6	52.0 13	12.0 3	0.0 0
	中学校	18	16.7 3	27.8 5	50.0 9	5.6 1	0.0 0	11.1 2	16.7 3	44.4 8	22.2 4	5.6 1	16.7 3	22.2 4	44.4 8	11.1 2	5.6 1
地域別	村山	10	20.0 2	50.0 5	20.0 2	10.0 1	0.0 0	20.0 2	30.0 3	30.0 3	20.0 2	0.0 0	30.0 3	30.0 3	30.0 3	10.0 1	0.0 0
	小学校	7	14.3 1	42.9 3	28.6 2	14.3 1	0.0 0	14.3 1	28.6 2	42.9 3	14.3 1	0.0 0	14.3 1	28.6 2	42.9 3	14.3 1	0.0 0
	中学校	3	33.3 1	66.7 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	33.3 1	0.0 0	33.3 1	0.0 0	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	最上	11	18.2 2	18.2 2	54.5 6	9.1 1	0.0 0	18.2 2	18.2 2	45.5 5	18.2 2	0.0 0	18.2 2	27.3 3	36.4 4	18.2 2	0.0 0
	小学校	6	16.7 1	33.3 2	33.3 2	16.7 1	0.0 0	16.7 1	33.3 2	50.0 3	0.0 0	0.0 0	16.7 1	33.3 2	33.3 2	16.7 1	0.0 0
	中学校	5	20.0 1	0.0 0	80.0 4	0.0 0	0.0 0	20.0 1	0.0 0	40.0 2	40.0 2	0.0 0	20.0 1	20.0 1	40.0 2	20.0 1	0.0 0
	置賜	12	16.7 2	25.0 3	58.3 7	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 3	50.0 6	25.0 3	0.0 0	0.0 0	25.0 3	66.7 8	8.3 1	0.0 0
	小学校	6	16.7 2	16.7 3	66.7 7	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 2	16.7 1	50.0 3	0.0 0	0.0 0	33.3 2	50.0 3	16.7 1	0.0 0
	中学校	6	16.7 1	33.3 2	50.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	83.3 5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	83.3 5	0.0 0	0.0 0
	庄内	10	10.0 1	30.0 3	50.0 5	10.0 1	0.0 0	10.0 1	10.0 1	40.0 4	30.0 3	10.0 1	10.0 1	10.0 1	60.0 6	10.0 1	10.0 1
	小学校	6	16.7 1	33.3 2	50.0 3	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0	50.0 3	33.3 2	0.0 0	16.7 1	0.0 0	83.3 5	0.0 0	0.0 0
	中学校	4	0.0 0	25.0 1	50.0 2	25.0 1	0.0 0	0.0 0	25.0 1	25.0 1	25.0 1	25.0 1	0.0 0	25.0 1	25.0 1	25.0 1	25.0 1
	予定層	11	9.1 1	36.4 4	45.5 5	9.1 1	0.0 0	9.1 1	27.3 3	45.5 5	18.2 2	0.0 0	9.1 1	27.3 3	45.5 5	18.2 2	0.0 0
	変更層	16	18.8 3	37.5 6	31.3 5	12.5 2	0.0 0	12.5 2	18.8 3	31.3 5	31.3 5	6.3 1	18.8 3	18.8 3	43.8 7	12.5 2	6.3 1
	未知層	16	18.8 3	18.8 3	62.5 10	0.0 0	0.0 0	12.5 2	18.8 3	50.0 8	18.8 3	0.0 0	12.5 2	25.0 4	56.3 9	6.3 1	0.0 0

Q11.「山形県立博物館」にどんな印象・イメージを持っていますか。各項目の5つから1つを選択ください。

		標本数	13 児童・生徒たちが喜び					14 学習意欲を刺激する					15 通常の生活では感じられない体験が得られる				
			1 とても そう思う	2 やや そう思う	3 どちら ともい えない	4 あまり そう思 わない	5 そう 思わな い	1 とても そう思 う	2 やや そう思 う	3 どちら ともい えない	4 あまり そう思 わない	5 そう 思わな い	1 とても そう思 う	2 やや そう思 う	3 どちら ともい えない	4 あまり そう思 わない	5 そう 思わな い
全体		43	14.0 6	44.2 19	32.6 14	9.3 4	0.0 0	23.3 10	37.2 16	34.9 15	4.7 2	0.0 0	20.9 9	48.8 21	23.3 10	7.0 3	0.0 0
種別	小学校	25	16.0 4	60.0 15	20.0 5	4.0 1	0.0 0	24.0 6	44.0 11	28.0 7	4.0 1	0.0 0	24.0 6	64.0 16	12.0 3	0.0 0	0.0 0
	中学校	18	11.1 2	22.2 4	50.0 9	16.7 3	0.0 0	22.2 4	27.8 5	44.4 8	5.6 1	0.0 0	16.7 3	27.8 5	38.9 7	16.7 3	0.0 0
地域別	村山	10	20.0 2	60.0 6	20.0 2	0.0 0	0.0 0	40.0 4	50.0 5	10.0 1	0.0 0	0.0 0	30.0 3	60.0 6	10.0 1	0.0 0	0.0 0
	小学校	7	14.3 1	71.4 5	14.3 1	0.0 0	0.0 0	28.6 2	57.1 4	14.3 1	0.0 0	0.0 0	28.6 2	71.4 5	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	3	33.3 1	33.3 1	33.3 1	0.0 0	0.0 0	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	33.3 1	33.3 1	0.0 0	0.0 0
	最上	11	18.2 2	27.3 3	27.3 3	27.3 3	0.0 0	18.2 2	27.3 3	54.5 6	0.0 0	0.0 0	27.3 3	36.4 4	27.3 3	9.1 1	0.0 0
	小学校	6	16.7 1	50.0 3	33.3 2	0.0 0	0.0 0	16.7 1	50.0 3	33.3 2	0.0 0	0.0 0	33.3 2	66.7 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	20.0 1	0.0 0	20.0 1	60.0 3	0.0 0	20.0 1	0.0 0	80.0 4	0.0 0	0.0 0	20.0 1	0.0 0	60.0 3	20.0 1	0.0 0
	置賜	12	8.3 1	50.0 6	41.7 5	0.0 0	0.0 0	25.0 3	33.3 4	41.7 5	0.0 0	0.0 0	25.0 3	50.0 6	25.0 3	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	16.7 1	66.7 4	16.7 1	0.0 0	0.0 0	33.3 2	33.3 2	33.3 2	0.0 0	0.0 0	33.3 2	50.0 3	16.7 1	0.0 0	0.0 0
	中学校	6	0.0 0	33.3 2	66.7 4	0.0 0	0.0 0	16.7 1	33.3 2	50.0 3	0.0 0	0.0 0	16.7 1	50.0 3	33.3 2	0.0 0	0.0 0
	庄内	10	10.0 0	40.0 2	40.0 4	10.0 0	0.0 0	10.0 1	40.0 4	30.0 3	20.0 2	0.0 0	0.0 0	50.0 5	30.0 3	20.0 2	0.0 0
	小学校	6	16.7 1	50.0 3	16.7 1	16.7 1	0.0 0	16.7 1	33.3 2	33.3 2	16.7 1	0.0 0	0.0 0	66.7 4	33.3 2	0.0 0	0.0 0
	中学校	4	0.0 0	25.0 1	75.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 2	25.0 1	25.0 1	0.0 0	0.0 0	25.0 1	25.0 1	50.0 2	0.0 0
	予定層	11	9.1 1	63.6 7	18.2 2	9.1 1	0.0 0	18.2 2	54.5 6	27.3 3	0.0 0	0.0 0	27.3 3	63.6 7	9.1 1	0.0 0	0.0 0
	変更層	16	25.0 4	50.0 8	25.0 4	0.0 0	0.0 0	31.3 5	37.5 6	25.0 4	6.3 1	0.0 0	18.8 3	50.0 8	25.0 4	6.3 1	0.0 0
	未知層	16	6.3 1	25.0 4	50.0 8	18.8 3	0.0 0	18.8 3	25.0 4	50.0 8	6.3 1	0.0 0	18.8 3	37.5 6	31.3 5	12.5 2	0.0 0

別表15 県立博物館の印象・イメージ

Q11.「山形県立博物館」にどんな印象・イメージを持っていますか。各項目の5つから1つを選択ください。

		標本数	16 山形県のことわかる					17 貴重なものがみられる					18 説明・解説が分かりやすい				
			1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない
全体		43	30.2 13	53.5 23	14.0 6	2.3 1	0.0 0	39.5 17	44.2 19	11.6 5	4.7 2	0.0 0	14.0 6	51.2 22	32.6 14	2.3 1	0.0 0
種別	小学校	25	32.0 8	60.0 15	8.0 2	0.0 0	0.0 0	52.0 13	40.0 10	8.0 2	0.0 0	0.0 0	12.0 3	60.0 15	28.0 7	0.0 0	0.0 0
	中学校	18	27.8 5	44.4 8	22.2 4	5.6 1	0.0 0	22.2 4	50.0 9	16.7 3	11.1 2	0.0 0	16.7 3	38.9 7	38.9 7	5.6 1	0.0 0
地域別	村山	10	30.0 3	70.0 7	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 5	50.0 5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	30.0 3	60.0 6	10.0 1	0.0 0	0.0 0
	小学校	7	14.3 1	85.7 6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	42.9 3	57.1 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	28.6 2	57.1 4	14.3 1	0.0 0	0.0 0
	中学校	3	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	66.7 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	最上	11	27.3 3	54.5 6	18.2 2	0.0 0	0.0 0	27.3 3	45.5 5	18.2 2	9.1 1	0.0 0	9.1 1	45.5 5	36.4 4	9.1 1	0.0 0
	小学校	6	33.3 2	66.7 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 2	50.0 3	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	66.7 4	33.3 2	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	20.0 1	40.0 2	40.0 2	0.0 0	0.0 0	20.0 1	40.0 2	20.0 1	20.0 1	0.0 0	20.0 1	20.0 1	40.0 2	20.0 1	0.0 0
	置賜	12	50.0 6	25.0 3	25.0 3	0.0 0	0.0 0	41.7 5	33.3 4	25.0 3	0.0 0	0.0 0	16.7 2	50.0 6	33.3 4	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	66.7 4	16.7 1	16.7 1	0.0 0	0.0 0	66.7 4	16.7 1	16.7 1	0.0 0	0.0 0	16.7 1	50.0 3	33.3 2	0.0 0	0.0 0
	中学校	6	33.3 2	33.3 2	33.3 2	0.0 0	0.0 0	16.7 1	50.0 3	33.3 2	0.0 0	0.0 0	16.7 1	50.0 3	33.3 2	0.0 0	0.0 0
	庄内	10	10.0 1	70.0 7	10.0 1	10.0 1	0.0 0	40.0 4	50.0 5	0.0 0	10.0 1	0.0 0	0.0 0	50.0 5	50.0 5	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	16.7 1	66.7 4	16.7 1	0.0 0	0.0 0	66.7 4	33.3 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	66.7 4	33.3 2	0.0 0	0.0 0
	中学校	4	0.0 0	75.0 3	0.0 0	25.0 1	0.0 0	0.0 0	75.0 3	0.0 0	25.0 1	0.0 0	0.0 0	25.0 1	75.0 3	0.0 0	0.0 0
利用度 別	予定層	11	45.5 5	45.5 5	9.1 1	0.0 0	0.0 0	36.4 4	54.5 6	9.1 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	63.6 7	36.4 4	0.0 0	0.0 0
	変更層	16	31.3 5	62.5 10	6.3 1	0.0 0	0.0 0	56.3 9	37.5 6	6.3 1	0.0 0	0.0 0	18.8 3	62.5 10	18.8 3	0.0 0	0.0 0
	未知層	16	18.8 3	50.0 8	25.0 4	6.3 1	0.0 0	25.0 4	43.8 7	18.8 3	12.5 2	0.0 0	18.8 3	31.3 5	43.8 7	6.3 1	0.0 0

Q11.「山形県立博物館」にどんな印象・イメージを持っていますか。各項目の5つから1つを選択ください。

		標本数※	19 鑑賞動線・ルートがわかりやすい					20 展示数が豊富					21 ライブラリーが充実している				
			1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない	1 とてもそう思う	2 ややそう思う	3 どちらともいえない	4 あまりそう思わない	5 そう思わない
全体		43	18.6 8	37.2 16	34.9 15	9.3 4	0.0 0	14.0 6	32.6 14	37.2 16	16.3 7	0.0 0	9.5 4	26.2 11	57.1 24	4.8 2	2.4 1
種別	小学校	25	20.0 5	44.0 11	28.0 7	8.0 2	0.0 0	16.0 4	36.0 9	32.0 8	16.0 4	0.0 0	8.3 2	25.0 6	58.3 14	4.2 1	4.2 1
	中学校	18	16.7 3	27.8 5	44.4 8	11.1 2	0.0 0	11.1 2	27.8 5	44.4 8	16.7 3	0.0 0	11.1 2	27.8 5	55.6 10	5.6 1	0.0 0
地域別	村山	10	30.0 3	50.0 5	10.0 1	10.0 1	0.0 0	20.0 2	40.0 4	30.0 3	10.0 1	0.0 0	22.0 2	22.0 2	44.0 4	11.0 1	0.0 0
	小学校	7	28.6 2	42.9 3	14.3 1	14.3 1	0.0 0	28.6 2	28.6 2	28.6 2	14.3 1	0.0 0	16.7 1	16.7 1	50.0 3	16.7 1	0.0 0
	中学校	3	33.3 1	66.7 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0	33.3 1	33.3 1	33.3 1	0.0 0	0.0 0
	最上	11	18.2 2	45.5 5	18.2 2	18.2 2	0.0 0	18.2 2	36.4 4	36.4 4	9.1 1	0.0 0	18.2 2	27.3 3	54.5 6	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	16.7 1	66.7 4	0.0 0	16.7 1	0.0 0	16.7 1	50.0 3	33.3 2	0.0 0	0.0 0	16.7 1	33.3 2	50.0 3	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	20.0 1	20.0 1	40.0 2	20.0 1	0.0 0	20.0 1	20.0 1	40.0 2	20.0 1	0.0 0	20.0 1	20.0 1	60.0 3	0.0 0	0.0 0
	置賜	12	16.7 2	33.3 4	50.0 6	0.0 0	0.0 0	8.3 1	33.3 4	41.7 5	16.7 2	0.0 0	0.0 0	41.7 5	50.0 6	0.0 0	8.3 1
	小学校	6	16.7 1	33.3 2	50.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 2	33.3 2	33.3 2	0.0 0	0.0 0	33.3 2	50.0 3	0.0 0	16.7 1
	中学校	6	16.7 1	33.3 2	50.0 3	0.0 0	0.0 0	16.7 1	33.3 2	50.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 3	50.0 3	0.0 0	0.0 0
	庄内	10	10.0 1	20.0 2	60.0 6	10.0 1	0.0 0	10.0 1	20.0 2	40.0 4	30.0 3	0.0 0	0.0 0	10.0 1	80.0 8	10.0 1	0.0 0
	小学校	6	16.7 1	33.3 2	50.0 3	0.0 0	0.0 0	16.7 1	33.3 2	33.3 2	16.7 1	0.0 0	0.0 0	16.7 1	83.3 5	0.0 0	0.0 0
	中学校	4	0.0 0	0.0 0	75.0 3	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 2	50.0 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	75.0 3	25.0 1	0.0 0
利用度 別	予定層	11	9.1 1	63.6 7	18.2 2	9.1 1	0.0 0	9.1 1	36.4 4	54.5 6	0.0 0	0.0 0	9.1 1	27.3 3	54.5 6	0.0 0	9.1 1
	変更層	16	25.0 4	37.5 6	25.0 4	12.5 2	0.0 0	18.8 3	37.5 6	12.5 2	31.3 5	0.0 0	6.7 1	33.3 5	53.3 8	6.7 1	0.0 0
	未知層	16	18.8 3	18.8 3	56.3 3	6.3 1	0.0 0	12.5 2	25.0 4	50.0 8	12.5 2	0.0 0	12.5 2	18.8 3	62.5 10	6.3 1	0.0 0

※「21 ライブラリーが充実している」の標本数は、全体42、小学校24、村山地域9、村山地域の小学校6、変更層15

別表16 新博物館に期待する役割

Q12. 新しい「山形県立博物館」にはどんな「博物館像」を期待しますか。選択肢の中から期待する「博物館像」を5つ選び、○をつけてください。

A. 場所	標本数	1 子どもが遊びに訪れる博物館	2 子どもが自ら学びに訪れる博物館	3 子どもの居場所になる博物館	4 大人が学びに訪れる博物館	5 学校教育と連動して学びを深められる博物館	6 生涯学習を支援する博物館	7 証言など、県民の記憶を集める博物館	8 県民同士で山形の特色を伝え合う博物館	9 山形の生活の知恵・技術を継承する博物館	10 ものづくりの技と心を継承する博物館	11 山形の食文化を継承・発展する博物館	12 山形の未来を考えられる博物館	13 高度な研究を行い成果を発信する博物館	14 仕事に役立つ情報や技術が得られる博物館	15 観光の視点から山形の特色を伝える博物館	16 産業振興（産業など）する博物館	17 心と身体に健康に寄与する博物館	18 様々な人が交流するインクルーシブな博物館	19 ボランティア活動が活発な博物館	20 地域の人々が運営に参加できる博物館	21 地域社会への参加を促す博物館	22 地域文化の担い手を育てる博物館	23 地球規模の課題に取り組み博物館	その他
全体	43	25.6 11	74.4 32	20.9 9	55.8 24	55.8 24	41.9 18	11.6 5	0.0 0	25.6 11	23.3 10	11.6 5	27.9 12	4.7 2	2.3 1	18.6 8	2.3 1	0.0 0	18.6 8	4.7 2	9.3 4	11.6 5	16.3 7	9.3 4	0.0 0
種別	小学校	25	28.0 7	76.0 19	12.0 3	60.0 15	64.0 16	44.0 11	8.0 2	0.0 0	32.0 8	20.0 5	8.0 2	0.0 0	0.0 0	16.0 4	0.0 0	0.0 0	20.0 5	8.0 2	8.0 2	4.0 1	16.0 4	12.0 3	0.0 0
	中学校	18	22.2 4	72.2 13	33.3 6	50.0 9	44.4 8	38.9 9	16.7 3	0.0 0	16.7 3	27.8 5	16.7 3	38.9 7	0.0 0	5.6 1	22.2 4	5.6 1	0.0 0	16.7 3	0.0 0	11.1 2	22.2 4	16.7 3	5.6 1
地域別	村山	10	60.0 6	100.0 10	40.0 4	60.0 6	80.0 8	40.0 4	10.0 1	0.0 0	20.0 2	10.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	10.0 1	0.0 0	0.0 0	20.0 2	10.0 1	10.0 1	10.0 1	20.0 2	0.0 0	0.0 0
	小学校	7	57.1 4	100.0 7	28.6 2	57.1 4	85.7 6	42.9 3	0.0 0	0.0 0	14.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	14.3 1	0.0 0	0.0 0	28.6 2	14.3 1	14.3 1	14.3 1	28.6 2	0.0 0	0.0 0
	中学校	3	66.7 2	100.0 3	66.7 2	66.7 2	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0	33.3 1	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	最上	11	18.2 2	54.5 6	18.2 2	54.5 6	45.5 5	36.4 4	18.2 2	0.0 0	27.3 3	18.2 2	0.0 0	27.3 3	9.1 1	0.0 0	36.4 4	0.0 0	9.1 1	0.0 0	9.1 1	18.2 2	18.2 2	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	16.7 1	50.0 3	0.0 0	50.0 3	33.3 3	16.7 2	0.0 0	33.3 3	16.7 2	0.0 0	16.7 1	16.7 1	0.0 0	33.3 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	33.3 3	0.0 0
	中学校	5	20.0 1	60.0 3	40.0 2	60.0 3	40.0 2	20.0 1	0.0 0	20.0 1	20.0 1	0.0 0	40.0 2	0.0 0	0.0 0	40.0 2	0.0 0	0.0 0	20.0 1	0.0 0	20.0 1	40.0 2	20.0 1	0.0 0	0.0 0
	置賜	12	8.3 1	75.0 9	16.7 2	50.0 6	33.3 4	50.0 6	16.7 2	0.0 0	33.3 3	25.0 3	16.7 2	41.7 5	0.0 0	8.3 1	16.7 2	0.0 0	16.7 2	8.3 1	8.3 1	8.3 1	25.0 3	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	0.0 0	83.3 5	16.7 1	50.0 3	33.3 3	50.0 3	16.7 1	0.0 0	50.0 3	33.3 3	33.3 3	33.3 3	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0	16.7 1	16.7 1	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0
	中学校	6	16.7 1	66.7 4	16.7 1	50.0 3	33.3 3	50.0 3	16.7 1	0.0 0	16.7 1	16.7 1	0.0 0	50.0 3	0.0 0	16.7 1	16.7 1	0.0 0	16.7 1	0.0 0	16.7 1	16.7 1	33.3 3	0.0 0	0.0 0
	庄内	10	20.0 2	70.0 7	10.0 1	60.0 6	70.0 7	40.0 4	0.0 0	0.0 0	20.0 2	40.0 4	30.0 3	40.0 4	10.0 1	0.0 0	10.0 1	10.0 1	30.0 3	0.0 0	10.0 1	10.0 1	0.0 0	20.0 2	0.0 0
	小学校	6	33.3 3	66.7 4	0.0 0	83.3 5	83.3 5	50.0 3	0.0 0	0.0 0	33.3 3	33.3 3	0.0 0	33.3 3	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 3	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0
	中学校	4	0.0 0	75.0 3	25.0 1	25.0 1	50.0 2	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 2	75.0 3	50.0 2	0.0 0	25.0 1	25.0 1	0.0 0	25.0 1	0.0 0	25.0 1	0.0 0	25.0 1	0.0 0	0.0 0
利用度 別	予定層	11	9.1 1	63.6 7	9.1 1	54.5 6	54.5 6	63.6 7	9.1 1	0.0 0	36.4 4	18.2 2	18.2 2	9.1 1	0.0 0	9.1 1	0.0 0	0.0 0	9.1 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	18.2 2	18.2 2	0.0 0
	変更層	16	31.3 5	93.8 15	12.5 2	50.0 8	81.3 13	31.3 5	12.5 2	0.0 0	37.5 6	37.5 6	6.3 1	12.5 2	6.3 1	0.0 0	25.0 4	0.0 0	12.5 2	12.5 2	12.5 2	6.3 1	12.5 2	6.3 1	0.0 0
	未知層	16	31.3 5	62.5 10	37.5 6	62.5 10	31.3 5	37.5 6	12.5 2	0.0 0	6.3 1	12.5 2	50.0 8	18.8 3	6.3 1	18.8 3	6.3 1	0.0 0	31.3 5	0.0 0	12.5 2	25.0 4	6.3 1	6.3 1	0.0 0

※複数選択のため合計は100.0%を超える

別表17 校外学習先として新博物館に期待すること

Q13. 児童・生徒たちが新しい「山形県立博物館」を見学するにあたって、先生が特に期待されるモノ・コトを5つ選び、○をつけてください。

		標本数	1 出来たばかりの展示物 展示 数が見られる	2 出来たばかりのテーマ分野の 展示物が見られる	3 通常の展示物（見られる）	4 身近な生活や文化に関する 展示物が見られる	5 展示物（レリカ）に関する 展示物が見られる	6 展示物（レリカ）に関する 展示物が見られる	7 デジタル技術による展示物 が見られる	8 展示物（レリカ）に関する 展示物が見られる	9 展示物（レリカ）に関する 展示物が見られる	10 展示物（レリカ）に関する 展示物が見られる	11 展示物（レリカ）に関する 展示物が見られる	12 展示物（レリカ）に関する 展示物が見られる	13 展示物（レリカ）に関する 展示物が見られる	14 展示物（レリカ）に関する 展示物が見られる	15 展示物（レリカ）に関する 展示物が見られる	16 展示物（レリカ）に関する 展示物が見られる	17 展示物（レリカ）に関する 展示物が見られる	18 展示物（レリカ）に関する 展示物が見られる
全体		43	23.3 10	20.9 9	9.3 4	23.3 10	32.6 14	11.6 5	44.2 19	16.3 7	30.2 13	0.0 0	30.2 13	39.5 17	30.2 13	7.0 3	14.0 6	25.6 11	20.9 9	
種別	小学校	25	28.0 7	20.0 5	12.0 3	32.0 8	36.0 9	20.0 5	48.0 12	20.0 5	36.0 9	0.0 0	20.0 5	48.0 12	32.0 8	8.0 2	12.0 3	4.0 1	12.0 3	
	中学校	18	16.7 3	22.2 4	5.6 1	11.1 2	27.8 5	0.0 0	38.9 7	11.1 2	22.2 4	0.0 0	44.4 8	27.8 5	27.8 5	5.6 1	27.8 5	5.6 1	55.6 10	33.3 6
地域別	村山	10	40.0 4	20.0 2	10.0 1	30.0 3	60.0 6	10.0 1	40.0 4	0.0 0	30.0 3	0.0 0	30.0 3	30.0 3	60.0 6	10.0 1	20.0 2	30.0 3	20.0 2	10.0 1
	小学校	7	42.9 3	14.3 1	0.0 0	28.6 2	57.1 4	14.3 1	57.1 4	0.0 0	42.9 3	0.0 0	28.6 2	42.9 3	57.1 4	14.3 1	14.3 1	42.9 3	0.0 0	14.3 1
	中学校	3	33.3 1	33.3 1	33.3 1	33.3 1	66.7 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	0.0 0	66.7 2	0.0 0	33.3 1	0.0 0	66.7 2	0.0 0
	最上	11	27.3 3	27.3 3	18.2 2	27.3 3	27.3 3	18.2 2	54.5 6	18.2 2	27.3 3	0.0 0	18.2 2	36.4 4	18.2 2	0.0 0	27.3 3	9.1 1	18.2 2	27.3 3
	小学校	6	33.3 2	33.3 2	33.3 2	50.0 3	16.7 1	33.3 3	50.0 3	16.7 1	33.3 3	0.0 0	33.3 3	33.3 3	33.3 3	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	20.0 1	20.0 1	0.0 0	40.0 2	0.0 0	60.0 3	20.0 1	20.0 1	0.0 0	40.0 2	20.0 1	40.0 2	40.0 2	0.0 0	40.0 2	20.0 1	40.0 2	60.0 3
	置賜	12	0.0 0	8.3 1	0.0 0	16.7 2	8.3 1	0.0 0	41.7 5	25.0 3	41.7 5	0.0 0	33.3 3	50.0 6	25.0 3	8.3 1	8.3 1	41.7 5	16.7 2	16.7 2
	小学校	6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	16.7 1	0.0 0	0.0 0	50.0 3	50.0 3	33.3 3	0.0 0	33.3 3	66.7 2	16.7 1	16.7 1	16.7 1	16.7 1	16.7 1	0.0 0
	中学校	6	0.0 0	16.7 1	0.0 0	16.7 1	16.7 1	0.0 0	33.3 3	0.0 0	50.0 3	0.0 0	33.3 3	33.3 3	33.3 3	0.0 0	16.7 1	0.0 0	66.7 2	33.3 3
	庄内	10	30.0 3	30.0 3	10.0 1	20.0 2	40.0 4	20.0 2	40.0 4	20.0 2	20.0 2	0.0 0	40.0 4	40.0 4	20.0 2	10.0 1	20.0 2	10.0 1	20.0 2	30.0 3
	小学校	6	33.3 2	33.3 2	16.7 1	33.3 2	66.7 4	33.3 3	33.3 3	16.7 1	33.3 3	0.0 0	16.7 1	50.0 3	16.7 1	0.0 0	16.7 1	16.7 1	0.0 0	33.3 3
	中学校	4	25.0 1	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 2	25.0 1	0.0 0	0.0 0	75.0 3	25.0 1	25.0 1	25.0 1	25.0 1	0.0 0	50.0 2	25.0 1
利用度 別	予定層	41	27.3 3	36.4 4	18.2 2	27.3 3	18.2 2	45.5 6	18.2 2	18.2 2	0.0 0	18.2 2	36.4 4	36.4 4	9.1 1	2.4 1	4.9 2	2.4 1	2.4 1	2.4 1
	変更層	66	31.3 5	18.8 3	12.5 2	31.3 5	31.3 5	12.5 2	37.5 6	12.5 2	50.0 8	0.0 0	25.0 4	50.0 8	31.3 5	6.3 1	4.5 3	4.5 3	4.5 3	1.5 1
	未知層	64	12.5 2	12.5 2	0.0 0	18.8 3	37.5 6	6.3 1	50.0 8	18.8 3	18.8 3	0.0 0	43.8 7	31.3 5	25.0 4	6.3 1	6.3 1	3.1 2	9.4 6	10.9 7

※複数選択のため合計は100.0%を超える

別表18 博学連携の推進のために期待されること

Q15. 博物館と学校の連携・協力関係を深めるために、どのような施策が魅力的・効果的だと感じますか。

以下の A～H の施策について、魅力的・効果的だと感じる度合いをそれぞれ 1（とても魅力的・効果的である）～5（まったく魅力的・効果的ではない）から選び、○をつけてください。

		標 本 数	A. 学芸員による出張授業					B. 保管資料（研究書・解説書など）の貸し出し					C. 展示物（レプリカ）の貸し出し				
			1 とても 魅力的 ・効果 的 である	2 まあ 魅力的 ・効果 的 である	3 どちら ともい えない	4 あまり 魅力 的・効 果的 でない	5 ま った く魅 力的 ・効 果 的 で な い	1 とても 魅力 的・効 果 的 である	2 まあ 魅力 的・効 果 的 である	3 どちら ともい えない	4 あまり 魅力 的・効 果 的 でない	5 ま った く魅 力的 ・効 果 的 で な い	1 とても 魅力 的・効 果 的 である	2 まあ 魅力 的・効 果 的 である	3 どちら ともい えない	4 あまり 魅力 的・効 果 的 でない	5 ま った く魅 力的 ・効 果 的 で な い
全体		43	34.9 15	58.1 25	4.7 2	2.3 1	0.0 0	18.6 8	53.5 23	25.6 11	2.3 1	0.0 0	27.9 12	60.5 26	11.6 5	0.0 0	0.0 0
種 別	小学校	25	36.0 9	56.0 14	4.0 1	4.0 1	0.0 0	20.0 5	40.0 10	36.0 9	4.0 1	0.0 0	28.0 7	60.0 15	12.0 3	0.0 0	0.0 0
	中学校	18	33.3 6	61.1 11	5.6 1	0.0 0	0.0 0	16.7 3	72.2 13	11.1 2	0.0 0	0.0 0	27.8 5	61.1 11	11.1 2	0.0 0	0.0 0
地 域 別	村山	10	60.0 6	40.0 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 5	40.0 4	10.0 1	0.0 0	0.0 0	60.0 6	40.0 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	小学校	7	57.1 4	42.9 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	57.1 4	28.6 2	14.3 1	0.0 0	0.0 0	57.1 4	42.9 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	3	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	66.7 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	最上	11	36.4 4	63.6 7	0.0 0	0.0 0	0.0 0	9.1 1	54.5 6	27.3 3	9.1 1	0.0 0	27.3 3	63.6 7	9.1 1	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	33.3 2	66.7 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 3	33.3 2	16.7 1	0.0 0	33.3 2	66.7 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	40.0 2	60.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	20.0 1	60.0 3	20.0 1	0.0 0	0.0 0	20.0 1	60.0 3	20.0 1	0.0 0	0.0 0
	置賜	12	25.0 3	58.3 7	8.3 1	8.3 1	0.0 0	16.7 2	50.0 6	33.3 4	0.0 0	0.0 0	8.3 1	66.7 8	25.0 3	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	33.3 2	50.0 3	0.0 0	16.7 1	0.0 0	16.7 1	33.3 2	50.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	66.7 4	33.3 2	0.0 0	0.0 0
	中学校	6	16.7 1	66.7 4	16.7 1	0.0 0	0.0 0	16.7 1	66.7 4	16.7 1	0.0 0	0.0 0	16.7 1	66.7 4	16.7 1	0.0 0	0.0 0
	庄内	10	20.0 2	70.0 7	10.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	70.0 7	30.0 3	0.0 0	0.0 0	20.0 2	70.0 7	10.0 1	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	16.7 1	66.7 4	16.7 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 3	50.0 3	0.0 0	0.0 0	16.7 1	66.7 4	16.7 1	0.0 0	0.0 0
	中学校	4	25.0 1	75.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	75.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0
ク ラ ス タ ー 別	予定層	11	36.4 4	54.5 6	0.0 0	9.1 1	0.0 0	18.2 2	54.5 6	18.2 2	9.1 1	0.0 0	36.4 4	54.5 6	9.1 1	0.0 0	0.0 0
	変更層	16	37.5 6	62.5 10	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 4	43.8 7	31.3 5	0.0 0	0.0 0	37.5 6	50.0 8	12.5 2	0.0 0	0.0 0
	未知層	16	31.3 5	56.3 9	12.5 2	0.0 0	0.0 0	12.5 2	62.5 10	25.0 4	0.0 0	0.0 0	12.5 2	75.0 12	12.5 2	0.0 0	0.0 0

Q15. 博物館と学校の連携・協力関係を深めるために、どのような施策が魅力的・効果的だと感じますか。

		標 本 数	D. 先生への事前講習＆見学コースのすり合わせ					E. 先生への見学後フォロー（学習の振り返りな ど）					F. 児童・生徒たちへの事前学習				
			1 とても魅 力的・効 果 的である	2 まあ魅 力的・効 果 的 である	3 どちらともい えない	4 あまり魅 力的・効 果 的 ではない	5 ま ったく魅 力的・効 果 的 ではない	1 とても魅 力的・効 果 的 である	2 まあ魅 力的・効 果 的 である	3 どちらともい えない	4 あまり魅 力的・効 果 的 ではない	5 ま ったく魅 力的・効 果 的 ではない	1 とても魅 力的・効 果 的 である	2 まあ魅 力的・効 果 的 である	3 どちらともい えない	4 あまり魅 力的・効 果 的 ではない	5 ま ったく魅 力的・効 果 的 ではない
全体		43	18.6 8	62.8 27	18.6 8	0.0 0	0.0 0	18.6 8	53.5 23	25.6 11	2.3 1	0.0 0	27.9 12	55.8 24	16.3 7	0.0 0	0.0 0
種 別	小学校	25	16.0 4	64.0 16	20.0 5	0.0 0	0.0 0	12.0 3	60.0 15	28.0 7	0.0 0	0.0 0	24.0 6	60.0 15	16.0 4	0.0 0	0.0 0
	中学校	18	22.2 4	61.1 11	16.7 3	0.0 0	0.0 0	27.8 5	44.4 8	22.2 4	5.6 1	0.0 0	33.3 6	50.0 9	16.7 3	0.0 0	0.0 0
地 域 別	村山	10	30.0 3	70.0 7	0.0 0	0.0 0	0.0 0	30.0 3	50.0 5	20.0 2	0.0 0	0.0 0	30.0 3	60.0 6	10.0 1	0.0 0	0.0 0
	小学校	7	14.3 1	85.7 6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	28.6 2	57.1 4	14.3 1	0.0 0	0.0 0	28.6 2	71.4 5	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	3	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	33.3 1	33.3 1	0.0 0	0.0 0	33.3 1	33.3 1	33.3 1	0.0 0	0.0 0
	最上	11	36.4 4	36.4 4	27.3 3	0.0 0	0.0 0	18.2 2	36.4 4	46.5 5	0.0 0	0.0 0	36.4 4	46.5 5	18.2 2	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	50.0 3	33.3 2	16.7 1	0.0 0	0.0 0	16.7 1	50.0 3	33.3 2	0.0 0	0.0 0	50.0 3	33.3 2	16.7 1	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	20.0 1	40.0 2	40.0 2	0.0 0	0.0 0	20.0 1	20.0 1	60.0 3	0.0 0	0.0 0	20.0 1	60.0 3	20.0 1	0.0 0	0.0 0
	置賜	12	8.3 1	66.7 8	25.0 3	0.0 0	0.0 0	16.7 2	50.0 6	25.0 3	8.3 1	0.0 0	16.7 2	58.3 7	25.0 3	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	0.0 0	66.7 4	33.3 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 3	50.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	66.7 4	33.3 2	0.0 0	0.0 0
	中学校	6	16.7 1	66.7 4	16.7 1	0.0 0	0.0 0	33.3 2	50.0 3	0.0 0	16.7 1	0.0 0	33.3 2	50.0 3	16.7 1	0.0 0	0.0 0
	庄内	10	0.0 0	80.0 8	20.0 2	0.0 0	0.0 0	10.0 1	80.0 8	10.0 1	0.0 0	0.0 0	30.0 3	60.0 6	10.0 1	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	0.0 0	66.7 4	33.3 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	83.3 5	16.7 1	0.0 0	0.0 0	16.7 1	66.7 4	16.7 1	0.0 0	0.0 0
	中学校	4	0.0 0	100.0 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	75.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 2	50.0 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0
ク ラ ス タ ー 別	予定層	11	27.3 3	54.5 6	18.2 2	0.0 0	0.0 0	9.1 1	54.5 6	36.4 4	0.0 0	0.0 0	27.3 3	54.5 6	18.2 2	0.0 0	0.0 0
	変更層	16	12.5 2	75.0 12	12.5 2	0.0 0	0.0 0	12.5 2	68.8 11	18.8 3	0.0 0	0.0 0	25.0 4	62.5 10	12.5 2	0.0 0	0.0 0
	未知層	16	18.8 3	56.3 9	25.0 4	0.0 0	0.0 0	31.3 5	37.5 6	25.0 4	6.3 1	0.0 0	31.3 5	50.0 8	18.8 3	0.0 0	0.0 0

別表18 博学連携の推進に必要な施策

Q15. 博物館と学校の連携・協力関係を深めるために、どのような施策が魅力的・効果的だと感じますか。

		標本数	G. 児童・生徒たちへの見学後の事後フォロー（継続的な学習支援など）					H. 交通アクセスへの配慮				
			1 とても魅力的・効果的である	2 あるまじく魅力的・効果的である	3 どちらとも言えない	4 あまり魅力的・効果的ではない	5 まったく魅力的・効果的ではない	1 とても魅力的・効果的である	2 あるまじく魅力的・効果的である	3 どちらとも言えない	4 あまり魅力的・効果的ではない	5 まったく魅力的・効果的ではない
全体		43	20.9 9	62.8 27	16.3 7	0.0 0	0.0 0	46.5 20	37.2 16	14.0 6	2.3 1	0.0 0
種別	小学校	25	20.0 5	60.0 15	20.0 5	0.0 0	0.0 0	48.0 12	36.0 9	16.0 4	0.0 0	0.0 0
	中学校	18	22.2 4	66.7 12	11.1 2	0.0 0	0.0 0	44.4 8	38.9 7	11.1 2	5.6 1	0.0 0
地域別	村山	10	40.0 4	50.0 5	10.0 1	0.0 0	0.0 0	50.0 5	40.0 4	10.0 1	0.0 0	0.0 0
	小学校	7	42.9 3	42.9 3	14.3 1	0.0 0	0.0 0	57.1 4	28.6 2	14.3 1	0.0 0	0.0 0
	中学校	3	33.3 1	66.7 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 1	66.7 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	最上	11	18.2 2	54.5 6	27.3 3	0.0 0	0.0 0	63.6 7	9.1 1	18.2 2	9.1 1	0.0 0
	小学校	6	16.7 1	50.0 3	33.3 2	0.0 0	0.0 0	66.7 4	0.0 0	33.3 2	0.0 0	0.0 0
	中学校	5	20.0 1	60.0 3	20.0 1	0.0 0	0.0 0	60.0 3	20.0 1	0.0 0	20.0 1	0.0 0
	置賜	12	16.7 2	58.3 7	25.0 3	0.0 0	0.0 0	33.3 4	58.3 7	8.3 1	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	16.7 1	50.0 3	33.3 2	0.0 0	0.0 0	33.3 2	66.7 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0
	中学校	6	16.7 1	66.7 4	16.7 1	0.0 0	0.0 0	33.3 2	50.0 3	16.7 1	0.0 0	0.0 0
	庄内	10	10.0 1	90.0 9	0.0 0	0.0 0	0.0 0	40.0 4	40.0 4	20.0 2	0.0 0	0.0 0
	小学校	6	0.0 0	100.0 6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	33.3 2	50.0 3	16.7 1	0.0 0	0.0 0
	中学校	4	25.0 1	75.0 3	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 2	25.0 1	25.0 1	0.0 0	0.0 0
利用率別	予定層	11	18.2 2	63.6 7	18.2 2	0.0 0	0.0 0	54.5 6	18.2 2	18.2 2	9.1 1	0.0 0
	変更層	16	18.8 3	62.5 10	18.8 3	0.0 0	0.0 0	37.5 6	43.8 7	18.8 3	0.0 0	0.0 0
	未知層	16	25.0 4	62.5 10	12.5 2	0.0 0	0.0 0	50.0 8	43.8 7	6.3 1	0.0 0	0.0 0

別表19 自由記載

Q14. Q13の選択肢のほかに、新しい「山形県立博物館」に期待するモノ・コトがあればご記入ください。

- ・ 広くて近い駐車場。
- ・ 企画展の充実さ。
- ・ 体験の場。たくさん情報を発信。
- ・ 山形県の戦争体験等や資料、実際の物品等の展示の充実。
- ・ 飲食もできる広い屋内スペース。
- ・ 山形県の伝統工芸や食文化などを体験できるようなイベントを定期開催するなど、何度も訪れたいような催し。
- ・ オンライン等見学できるツアーや短時間の講座・解説などの企画。
- ・ 博物館としての本質(保管・研究)と、子どもへの関口の広さの両立。
- ・ 公園への出入口がわかりにくい。駐車場からが遠い。
- ・ 国立博物館と連携した年数回の特別展示の実施。国立博物館の貴重な所蔵品が身近に感じられる。

Q16. 新しい「山形県立博物館」に対するご要望などありましたら、ご記入いただきますようお願いいたします。

- ・ たくさんのリピーターができるような変化と魅力。
- ・ 体験できるものや、映像資料などが豊富で分かりやすい展示、山形のよさがわかる魅力的な博物館になってもらえるとありがたい。
- ・ 未来につながる博物館となることを希望します。
- ・ 価値の高いものがあるとうれしい、地元のものが価値のあるものだったのだと知るとまた楽しいです。一昨日おとずれた時は最上のものがたくさん見ることができ、うれしかったです。さらにどこに行けばもっとくわしいことが調べられるかがわかると各小学校での学びが深まると思います。また、小学生が訪館したときに、その小学校の市町村にかかわるガイドをして下さるとありがたいと思います。
- ・ 展示ブースだけでなく建物や外も含めて、大人も子供も時間があれば行ってみようかと思う場所にしてほしい。
- ・ 子どもの頃はもちろん、大人になってからも、博物館は我々にとって常にワクワクする場所です。それゆえ、本校のように気軽に訪れることのできない距離に位置する学校にとって、学芸員の方々の出前授業は大変ありがたいことであります。(今年度も年度はじめにご来校いただきました) 今後とも、出前授業やオンライン見学など、遠距離に住む子ども達にも等しく学びと体験の機会を与えて下さるよう、心よりお願いいたします。
- ・ 明るい近くで広い駐車場。
- ・ 明るさ。交通の便利なところ。
- ・ 何度も足を運びたい博物館。点ではなく線で生涯楽しめる博物館になることを楽しみにしております。
- ・ 特別展などの珍しい企画があった際の情報提供。

別表20 県立博物館の印象・イメージの評価

別表15「県立博物館の印象・イメージ」について、下記の配分で各項目の評価を得点化し、平均点数を算出する。

平均点数が高い方が、教員からの評価が高い（印象が良い）。（表の上段が平均点数、下段が合計点数）

【得点配分】とてもそう思う：5点、ややそう思う：4点、どちらともいえない：3点、

あまりそう思わない：2点、そう思わない：1点

平均点数の高い順に並び替え		標本数	1 子どもの教育によい	2 大人が勉強になる	3 貴重なものがみられる	4 山形県のことかわかる	5 通常の生活では感じられない体験が得られる	6 学習意欲を刺激する	7 説明・解説が分かりやすい	8 楽しめる	9 鑑賞動線・ルートがわかりやすい	10 感動が得られる	11 児童・生徒たちが喜ぶ	12 見どころが多い	13 驚き・インパクトが大きい	14 ワクワクする	15 快適	16 展示数が豊富	17 何度も来館して楽しめる	18 ライブラリーが充実している	19 身近	20 長い時間過ごせる	21 雰囲気明るい
全体		43	4.30 185	4.28 184	4.19 180	4.12 177	3.84 165	3.79 163	3.77 162	3.67 158	3.65 157	3.63 156	3.63 156	3.56 153	3.53 152	3.51 151	3.44 148	3.44 148	3.35 144	3.28 141	3.19 137	3.16 136	3.07 132
種別	小学校	25	4.44 111	4.52 113	4.44 111	4.24 106	4.12 103	3.88 97	3.84 96	3.76 94	3.76 94	3.68 92	3.88 97	3.56 89	3.56 89	3.64 91	3.44 86	3.52 88	3.36 84	3.16 79	3.24 81	3.24 81	3.00 75
	中学校	18	4.11 74	3.94 71	3.83 69	3.94 71	3.44 62	3.67 66	3.67 66	3.56 64	3.50 63	3.56 64	3.28 59	3.56 64	3.50 63	3.33 60	3.44 62	3.33 60	3.33 60	3.44 62	3.11 55	3.06 55	3.17 57
地域別	村山	10	4.50 45	4.50 45	4.50 45	4.30 43	4.20 42	4.30 43	4.20 42	4.00 40	4.00 40	4.00 40	4.00 40	3.80 38	3.80 38	3.80 38	3.80 38	3.70 37	3.80 38	3.20 32	3.60 36	3.50 35	3.30 33
	小学校	7	4.43 31	4.43 31	4.43 31	4.14 29	4.29 30	4.14 29	1.86 13	3.86 27	3.86 27	3.71 26	4.00 28	3.57 25	3.43 24	3.57 25	3.57 25	3.71 26	3.43 24	2.86 20	3.71 26	3.43 24	3.29 23
	中学校	3	4.67 14	4.67 14	4.67 14	4.67 14	4.00 12	4.67 14	4.33 13	4.33 13	4.33 13	4.67 14	4.00 12	4.33 13	4.67 14	4.33 13	4.33 13	3.67 11	4.67 14	4.00 12	3.33 10	3.67 11	3.33 10
	最上	11	4.36 48	4.27 47	3.91 43	4.09 45	3.82 42	3.64 40	3.55 39	3.55 39	3.64 40	3.45 38	3.36 37	3.45 38	3.55 39	3.55 39	3.55 39	3.64 40	3.45 38	3.64 40	3.27 36	3.36 37	3.18 35
	小学校	6	4.67 28	4.83 29	4.17 25	4.33 26	4.33 26	3.83 23	3.67 22	3.67 22	3.83 23	3.50 21	3.83 23	3.50 21	3.83 23	3.83 23	3.67 22	3.83 23	3.50 21	3.67 22	3.33 20	3.67 22	3.17 19
	中学校	5	4.00 20	3.60 18	3.60 18	3.80 19	3.20 16	3.40 17	3.40 17	3.40 17	3.40 17	3.40 17	2.80 14	3.40 17	3.20 16	3.20 16	3.40 17	3.40 17	3.40 17	3.60 18	3.20 16	3.00 15	3.20 16
	置賜	12	4.17 50	4.33 52	4.17 50	4.25 51	4.00 48	3.83 46	3.83 46	3.50 42	3.67 44	3.67 44	3.67 44	3.58 43	3.67 44	3.67 44	3.33 40	3.33 40	3.17 38	3.25 39	3.08 37	3.00 36	3.00 36
	小学校	6	4.17 25	4.50 27	4.50 27	4.50 27	4.17 25	4.00 24	3.83 23	3.67 22	3.67 22	3.83 23	4.00 24	3.50 21	3.67 22	3.67 22	3.17 19	3.00 18	3.17 19	3.00 18	2.83 18	2.83 17	2.67 16
	中学校	6	4.17 25	4.17 25	3.83 23	4.00 24	3.83 23	3.67 22	3.83 23	3.33 20	3.67 22	3.50 21	3.33 20	3.67 22	3.67 22	3.67 22	3.50 21	3.67 22	3.17 19	3.50 21	3.17 19	3.17 19	3.33 20
	庄内	10	4.20 42	4.00 40	4.20 42	3.80 38	3.30 33	3.40 34	3.50 35	3.70 37	3.30 33	3.40 34	3.50 35	3.40 34	3.10 31	3.00 30	3.10 31	3.10 31	3.00 30	2.80 30	2.80 28	2.80 28	2.80 28
	小学校	6	4.50 27	4.33 26	4.67 28	4.00 24	3.67 22	3.50 21	3.67 22	3.83 23	3.67 22	3.67 22	3.67 22	3.67 22	3.33 20	3.33 21	3.50 21	3.33 21	3.33 20	3.17 19	2.83 17	3.00 18	2.83 17
	中学校	4	3.75 15	3.50 14	3.50 14	3.50 14	2.75 11	3.25 13	3.25 13	3.50 14	2.75 11	3.00 12	3.25 12	3.00 12	2.75 9	2.25 9	2.75 11	2.50 10	2.50 10	2.75 11	2.75 11	2.50 10	2.75 11
ク リ ラ イ ズ タ ー 別	予定層	11	4.36 48	4.55 50	4.27 47	4.36 48	4.18 46	3.91 43	3.64 40	3.45 38	3.73 41	3.64 40	3.73 41	3.45 38	3.64 40	3.64 40	3.18 35	3.55 39	3.27 36	3.27 36	2.82 31	3.27 36	2.91 32
	変更層	16	4.50 72	4.56 73	4.50 72	4.25 68	3.81 61	3.94 63	4.00 64	4.00 64	3.75 60	3.69 59	4.00 64	3.63 58	3.50 56	3.50 56	3.56 57	3.44 55	3.31 53	3.19 51	3.50 56	3.00 48	3.00 48
	未知層	16	4.06 65	3.81 61	3.81 61	3.81 61	3.63 58	3.56 57	3.63 58	3.50 56	3.50 56	3.56 57	3.19 51	3.56 57	3.50 56	3.44 55	3.50 56	3.38 54	3.44 55	3.38 54	3.13 50	3.25 52	3.25 52

※「18 ライブラリーが充実している」の標本数は、全体42、小学校24、村山地域9、村山地域の小学校

別表21 博学連携の推進のために期待される施策の評価

別表18「博学連携の推進のために期待される施策」について、下記の配分で評価を得点化し、平均点数を算出する。平均点数が高い方が、教員からの期待が大きい。（表の上段が平均点数、下段が合計点数）

【得点配分】とても思う：5点、やや思う：4点、どちらともいえない：3点、あまりそう思わない：2点、そう思わない：1点

平均点数の高い順に並び替え		標本数	1 交通アクセスへの配慮	2 学会員による出張授業	3 展示物（レプリカ）の貸し出し	4 児童・生徒たちへの事前学習	5 児童・生徒たちへの見学の事後フォロー（継続的な学習支援など）	6 先生への事前講習&見学コースのすり合わせ	7 保管資料（研究書・解説書など）の貸し出し	8 先生への見学後フォロー（学習の振り返りなど）
全体		43	4.28 184	4.26 183	4.16 179	4.12 177	4.05 174	4.00 172	3.88 167	3.88 167
種別	小学校	25	4.32 108	4.24 106	4.16 104	4.08 102	4.00 100	3.96 99	3.76 94	3.84 96
	中学校	18	4.22 76	4.28 77	4.17 75	4.17 75	4.11 74	4.06 73	4.06 73	3.94 71
地域別	村山	10	4.40 44	4.60 46	4.60 46	4.20 42	4.30 43	4.30 43	4.40 44	4.10 41
	小学校	7	4.43 31	4.57 32	4.57 32	4.29 30	4.29 30	4.14 29	4.43 31	4.14 29
	中学校	3	4.33 13	4.67 14	4.67 14	4.00 12	4.33 13	4.67 14	4.33 13	4.00 12
	最上	11	4.27 47	4.36 48	4.18 46	4.18 46	3.91 43	4.09 45	3.64 40	3.73 41
	小学校	6	4.33 26	4.33 26	4.33 26	4.33 26	3.83 23	4.33 26	3.33 20	3.83 23
	中学校	5	3.50 21	3.67 22	3.33 20	3.33 20	3.33 20	3.17 19	3.33 20	3.00 18
	置賜	12	4.25 51	4.00 48	3.83 46	3.92 47	3.92 47	3.83 46	3.83 46	3.75 45
	小学校	6	2.17 26	2.00 24	1.83 22	1.83 22	1.92 23	1.83 22	1.83 22	1.75 21
	中学校	6	4.17 25	4.00 24	4.00 24	4.17 25	4.00 24	4.00 24	4.00 24	4.00 24
	庄内	10	4.20 42	4.10 41	4.10 41	4.20 42	4.10 41	3.80 38	3.70 37	4.00 40
	小学校	6	2.50 25	2.40 24	2.40 24	4.80 48	2.40 24	2.20 22	2.10 21	2.30 23
	中学校	4	4.25 17	4.25 17	4.25 17	4.50 18	4.25 17	4.00 16	4.00 16	4.25 17
ク利用 入度 ター 別	予定層	11	4.18 46	4.18 46	4.27 47	4.09 45	4.00 44	4.09 45	3.82 42	3.73 41
	変更層	16	4.19 67	4.38 70	4.25 68	4.13 66	4.00 64	4.00 64	3.94 63	3.94 63
	未知層	16	4.44 71	4.19 67	4.00 64	4.13 66	4.13 66	3.94 63	3.88 62	3.94 63

V デジタルアーカイブ調査

デジタルアーカイブ調査報告書

1 調査概要

1-1 調査の趣旨

2022年の博物館法の改正において、博物館の事業として「博物館資料に係る電磁的記録を作成し、公開すること」が追加され（同法第3条第1項第3号）、公布通知では、博物館が有するコンテンツのデジタルアーカイブ化を加速させる必要性が高まっているとされている。

これらを踏まえ、山形県立博物館（以下「県立博物館」という。）の移転整備の検討に際して、デジタルアーカイブへの望ましい取り組み方に関して現状と課題を確認するとともに、先進的な事例を収集、分析し、今後のデジタルアーカイブ整備、それを基盤とする博物館DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進に資することを目的とする。

※「博物館DXの推進に関する基本的な考え方」（2023年2月、文化庁通知）において「博物館資料のデジタルアーカイブ化を基盤とした、博物館のDXを推進することは、①博物館の文化的価値の社会への還元、ひいては地域の活性化を図ることや、②業務の効率化を図る上で重要」とされている。

1-2 調査の方法

本調査では、「博物館DXの推進に関する基本的な考え方」の中で整理された、3つの博物館DXの意義を参考に「整備プロセス、コスト」を加えた4つの視点から、県立博物館の現状や課題を踏まえながら、資料調査及びヒアリング調査による先進事例の調査・分析を行う。

<博物館DXの意義>

- 1 博物館資料に係る情報の保存と体系化、業務効率化
- 2 博物館における調査研究の成果を含めた資料の公共化
- 3 学校教育・生涯学習のほか、地域の活力の向上など多様な創造的活動への博物館資料の活用の促進

※本調査では、「『デジタルアーカイブ活動』のためのガイドライン」（2023年8月、デジタルアーカイブジャパン推進委員会実務者検討委員会）に基づき、様々なデジタル情報資源を収集・保存・提供する仕組みの総体をデジタルアーカイブとする。

(1) 資料調査

調査対象：特徴的なデジタルアーカイブの取り組みを公開する国内の博物館等の29機関

調査期間：2024年11月

調査方法：各機関の公式ホームページ等から公開データを収集し、分析を行う

調査項目：概要と特徴的な取り組みの内容

(2) ヒアリング調査

調査対象：上記のうち、デジタルアーカイブの整備等に資すると思われる博物館（デジタル大阪ミュージアムズ、三重県総合博物館）

調査期間：2025年1月～2月

調査方法：オンライン会議・訪問の併用により担当者から聞き取り

調査項目：博物館DXの意義1～3に関する取り組み状況と、整備と運用の状況

2-1 博物館DX推進のフェーズ

文化庁の「基本的な考え方」では、博物館DX推進のフェーズをAからDの4段階とし、上記のうちAからCのフェーズにおけるデジタル化した目録と公開の精度には記録資料群を例に挙げると「群」「ファイル」「資料」の3つのレベルに整理している。

資料の公共化という観点ではC以上の水準が必要であり、資料目録が公開されることが望ましいが、群目録やファイル目録でも活用の可能性があり、段階的に公開情報の量や精度を高めながら、積極的に公開していくことが求められる。

また、「基本的な考え方」において、都道府県には、域内の中小規模館のDXを促進するため、都道府県レベルでプラットフォームを構築してデジタルアーカイブの共有を進める役割が期待されている。

＜博物館におけるDX推進のフェーズと各館に求められる機能＞

- A 博物館資料の目録
- B デジタル化した博物館資料の目録（公開しない）
- C デジタル化した博物館資料の目録（公開する）
- D デジタルコンテンツの公開

＜AからCにおけるデジタル化した目録と公開の精度＞

- 「群」（Fond）目録：資料群の概要、来歴、概数など
- 「ファイル」（File）目録：小箱や封筒ごとの概要、員数、材質など
- 「資料」（Item）目録：資料1点ごとの資料番号、名称、年代、作者、大きさ、材質など

2-2 県立博物館の現状

(1) 資料情報の登録と業務効率化の状況

- ・ 公式ホームページ「収蔵資料データベース」において、234,621点（2017年3月31日時点）の資料データを公開しているが、未登録の資料も多数存在する。また、登録番号の付与方式や登録基準も明確になっていないなどの課題も多い。
- ・ 保管場所が登録されている分野では、資料検索に一定の効果があるが、登録データと資料台帳の整合性が取れない分野もあり、業務負担軽減の効果は限定的となっている。

(2) 資料情報の公開と活用の状況

- ・ 県立博物館は、上記のとおりホームページで収蔵資料データベースを公開しており、フェーズC「デジタル化した博物館資料の目録（公開する）」に位置しており、フェーズDに相当するデジタルコンテンツは持たないものの、中核館として望ましい段階に達している。一方で、外部からの利活用はほとんどない。
- ・ デジタルアーカイブが当館独自のシステムで構築されているため、他館との連携が図られていない。
- ・ 企画展や研究活動の成果はデジタルアーカイブ化されていない。
- ・ 外部の有識者と協力し、収蔵資料の3Dデータ化や3Dプリンターによる資料の複製などの試みが進められている。

資料調査及びヒアリング調査の結果について、博物館DXの3つの意義と「整備プロセス、コスト」の4項目で整理する。

3-1 博物館資料に係る情報の保存と体系化、業務効率化

(職員の業務効率化)

- ・ 三重県総合博物館では、全分野の収蔵品情報を共有できるデジタルアーカイブを整備し、棚番号などの収蔵場所のデータと対応させることで、資料へのアクセスが容易になり、職員の業務が効率化されている。
- ・ 東京国立博物館では、デジタルアーカイブと業務支援システムが連結しており、館内展示や外部への貸与作業を補助する仕組みが整えられている。
- ・ 東京富士美術館では、データベースと業務支援システムが連動しており、登録された資料情報を活用したキャプションの作成など、業務の効率化が図られている。
- ・ アーティゾン美術館では、職員が日常の研究や展示業務で作成する書類を自動的にデータベースへ登録し、一部を公開データへと変換する仕組みを導入している。

(資料登録に係る職員の負担)

- ・ デジタル大阪ミュージアムズでは、現段階では、デジタル化やデータ公開によって業務の軽減が図られているというところまでは至っておらず、それらの業務が新たな業務として加わっている状態。もともと博物館の収蔵資料情報は、備品などの登録とは異なり、資料の来歴調査や研究を伴い、長い時間がかかる工程であり、デジタル化による公開のためにはこのプロセスをより精緻に行う必要が生じている。
- ・ 三重県総合博物館からは、「資料の登録作業には専門的な知識が必要であり、日常的なデータ更新を進めるうえで、大きなハードルとなっている」との意見があった。

(収蔵資料の活用促進)

- ・ 三重県総合博物館など複数の館では、展示されていない資料でも、デジタルアーカイブで公開していることで、借用や閲覧の申込があり、収蔵資料の死蔵を防ぐ効果を上げている。
- ・ 三重県総合博物館では、登録データに公開履歴などの情報を紐づけることで、過度な貸し出しによる劣化を防止するなど、利用頻度を最適化する取り組みが行われている。
資料の登録は学芸員が行わなければならない重要な業務であるが、県民をはじめとする利用者が満足できるような登録内容の充実を図ろうとすればするほど、学芸員の負担が増加する。完璧な登録内容を求めているのは、いつまでたっても登録作業は完成しないと考え、インデックス的な内容であっても公開に踏み切っている。
- ・ 三重県総合博物館では、自然系と人文系にまたがる横断検索を重視した。総合博物館としての強みを活かし、自然系の企画展でも関連する人文系の資料が展示できるようにするため、これは過去10年の歩みの中で既に実践済みである。
- ・ デジタル大阪ミュージアムズでは、まだ画像のオープンデータ化はされていないが、大阪市立東洋陶磁美術館や大阪市立自然史博物館はオープンデータ化が一部されており、資料の活用の幅が大きく広がっている。さらに、CC-BY^{*}公開の画像は許諾事務手続きが不要となり、自然史博物館では画像使用許可事務の負担が軽減できている。

^{*}原著者のクレジット（氏名や作品タイトルなど）を表示すれば、改変や営利目的での二次利用も可能

《要点》

- ・ デジタルアーカイブに係るシステムの設計や仕組みの工夫は、職員の負担軽減や業務の効率化などに発揮される効果の大きさに影響する。
- ・ 資料の登録にあたり、作業プロセスの煩雑さや専門的な知識を要するなどの職員の負担をいかにサポートし、ハードルを下げるかが重要となっている。
- ・ デジタルアーカイブを有効に活用することで、資料の死蔵を防ぐ活用の幅、可能性を拡げると同時に、利用頻度の最適化にも資する。

3-2 博物館における調査研究の成果を含めた資料の公共化

(登録される情報の多種・多様さ)

- デジタルアーカイブに登録される情報は、テキストデータによる資料群の目録や検索用の画像から、無形文化財のアーカイブ映像、主要な資料の高精細画像や3Dデータ、教育や観光促進等を目的として制作された動画や音声等によるデジタルコンテンツまで様々なものがある。

[福島県立博物館、とちぎデジタルミュージアム“SHUGYOKU”（珠玉）、デジタル大阪ミュージアムズ、泉大津市ORIAM digital historyなど]

- デジタル大阪ミュージアムズでは、「高精細画像や動画などのデジタルコンテンツは利用者への訴求力が高いが、目録レベルであっても公開すれば活用される可能性がある」との意見があった。自然史分野では、目録レベルでも、標本の採取場所や年代などが伴っていることで、分布図を作成できるなど、学術的な活用が可能。

(博物館活動のアーカイブと公開)

- デジタルアーカイブの対象は、収蔵資料だけではなく、展示や講演会などの博物館活動も含まれる。常設展や企画展や特別展のアーカイブでは、テキストによる報告から、特設サイト、動画や360度のパノラマ映像まで様々な形式の情報が活用されている。

[バーチャル北海道博物館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、国立科学博物館、明治大学博物館など]

- 滋賀県立琵琶湖博物館では、PDF化された研究紀要の公開によって、研究活動をアーカイブしている。

(デジタルアーカイブを介した博物館同士の資料情報の共有)

- 北海道デジタルミュージアムでは、小規模な郷土資料館等を含む80以上のアーカイブ機関をつなぎ、多様な資料・作品を集約して情報発信している。
- 熊本県博物館ネットワークセンターでは、同一のシステム上で様々な館の資料を参照することができるシステムを構築し、維持管理に係る費用を県が負担することで、独自システムの構築が困難な小規模館を支援している。
- デジタル大阪ミュージアムズでは、登録情報やシステムの利用制限等の条件を緩和し、各館が独自に構築して公開しているデジタルアーカイブと連携させ、統合データベースとして閲覧可能なシステムを構築している。

《要点》

- デジタルアーカイブに登録される情報は、テキストデータの目録から高精細画像、など様々な形態があるが、目録であっても、公開されていれば活用方法があるため、情報の適切な登録と速やかな公開が重要である。さらに、活用ニーズを踏まえると、多様な形式の資料情報を登録できる柔軟なデジタルアーカイブの構築が望ましい。
- 展示や講演会など博物館の活動自体をデジタルアーカイブの対象とすることは、博物館の魅力発信や、活動への理解を深める役割を果たすとともに、評価・分析に活用される効果も期待される。
- 小規模博物館も参加・連携することが可能な博物館のネットワークを構築し、デジタルアーカイブを公開することは、資料の公共化を促進する上で重要である。

3-3 多様な創造的活動への博物館資料の活用の促進

(デジタルアーカイブによる博物館体験の向上)

- ・ デジタル大阪ミュージアムズや金沢ミュージアムプラスでは、収蔵資料の情報の集約に留まらない高精細画像や3Dモデル等の閲覧・鑑賞体験によって高精細画像や3Dモデルを活用した展示を行い、資料の体験価値を高めている。
- ・ メタバースを活用した鑑賞体験を提供する亀岡市文化資料館や、地元企業と連携して地域の歴史や文化を知るコンテンツを公開する泉大津市ORIAM digital historyなどでは、デジタルアーカイブならではの体験により、博物館を訪れなくても学び、楽しむことができる工夫がされている。
- ・ とちぎデジタルミュージアム“SHUGYOKU”（珠玉）では、文化と観光の連携事業として、マップ上での文化財検索と、それと連動した映像コンテンツにより、現地への誘客につなげている。

(閲覧から参加まで、資料へのアクセス環境の整備)

- ・ 世界中の生物に関するデータを集積している地球規模生物多様性情報機構（Global Biodiversity Information Facility、略称GBIF）のデータベースや、国立科学博物館の標本・資料統合データベースなど、研究活動の基盤となるアーカイブでは、「誰もが・いつでも・どこでも・何度でも」資料にアクセスできる環境を整備することが重視されている。
- ・ 兵庫県立歴史博物館では、映像展示の文字サイズや色合い等を変更できる仕様になっており、アクセシビリティに配慮している。
- ・ 魚類写真資料データベース、日本災害DIGITALアーカイブでは、アーカイブの運営者や管理者だけでなく、一般の参加者が情報の登録・更新などを行うことができ、アーカイブ化の一端を担っている。

(資料の利活用によるイノベーションの創出)

- ・ 大阪市立東洋陶磁美術館や関西大学デジタルアーカイブでは、資料や情報の権利関係を整理して、IIIFと呼ばれる国際的な画像共有の枠組みや、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスに基づいて、商用利用可能なオープンデータを提供している。
- ・ 大阪市立図書館では、資料の利活用を促進するため、利用者からオープンデータの活用事例を募り、広報活動で活用している。
- ・ デジタル大阪ミュージアムズでは、学校での利用を促進するため、教員の研修でデジタルコンテンツの見方や提供している情報の活用方法等を説明する講義を実施している。

《要点》

- ・ 高精細画像や3Dモデル、メタバース空間などの多様な鑑賞体験を提供することは、新しい鑑賞体験の創出、利用者への訴求力を高めることができる。後述のコスト面も踏まえつつ、多様な創造的活動につながるよう、博物館資料の活用を充実させることが望ましい。
- ・ 全ての人が、障害なくデータベースにアクセスできる環境の整備が重要となっている。また、双方向のアクセス環境、オープンデータを重視したデジタルアーカイブを整備することで、県立博物館の利活用の幅を広げることが可能となる。
- ・ また、デジタルアーカイブのオープンデータ化は、学校や産業界での活用も可能になり、イノベーションの創出も期待されるが、データ利用を促進する広報活動などの取り組みが重要となっている。

3-4 整備プロセスと費用

(整備するシステムに係る種類などの状況＝基礎情報＝)

- デジタルアーカイブに係るシステムについては、ハードウェアと情報システムを博物館が保有する(A)オンプレミス型と、クラウドサービスの提供者が保有するハードウェアを利用する(B)クラウド型がある。
- (A)オンプレミスの場合、セキュリティや他の業務ソフトウェアとの連携等、各博物館のニーズに応じたハードウェアやソフトウェアを導入できるが、コストが高額となることもあり、近年は(B)クラウド型が普及してきている。クラウド型はコストメリットが大きい、通信障害や災害によってネットワークが遮断された場合に使用できない、サービスを提供する企業側の体制によってサービスの継続性が左右されるなどの課題がある。

【システムごとのコストイメージ】 ※金額見込みは実際の事業規模により変動する

		(A) オンプレミス型	(B) クラウド型
構築 (イニシャル)	①情報システム構築費用/ソフトウェアの導入費用	数千万円～1億円以上	サービスによって異なる 不要～数千万円
	②ハードウェアの整備費用		(不要)
	③資料の登録費用・コンテンツの制作費用	構築開始時点の資料の登録状況や高精細画像等制作するコンテンツの種類によって大きく異なる	
維持管理 (ランニング)	④ハードウェアと情報システムの保守費用	年間500万円以上かかる場合も	年間数万円から十数万円程度
	⑤ハードウェアの更新費用	(一般に) 5年毎に再構築費用	(不要)
	⑥資料の登録費用・コンテンツの制作費用	追加で登録する作業の要領、制作・更新するコンテンツの種類によって大きく異なる	

(コンテンツの作成費用)

- 高精細画像の撮影や3DCGは、1点当たり数十万から百数十万、高精細でないサムネイル画像であっても、委託する場合は1点当たり数万円の費用がかかる。目的を整理して、コンテンツの必要性と効果を検討する必要がある。

(整備にかかる期間と費用)

- 三重県総合博物館では、開館準備(建設・常設展示の企画・設計・施工)と並行して進めた収蔵資料のリストアップに3年から4年程度かかり、リストアップした約51万点のデータを登録する情報システム構築とハードウェアの整備に1年から2年程度要している。
なお、整備を始める段階では、一部の資料について紙や電子データによる台帳があるのみで、全体の資料数が把握できない状況であった。
公文書を含む51万点の資料を扱う情報システムの整備関係費用(ハードウェアを含む)として約1.74億円かかっている。
- おだわらデジタルミュージアムでは、デジタル田園都市国家構想交付金を活用し、約半年で資料管理システムとハードウェアの整備、約15,000点の資料の撮影と登録を行っている。資料の撮影、目録のデジタル化などの費用として約1.6億円かかっている。

(整備と維持管理の体制)

- ・ 三重県総合博物館やデジタル大阪ミュージアムズでは、デジタルアーカイブを専門とする職員が配置されておらず、各分野の学芸員が兼任している。

《要点》

- ・ 県立博物館でも、過去の目録整備が不十分であり、三重県総合博物館のプロセスを参考に、今後は、未登録資料の整理、目録の統一化から進め、持続可能なデジタルアーカイブの構築を計画・立案していくことが望ましい。
- ・ デジタルアーカイブに係るシステムを検討する場合、初期費用のみならず保守・更新などコスト面を総合的に考えながら、初期のシステム設計が、追加の登録作業の要領・コストにも影響するため、コンテンツの内容、必要な機能や目的等を精査の上、国庫補助など財源の確保も含め、しっかりとした計画を検討する必要がある。
- ・ 通常、デジタルアーカイブを専門とする職員は配置されておらず、各分野の学芸員が兼務している。3－1同様に職員をサポートしハードルを下げることが重要である。

(1) 収蔵資料の整理・登録と公開

県立博物館では、現在、23万点を超える収蔵資料のデータを公開しているが、未登録資料が多く残っていることや、登録情報でも不備が見られており、速やかに未登録資料の情報の整理や、公開データと資料台帳の整合性の確保を図るとともに、日常業務と連動したデジタルアーカイブの構築など、収蔵資料の適正な管理や有効活用、業務負担の軽減につながる取り組みを検討する必要がある。

併せて、現時点でデジタル化した博物館資料の目録を公開しており、中核館として望ましい段階に達しているものと考えられるが、上記の整備された登録データを速やかに公開していくことが重要である。

(2) デジタルコンテンツ等の導入や地域の博物館との連携の検討

高精細画像や3Dモデル、メタバース空間を活用したコンテンツにより新しい鑑賞体験を提供する取り組みや、地域の博物館をデジタルアーカイブでつなぐプラットフォームの構築など、デジタル技術を活用した様々な取り組みが行われている。

こうした先進事例を参考としながら、県立博物館としての役割や目的を明確にし、デジタルコンテンツの公開や地域の博物館と連携したプラットフォームの構築など、必要な機能、事業手法、費用負担等を検討していく必要がある。

(3) 整備計画の策定等

デジタルアーカイブの構築・導入の期間については、数年を要した三重県総合博物館や、国庫補助金を活用し、短期間に整備を進めたおだわらデジタルミュージアムの事例など、収蔵資料数や規模等に応じて様々である。

新たなデジタルアーカイブを構築する場合は、初期のシステム設計が、将来的な博物館の運営にも影響するため、上記2点を踏まえつつ、国庫補助金など財源の確保も含め、しっかりとした整備計画を計画・策定し、計画的に取り組んでいく必要がある。

付表 ヒアリング・資料調査結果

◇ヒアリング調査対象博物館

No.	所在地	アーカイブ及びアーカイブを運営する組織名	調査結果の分類※
1	三重県	三重県総合博物館	1,2,3,4（ヒアリング）
2	大阪府	デジタル大阪ミュージアムズ	1,2,3,4（ヒアリング）

◇資料調査対象博物館

No.	所在地	アーカイブ及びアーカイブを運営する組織名	調査結果の分類※
3	北海道	バーチャル北海道博物館	2
4	北海道	北海道デジタルミュージアム	2
5	福島県	福島県立博物館	2
6	茨城県	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	2
7	栃木県	とちぎデジタルミュージアム“SHUGYOKU”（珠玉）	2,3
8	東京都	東京国立博物館	1
9	東京都	東京富士美術館	1
10	東京都	アーティゾン美術館	1
11	東京都	国立科学博物館	2,3
12	東京都	明治大学博物館	2
13	東京都	練馬わがまち資料館	3
14	東京都	Keio Object Hub	3
15	神奈川県	おだわらデジタルミュージアム	4
16	石川県	金沢ミュージアムプラス	2,3
17	福井県	FUKUI MUSEUMS（福井ミュージアムズ）	2
18	長野県	信州ナレッジスクエア	2
19	滋賀県	滋賀県立琵琶湖博物館	2
20	京都府	亀岡市文化資料館 KAMEOKA VIRTUAL HISTORIA	3
21	大阪府	泉大津市 ORIAM digital history	2,3
22	大阪府	大阪市立東洋陶磁美術館	3
23	大阪府	関西大学デジタルアーカイブ	3
24	和歌山県	和歌山ミュージアムコレクション	2
25	兵庫県	兵庫県立歴史博物館デジタルミュージアム	3
26	熊本県	熊本県博物館ネットワークセンター	2
27	その他	GBIF（地球規模生物多様性情報機構）	3
28	その他	魚類写真資料データベース	3
29	その他	日本災害 DIGITAL アーカイブ	3

※ 1 博物館資料に係る情報の保存と体系化、業務効率化、2 は博物館における調査研究の成果を含めた資料の公共化、3 は多様な創造的活動への博物館資料の活用の促進、4 は整備プロセスと費用を示す。

No.1 三重県総合博物館 分類：ヒアリング調査対象

● 全職員が全分野の収蔵品の情報を共有することで業務を大幅に効率化

● 博物館と公文書館を一体化させたデータベース

- 分野別のバラバラなデータベースではない、統合データベースによって、精度の高い情報を効率よく管理することができる。
- 館内の学習交流スペース等に収蔵品の検索用の端末を設置。利用者がその場で検索・プリントアウトして閲覧申請ができるようになっている。
- 情報システムの整備関係費用（ハードウェアを含む）として約1.74億円かかっている。

〔参 考〕 FUJITSU「三重県総合博物館様 導入事例」（2024年12月23日閲覧）

<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/social/case-studies/miemu/>

三重県総合博物館 年報 通巻1号

<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/common/content/000644790.pdf>

〔基本情報〕 URL: <https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/da/resultCateAll>

運営管理：三重県総合博物館 開館：2014年 システム：FUJITSU Musetheque

資料点数（公開）：156,157件（条件なしの横断検索結果）

《視察／ヒアリング調査結果》

○博物館の職員の方々の業務効率化について

- ・ 他県の博物館では当館の資料の検索を行って、展覧会の資料の借用などの話を受けることがある。時々自分たちでも忘れていたような資料の借用の依頼が来ており、資料の活用が促進されている。
- ・ データベースに公開履歴・予約という項目があって、同じ資料が何度も外に出ていって劣化が進むことがないようにしている。
- ・ 収蔵場所については、どの列のどの棚の何番目、というようなことが登録されている。閲覧の申請があった時など、素早く探せるので、収蔵庫内での収蔵場所と資料検索のシステムとして業務効率化の効果がある。
- ・ 資料の登録は追いついていない部分があるが、システムがあれば後からでも情報を入れられるため、未来に対しての責任と考えて少しずつでも進めていくという考え方で登録を進めている。

○市民や他館学芸員、研究者等の資料へのアクセス性の変化について

- ・ できるだけデータをオープンに、という考え方で運営している。
- ・ 閲覧を希望される方には、極力現物を見ていただけるように、閲覧室はそのためにつくった。館内にも検索システムを設置して閲覧申請を出せるような環境を整備しており、閲覧室には、常に資料の出納ができるように職員が配置されている。
- ・ 資料閲覧は当日急に出すことは難しいが、日程調整ができれば資料を出すことが可能。

○市民による活用状況について

- ・ 目の不自由な方が資料を触って学習するというようなときには、資料が活用されている。
- ・ 「このようなことをしたい」という先生の想いに対して「このような資料を使えますよ」といったコミュニケーションを行う際にデジタルアーカイブが活用されている。

○整備プロセスについて

- ・ 三重県総合博物館の設置にあたり、資料の情報を県民に対して公開するために整備を始めた。整備を始めた時点では何点の資料があるかもわからなかった。
- ・ 開始段階では資料のリストアップが揃っておらず、一部は台帳があるが、他は学芸員の頭の中、という状態だったため、3年～4年で学芸員が分野ごとに実物資料のデータを整理して、リストアップした。一部の資料の写真撮影は外部に委託した。
- ・ システムの構築には1年以上、2年弱かかった。
- ・ システムの管理はOA機器に詳しい学芸員が兼務で担当している。画像申請などの処理は資料管理の部署があるため、そこで対応する。

No.2 デジタル大阪ミュージアムズ 分類：ヒアリング調査対象

- スマホやタブレット利用に配慮したインターフェース
- デザインと充実したコンテンツで「大阪を魅せる」アーカイブ

キーワード、所蔵館で検索

- 3Dスキャンした収蔵品を自由に動かして鑑賞できる。
- 大阪の魅力を発信する読み物や詳細解説が充実。特に収集に関わった先人や継承の履歴を通じて、それらを育んできた都市大阪の魅力を体感できるような各館の代表品20点ずつ、合計120点を「大阪の宝」として選定。
- 「大阪の宝」の来歴や作品等が持つストーリーを順次公開していくとともに、2025年大阪・関西万博が開催される2025年には、各館で多くの「大阪の宝」を実際に展示。

〔基本情報〕 運営管理：ミュージアム活性化実行委員会、地方独立行政法人大阪市博物館機構

連携：市内6館（大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪歴史博物館、大阪中之島美術館）

資料点数249,187件（大阪コレクションズ・アーカイブ）

助成・補助：文化庁の令和5年度Innovate MUSEUM 事業（MuseumDX（博物館DX）推進事業）の採択を受けている。中核館は大阪歴史博物館。

《視察／ヒアリング調査結果》

○博物館の職員の方々の業務効率化について

- ・ 検索の利便性が上がった。キーワードでの資料の横断検索や、展示されていない収蔵品の情報へのアクセスが容易になった。
- ・ 画像データは貸し出し時のコンディションチェックに活用されている。特に自然史博物館の資料など、研究資料として期待。全国のデータを繋ぐことで研究分析に役立てられる。
- ・ 災害時の備えとして、目録の活用も期待されている。
- ・ 画像貸し出しの業務はデジタル化でより容易になった。
- ・ 現状はアーカイブ登録までの業務がむしろ増えてしまっている。
- ・ 効率化のためOCR読み取りや画像補正の自動化などの技術進展に期待している。

○市民や他館学芸員、研究者等の資料へのアクセス性の変化について

- ・ デジタルアーカイブの公開等のニュースは、有料プレスリリースサービスでの告知。
- ・ 防災のためのデータの共有・連携は現在まだできておらず災害時の復旧計画を立てている段階。

○市民による活用状況について

- ・ 分野によって温度差がある。自然系・学術系はオープンデータ化に馴染みやすい。芸術作品（特に現代美術）や寄託品は権利関係でオープンデータ化しづらい。
- ・ 高等支援学校で、アーカイブズ上の資料の鑑賞・模写・デジタル画制作を行った事例がある（活用事例：<https://dom.ocm.osaka/news/31> デジタル大阪ミュージアムズHP 『デジタル大阪ミュージアムズを学校の授業で活用いただきました』2024/12/24閲覧）。
- ・ 学校教員向けの研修「教員のための博物館の日」で、デジタルコンテンツの使い方を紹介している。
- ・ 大阪市博物館機構を構成する6館は、元々6館がそれぞれ異なるシステムを使用しており、そのまま活用している。横断検索したり、コンテンツを見たりするためのWebサイトとして新たにデジタル大阪ミュージアムズを作った。そのほかの博物館との連携は、現状行っていない。
- ・ 上記の高等支援学校での活用事例は、運営側で用意したものではなく、自主的に活用してもらったもの。自主的に活用してもらった事例を周知することで、さらなる活用を促している。

○整備プロセスについて

- ・ デジタル大阪ミュージアムズを整備した目的は、デジタル資料の利活用が主なもの。きっかけは大阪万博。博物館法の改正の影響もあった。
- ・ デジタルアーカイブの公開に向けた準備は公開の1年前から始めた。それ以前にも大まかな構想はあったが、企画・システムの構築から公開まで1年間で実施した。もともと構成している6館はそれぞれでデータベースを持っていたので、それを統合する作業を1年間で行ったという形。
- ・ デジタルアーカイブの維持管理はミュージアム活性化実行委員会＝博物館機構と思って良い。現状はデジタルアーカイブの専門職がおらず、博物館機構の職員や学芸員が担当している。デジタルアーキビストやシステムエンジニアの必要性は強く感じている。

○「大阪の宝」について

- ・ 「大阪の宝」は大阪の特徴を表すコレクションを学芸員が選定している。
- ・ 「大阪博」では、「大阪の宝」スペシャルコンテンツを公開予定。展示会場のQRコードからアクセスできるコンテンツなどを準備している。

No.3 バーチャル北海道博物館 分類：視点の公共化

● 「うちミュージアム」を提唱し、自宅で展示を楽しめるコンテンツを充実

● 360度画像のバーチャルツアー

- Googleストリートビューのシステムを用いて360度の画像を利用し、展示室内を自由に歩けるバーチャルツアーを展開。「うちミュージアム」を提唱し、バーチャルで体験できるコンテンツを充実させている。
- 展示のハイライトを紹介する動画や、詳細を紹介するページにリンクしている。

〔基本情報〕 URL: <https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/exhibition/vm/>
運営管理：北海道博物館

No.4 北海道デジタルミュージアム 分類：視点の公共化

● 道内の館連携による施設と資料の大規模「横断検索ポータルサイト」

● 北海道の自然と歴史文化を網羅

● SNSでの活用や観光促進を想定したづくり

- キーワードや施設場所を示す地図から検索できるほか、様々なアーカイブ資料に出会えるシャッフル機能と「#（ハッシュタグ）」（スマホでの閲覧やSNS活用を想定）がある。

〔基本情報〕 URL: <https://hokkaido-digital-museum.jp/>
運営管理：北海道（担当部署：北海道環境生活部文化局文化振興課）
開設：2022年 連携：道内約100館

No.5 福島県立博物館 分類：視点の公共化

● 収蔵資料の資料目録の構築と公開を目的とした所蔵資料のデータベース

- ウェブ上に収蔵資料の資料目録を構築し、公開することを目的としたものであるため「写真や図版が美しいものばかりではない」という注意書きを検索のトップページに示している。

〔基本情報〕 URL: <https://jmapps.ne.jp/fukushima/>
運営管理：福島県立博物館
資料点数（公開）59,063件（詳細検索・検索条件なしの場合のヒット件数）

No.6 ミュージアムパーク茨城県自然博物館 分類：資料の公共化

- 各展示室を360° VR映像、野外施設をドローン映像で見ることができる
- 常設展だけでなく、企画展も360° VR映像で公開している

〔基本情報〕 URL: <https://www.nat.museum.ibk.ed.jp/exhibits/vr360>

運営管理：ミュージアムパーク茨城県自然博物館

開設：2023年（令和8年度まで重点的にデジタル化・機能追加を実施し、コンテンツ等を充実）

No.7 とちぎデジタルミュージアム“SHUGYOKU”（珠玉） 分類：資料の公共化、活用の促進

- 県内の文化資源を広く収集・構築・活用する全域での取り組み
- 地域・観光振興にデジタルアーカイブを活用
- ユーザーが現地を訪れてみたいと思わせるデザインや仕掛け
 - フリーワードや条件、地図から検索が可能。
 - 無形文化財を映像などでアーカイブしている。

〔参 考〕 「とちぎデジタルミュージアム“SHUGYOKU”（珠玉）」デジタルアーカイブフェス2023資料
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/forum/siryou/2-5.pdf>

〔基本情報〕 URL: <https://www.digitalmuseum.pref.tochigi.lg.jp/>

運営管理：栃木県（新たな撮影・デジタルデータ作成も栃木県の負担）

開設：2023年（令和8年度まで重点的にデジタル化・機能追加を実施し、コンテンツ等を充実）

資料点数（公開）：1,104件（詳細検索・検索条件なしの場合のヒット件数）

No.8 東京国立博物館 分類：情報の保存と体系化、業務効率化

- 業務支援とデータ整備の良い循環を生むシステム
- 資料を使用するたびに、自然とデータが最新の状態に保たれる
 - 収蔵品のデータベースが単にデータを登録・検索するだけのものではなく、館内での展示や外部への作業を補助している。
 - 業務に必要な定型的な会議資料や公文書のひな形を出力する機能を持ち、職員にとってはシステムを積極的に利用することが、日々の業務を効率化することにつながる。

〔資料〕村田良二（2021）「ColBase－国立文化財機構所蔵品統合検索システム」博物館研究vol.59 No.9(No.640)

No.9 東京富士美術館 分類：情報の保存と体系化、業務効率化

- 学芸業務用ツールを館外にひらく
- 作品に付属したICタグとハンディターミナル端末による資料管理
- 自館の所蔵作品データと連携するデジタルキャプションの実証実験
 - 収蔵品データベースを館内の学芸業務を行うためのツールとして位置付けており、学芸員の業務である収蔵品の貸し出し記録をデータベースで管理し、過去の貸し出し記録の累積をウェブサイトで公開できるようになっている。
 - ハンディターミナル端末によって作品に付属したICタグと棚番号のバーコードをスキャンして収蔵品の移動を記録するシステムにより、誰が、いつ、何を、どこからどこへ移動したのか、という履歴がデータベースに蓄積される。

〔参考〕鴨木年泰（2024）「デジタルアーカイブ」「ミュージアムDX」のゴールの先にあるもの－ミュージアムの活動領域の拡張を目指して」artscape（2025年2月27日閲覧）<https://artscape.jp/article/9738/>

No.10 アーティゾン美術館 分類：情報の保存と体系化、業務効率化

● 学芸員が生み出した知識を統合して来館者に提供するシステム構築

キーワード、所蔵館で検索

- 美術館が持つ写真や証拠書類、あるいは展覧会の記録など、異なるシステムによって管理されていたデータベースを統合するマルチデータベースシステムを構築している。

〔参考〕石橋直樹（2022）「美術館を対象としたマルチデータベースシステムアーキテクチャとその実現」
<https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1771>

No.11 国立科学博物館 分類：資料の公共化、活用の促進

- 標本・資料統合データベースは国立科学博物館が所有する500万点以上の標本・資料を横断的に検索し、情報を調べることができるサービス
- 過去の展示（デジタルアーカイブ）は過去の展示の記録を遡ることができる

<過去の展示（デジタルアーカイブ）>

- 展示紹介のリーフレットや特別展の特設サイトなどにリンクを貼っている。過去の展覧会であっても特設サイトを残しておくことがアーカイブにつながっている。

<標本・資料統合データベース>

- 「データベースまとめて検索」「データベース内分類横断検索」機能がある。
- タイプ標本データベースや魚類写真データベース等、外部データベースに情報提供を行っている。
- 統合データベースの情報の多くは科博内の研究者のみならず、国内外の研究者や一般市民も閲覧することができる。

〔基本情報〕URL: <https://db.kahaku.go.jp/webmuseum/>

運営管理：国立科学博物館

資料点数（公開）：2,560,629件（分野横断検索・検索条件全分野の場合のヒット件数）

No.12 明治大学博物館 分類：資料の公共化

● 常設展示や企画展の紹介動画をアーカイブしている

- 展示を紹介する動画をアーカイブ化しており、常設展だけでなく過去の企画展の内容を見ることができる。

No.13 練馬わがまち資料館 分類：資料の活用促進

- 練馬区が所蔵する記録写真や区に関する資料の検索サイト
- データの積極的な利活用をうながす試みが展開されている
- 閲覧希望の多い一部の写真を「オープンデータ」として公開（申請手続き不要）
- 多様な利用者に配慮したわかりやすい情報整理

- わかりやすく整理されたインターフェースに加え、図書資料にはブックページャー機能がある。
- 古写真や区の年表をオープンデータとして公開している。

〔基本情報〕URL: <https://www.nerima-archives.jp/>

運営管理：練馬区（練馬区総務部情報公開課）

開設：2020年

資料点数（公開）：35,802件（詳細検索・検索条件なしの場合のヒット件数）

No.14 Keio Object Hub 分類：資料の活用促進

- 慶應義塾のアートとカルチャーを一望できるポータルサイト
- 展覧会や講演会など、学内で展開する文化関連活動と結びつける
- 公開時点では約11,500件の文化財情報を掲載
- デジタル機材を整備したスタジオでアーカイブ化に取り組む
 - 3大学に帰属するデータは、営利・非営利、改変を問わず、クレジットの表示のみで自由に使えるCC BY 4.0としている。
 - デジタルアーカイブのための専用スタジオがある。

〔基本情報〕 URL： <https://objecthub.keio.ac.jp/ja>

運営管理：慶應義塾ミュージアム・コモンズ（KeMCo）

開設：2024年

資料点数（公開）：20,761件（詳細検索・検索条件なしの場合のヒット件数）

No.15 おだわらデジタルミュージアム 分類：整備のプロセスと費用

- デジタル田園都市国家構想交付金の予算で構築したデジタルミュージアム
- 実質半年間で資料撮影や資料登録、システム構築と公開を行った
 - 資料撮影の優先づけを行い、詳細が不明な資料もとりにあえずデジタル撮影して付番した。
 - 半年間で目録と資料のデジタル化、ハードウェアを含むシステム構築、公開用のWebサイト制作を一挙に行った。
 - 高精細画像、ObjectVRや、子ども向けの体験メニューなどのコンテンツを公開している。

〔参考〕「E2719 - 博物館デジタルアーカイブの現在地（第1回）＜報告＞」カレントアウェアネスポータル

<https://current.ndl.go.jp/e2719>

小田原市「小田原市デジタルミュージアム創設業務委託 仕様書」

<https://www.city.odawara.kanagawa.jp/global-image/units/542952/1-20220708134521.pdf>

〔基本情報〕 URL： <https://odawara-digital-museum.jp/archive/list/>

運営管理：小田原市

開設：2023年

資料点数（公開）：23,130件（画像があるものは15,457件）

助成・補助：デジタル田園都市国家構想交付金

No.16 金沢ミュージアムプラス 分類：資料の公共化、活用の促進

- 「金沢市デジタルミュージアム構想」に基づく事業
- スマホやタブレットでの閲覧・鑑賞に特化
- 市所蔵コレクションのオープンデータ化（CCライセンスを活用）
 - 体験できるミュージアムをイメージし、所蔵品の3Dモデルをトップページに配置。
 - 各館の学芸員のおすすめを紹介するコンテンツを展開。
 - 立体で見る資料や、高精細の画像、くずし字と翻刻文を照らし合わせるなどのコンテンツ。

〔参考〕金沢市「金沢ミュージアム＋運用開始！」

<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/soshikikarasagasu/bunkaseisakuka/gyomuannai/3/kanazawa-museum-plus.html>

〔基本情報〕 URL： <https://kanazawa-mplus.jp/>

運営管理：金沢市

開設：2023年

連携：市内17施設（令和5年10月から現在まで5段階で連携館を増やしている）

資料点数（公開）：16,117件（検索条件なしの場合のヒット件数）

No.17 FUKUI MUSEUMS 分類：資料の公共化

- 高い操作性と統一されたデザインでストレスフリー
- 各館への来訪を目的としたづくり
- クイズやコンテンツによって訴求力を高める

〔基本情報〕 URL：https://fukui-archive.com/

運営管理：福井県博物館協会（事務局：福井県立歴史博物館）

開設：2023年

連携：県内16館（おい町暦会館、勝山城博物館、金津創作の森、若州一滴文庫、敦賀市立博物館、福井県教育博物館、福井県年縞博物館、福井県ふるさと文学館、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館、福井県立恐竜博物館、福井県立美術館）

資料点数（公開）：5,774件（詳細検索・検索条件なしの場合のヒット件数）

No.18 信州ナレッジスクエア 分類：資料の公共化

- 地域らしさを活かし、検索したくなる入口が上手な事例
- 信州のデジタル情報のまとめ役として、信州の情報資産を発信
- 利用者の関心や問いをきっかけに、5つのポータルサービスに飛べる
 - さまざまなアーカイブ機関の情報を対象に検索できる「信州サーチ」に加え、地域の記憶のアーカイブや連想検索、他の情報源と紐づいた信州学のテキスト、書籍の検索システムがそれぞれポータルとして整備されている。

〔基本情報〕 URL：https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/portal.html

運営管理：長野県

開設：2020年

連携：県立長野図書館・長野県立歴史館・長野県立美術館・真田宝物館・飯田市立図書館・松本市立博物館などの博物館の収蔵品データベースや、地域のアーカイブ機関など多数

No.19 滋賀県立琵琶湖博物館 分類：資料の公共化

- 博物館のさまざまな活動を一覧できるWebページの構築
 - 琵琶湖博物館のWebサイトに設けられた「学ぶ・調べる」のページから、研究の成果をまとめた「ウェブ図鑑」、「収蔵資料データベース」、「研究調査報告」に加え、研究や学習の参考になる動画やフィールドでできることの紹介など、博物館が展開するさまざまな活動をアーカイブ化して公開し、一覧で見られるようになっている。

〔基本情報〕 URL：https://www.biawahaku.jp/study/

No.20 亀岡市文化資料館 KAMEOKA VIRTUAL HISTORIA 分類：資料の活用促進

- 文化財×メタバース メタバース空間に散らばる文化財を集める
- データベースと連動した新たな鑑賞体験
- 亀岡市文化資料館のホームページ内につくられている
 - アバターを選び、メタバース空間につくられた街をめぐって文化財を集める。
 - データベース検索も別途用意されている。

〔基本情報〕 URL：https://museums.city.kameoka.kyoto.jp/

運営管理：亀岡市文化資料館

開設：2023年

資料点数（公開）：456件（データベースに登録されている件数）

No.21 泉大津市ORIAM digital history 分類：資料の公共化、活用の促進

- 教育支援型アーカイブ
- 企業と連携したスペシャルコンテンツが充実
- データベースと連動した新たな鑑賞体験を提供
 - トップページに表示される9つのテーマから検索を行う。
 - 学校教育での活用を想定し、小学校3・4年で学ぶ地域の文化や歴史を知ることができる資料を多く掲載。

〔基本情報〕 URL：https://adeac.jp/izumiotsu-city-oriam-history/top/index.html

運営管理：泉大津市（問い合わせ先：泉大津市教育委員会生涯学習課） 開設：2023年
システム：ADEAC（TRC-ADEAC株式会社によるデジタルアーカイブ検索・閲覧のプラットフォームシステム）
資料点数（公開）：1,906件（詳細検索・検索条件なしの場合のヒット件数）
助成・補助：公益財団法人図書館振興財団の2022年度提案型助成

No.22 大阪市立東洋陶磁美術館 分類：資料の活用促進

- 高精細な写真を自由にダウンロードできるウェブサイトを開発
 - 公開されている画像は申請が必要なく、自由にダウンロード、複製、再配布することができる。

〔基本情報〕 URL：https://websites.jmapps.ne.jp/mocoor/ 開設：2022年

システム：I.B.MUSEUM SaaS（早稲田システム株式会社） 資料点数（公開）：60件

No.23 関西大学デジタルアーカイブ 分類：資料の活用促進

- 運営者の許諾なく、商用・非商用を問わず、無償で自由に利用可能
 - 「研究リソースのオープン化」を掲げる関西大学アジア・オープン・リサーチセンターによって設立。
 - 関西大学総合図書館と東アジア文化研究に携わる本学教員の個人蔵書のうち、原資料の著作権保護期間が満了している資料を「オープンな形」で提供。
 - 画像の国際標準規格IIIFに準拠した画像共有。

〔基本情報〕 URL：https://www.iiif.ku-orcas.kansai-u.ac.jp/

運営管理：関西大学アジア・オープン・リサーチセンター（KU-ORCAS） 開設：2024年
資料点数（公開）：6,066件（詳細検索・検索条件なしの場合のヒット件数）
助成・補助：平成29年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業成果の一部として作成

No. 24 和歌山ミュージアムコレクション 分類：資料の公共化

- 「見て、学んで、楽しむサイト」をコンセプトに掲げる
- 参加館の増加を目指してアジャイル的に整備中
- トップページ下部では教育プログラムの紹介や展覧会の告知も行う
 - キーワードなどテキストでの検索に加え、年表や地図からも資料にアクセスできるトップページの「高精細画像」のタブから48件の超高精細なアーカイブ画像が見られる。
 - 各館の教育プログラムも横断的に検索可能。

〔基本情報〕 URL：https://wakayama.museum/

運営管理：和歌山県（和歌山県立近代美術館・和歌山県立博物館・和歌山県立紀伊風土記の丘）
開設：2023年
連携：和歌山県立近代美術館、和歌山県立博物館、和歌山県立紀伊風土記の丘
資料点数（公開）：16,410件（詳細検索・検索条件なしの場合のヒット件数）
助成・補助：令和4年度の和歌山県新政策事業の一環として、3年間をかけて整備しているという記載あり。（補助金等は不明）

No.25 兵庫県立歴史博物館デジタルミュージアム 分類：資料の活用促進

- 2005年度に誕生したネットミュージアム
- 読み物から映像まで幅広いコンテンツが充実
- 兵庫県立歴史博物館のホームページ内につくられている
 - 資料検索画面はトップページではなく、各コンテンツの中で、コンテンツに関連する資料を検索できる。
 - 「閲覧サポート機能」でアクセシビリティに配慮している。

〔基本情報〕 URL： https://rekihaku.pref.hyogo.lg.jp/digital_museum/

運営管理：兵庫県立歴史博物館

No.26 熊本県博物館ネットワークセンター 分類：資料の公共化

- 地域で共通のプラットフォームでデジタルアーカイブを構築
 - システム構築や維持管理に係る費用を負担し、自館でのアーカイブ構築が困難な館を支援する。
 - 同一のシステム上で様々な館の資料を参照することができる。

〔基本情報〕 URL： https://jmapps.ne.jp/kumamoto_museum/

システム：I.B.MUSEUM SaaS（早稲田システム株式会社）

資料点数（公開）：444,054件（検索条件（なし）での検索結果）

No.27 G B I F（地球規模生物多様性情報機構） 分類：資料の活用促進

- 世界中の政府からの資金提供により設置
- あらゆる生物に関するデータを、誰でも・どこでも・オープンアクセスで閲覧検索できる
 - データの提供者・利用者に寄り添ったガイダンスやアナウンスに加え、アーカイブの目的や活用方法を紹介する動画コンテンツを公開。
 - 18～19世紀に収集された博物館標本から、最近記録されたDNAバーコードやスマートフォンの写真まで、さまざまな情報が集まる。

〔基本情報〕 URL： <https://www.gbif.org/ja/>

運営管理：G B I F 事務局

開設：2001年

連携：2279機関（2024.09.09時点）

No.28 魚類写真資料データベース 分類：資料の活用促進

- 日本の自然史上最大の市民参加型アーカイブ
- 15万件以上の魚類の水中生態写真や標本写真から構成されている
 - 3D博物館や大学などの研究機関だけでなく、600人以上の一般ダイバーが参加（生命の星・地球博物館の魚類分野ボランティア約40名が中心となって活動）。

〔基本情報〕 URL： <https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/photoDB/>
<https://fishpix.kahaku.go.jp/fishimage/>

運営管理：神奈川県立生命の星・地球博物館および国立科学博物館

開設：2011年

資料点数15万点以上

No.29 日本災害DIGITALアーカイブ 分類：資料の活用促進

- 市民によるコンテンツの投稿型で、投稿された情報量が多い
- 資料コレクション機能、プレゼンテーション作成機能、位置情報付きの資料をリアルタイムで表示する地図機能も完備
- 常に成長し続ける「参加型」のアーカイブとして、ハーバード大学ライシャワー日本研究所で構想されたプロジェクト
 - 震災の影響を受けている方が自らの経験を振り返り、記憶を共有する場でもある。
 - 作成物をサイト上で公開する事で、収集された資料に様々な角度から意味付けをし、新たな価値を付加する事を目的としている。
 - 資料を保存する機能はなく、協力団体が集めた電子資料に直接リンクし、ユーザーが複数のアーカイブの資料をスムーズに一括検索・閲覧・整理できる。

〔基本情報〕 URL： <https://jdarchive.org/ja>

運営管理：ハーバード大学 日本デジタル研究所 エドウィン・O・ライシャワー日本研究所

サイト構築：The ADK Group, JDA Case Study（ウェブサイトデザイン・インターフェイス開発）

資料点数：1,704,414アイテム（詳細検索・検索条件なしの場合のヒット件数）

VI 民間企業との連携に関するヒアリング調査

民間企業との連携に関するヒアリング調査報告書

1 調査概要

1-1 調査の趣旨

山形県立博物館（以下「県立博物館」という。）の移転整備に当たり、持続可能な博物館の実現に向けて、民間企業との連携は重要な視点の1つである。本調査では、特に、持続的に来館者を惹きつける展示の取り組みや博物館運営における民間企業との連携・協力に焦点を当てて、今後の民間企業との連携を広げていくに当たっての課題の整理及び取り組みの視点を検討する。

1-2 調査の方法

- (1) 持続的な魅力ある展示を検討するうえで参考となるモデル的な先進事例を調査する。
- (2) 現在の県立博物館と民間企業の連携の状況や民間企業側の考えなどを調査する。
- (3) 上記(1)(2)の比較や分析などを通して、県立博物館と民間企業との連携の充実・拡大を図る方向性や可能性を考察する。

(1) 先進事例調査

調査対象：浜松科学館「みらいーら」

調査期間：2025年1月

調査項目：民間企業との連携による、持続的な魅力ある展示や博物館運営に係る取り組みについて

調査方法：指定管理者からの聞き取り

指定管理者：乃村工藝社・SBSプロモーション共同事業体

指定管理期間：2019年7月1日～2029年3月31日

組織体制：名誉館長（名古屋大学教授）、館長、常勤職員25名（2023年度）

選定理由：浜松科学館は、2019年のリニューアル時から学芸部門を含めて全て指定管理者による運営がなされ、地元企業による展示への協力やサポーター制度が導入されており、官民連携の目指すモデルとして選出した。

(2) 県立博物館における民間連携現況調査

調査対象：県立博物館と連携実績のある団体 計4団体

調査期間：2025年1月～2月

調査方法：対面もしくはオンラインでの聞き取り

調査項目：県立博物館との連携の状況、今後期待する連携活動のイメージなど

(調査対象の選定理由)

企業名	県立博物館との連携実績
株式会社伊勢半ホールディングス	県立博物館における特別講演会での講演、展示パネルの素材提供、ワークショップの開催など
三和油脂株式会社	縄文の女神の蝋燭づくりの材料として、「米ぬかワックス」を無償提供など
やまがたヤマネ研究会	県立博物館への標本貸し出し、生物種の同定協力、講演会への講師協力など
一般社団法人 やまがたアルカディア観光局	観光分野における連携について意見交換を実施。現時点では具体的な実績はないが、今後、更に検討

2 先進事例調査

2-1 指定管理者制度の導入

(1) 経緯

浜松科学館は、科学に関する知識の普及及び啓発を図る社会教育施設として1986年に開館した。開館時は、浜松市が直営で運営を行っていたが、その後、財団法人へ業務委託された。2019年に、館内・展示コンテンツの一新を契機に名称を浜松科学館「みらいーら」に変更するとともに、DBO方式の指定管理者制度が導入された。

(2) 指定管理業務の内容（2023年度）

区 分	項 目	備 考
科学館事業	展示運営	常設展示アイテム91点、屋内・屋外展示13か所
	特別展・企画展・特別イベント	
	展示体験プログラム・支援ツール	展示ストーリーブック、学習活用ワークシートなど
	参加型学習	アクティブ展示解説、サイエンスショーなど
	特別プログラム「夜の科学館」	
	プラネタリウム	生解説プラネタリウム、大型映像など
	アテンダント	
	連携協力事業	学校、教育関係機関、研究機関などとの連携・協力
	サポーター会員制度	期間：1年間 会費：1口11万円／年（消費税含む） 特典：招待券の送付、内覧会などへの招待、 プラネタリウムなどでの団体名の掲載 実績：47社、58口（5,755,000円） 主な使途：特別展、企画展の拡充、 参加型学習事業の充実、 プラネタリウム・大型映像番組の拡充
	ボランティア活動支援	
	調査・研究及び収集・保存	
	パブリックリレーションズ	ニューズレター、リーフレット、SNSなどの広報
維持管理業務	科学館の維持保全業務	
	特殊機材・展示物等保守管理業務	
	清掃・警備・防災関係業務	
	修繕工事に関する業務	
施設貸出	施設貸出	ホール、セミナールーム
主な自主事業	ミュージアムショップ	グッズ販売、地元企業などとの連携
	カフェ	
	飲料用自動販売機の設置	
	キッチンカーの導入	
	プリントシート機の設置	
	賑わい創出のマルシェ	年4回開催

2-2 ヒアリング調査結果

(1) 民間企業との連携による、魅力ある展示の持続的な取り組みについて

(企業が関わる3つの展示支援)

- ・ 浜松科学館では、企業連携による3つの展示形態がある。①科学館が設置する展示に、民間事業者からの技術や物品の提供を受けるもの、②民間事業者が企画制作し科学館に展示物を提供するもの、③民間事業者が出展する催事的な展示、である。
- ・ 地域を支える企業が開発する最先端の技術が科学館に展示されることは、来館者が地域の産業力を知り、地域の魅力を発見することにもつながる。また、多くの市民が従業員として勤める企業も多いことから、来訪促進の可能性も期待できる。

(科学館の魅力の基礎となる展示の鮮度保持)

- ・ 科学館運営の根幹のひとつである展示に、技術系企業の現在の商品ラインナップからの技術・物品の提供があり、展示の魅力を高める大きなメリットとなっている。指定管理者制度導入初年度の展示協力企業10社は、自動車産業、楽器産業をはじめグローバルな企業が多い。それらの企業から最先端の技術や、自動車、楽器などの実機物品の提供がなされ、大規模展示の場合は5～10年毎に、展示内容の更新が頻繁なワゴンタイプの展示では3～6か月毎に入れ替えが行われている。常に展示の鮮度保持がなされることで、科学館の魅力の維持につながっている。
- ・ 企業からは、展示する実機の提供のほか、展示設計や制作などに対する助言を受けている。寄贈品については、指定管理者がメンテナンスを行うが、貸与品については、提供企業が部品交換や修理を行っている。
- ・ 展示協力企業との間では、展示物の故障・不具合が生じた際の協議のほか、展示品の貸与を確認できる書面を年に1度取りかわすなど、密な対話の場が持たれている。

(民間企業への協力の呼びかけ)

- ・ 民間企業への協力の呼びかけに当たっては、企業側の受け止め方への配慮を大切にしている。例えば、同業の複数企業が協力企業になっている場合で、一方の企業の製品を展示する場合には、企業プレートの出し方や展示のレイアウトなど、展示設計の段階から配慮している。
- ・ 来館したことのない人に活動の理解を得るのは難しいため、まずは実際に科学館に来てもらうように民間企業へ呼びかけている。実物を見てもらう効果は大きく、来館後にはそれぞれの企業の考え方にあわせ、科学館の存在意義を考えてもらっている。
- ・ 民間企業の中には、自ら博物館を有する場合もある。それにもかかわらず、科学館へ協力・連携する企業の動機には、地域のため、子どもたちのためという意識が大きく働いている。子どもたちの学びをサポートすることや、地元浜松に関心や愛着をもってもらうことは、行政も民間企業も共に取り組める主題である。地域貢献、公益目的、イメージ向上など民間企業が連携協力の動機を理解しながら呼びかけを展開していくことが有効と考えられる。
- ・ 連携を具体的に進める過程では、民間企業毎に異なる事業内容を踏まえた連携内容の詳細な詰めが行われる。各連携先の事情を個別に理解した丁寧な協議を重ねることが取り組み手順の秘訣といえる。

(2) サポーター会員制度（運営資金面でのサポート）

（サポーター会員制度の概要）

- ・ 科学館の魅力となる展示は、日々の運営で生じるメンテナンスや新たな展示体験プログラム開発などの費用を必要とする。そうした費用の原資にするとともに、科学館運営の各活動の活性化を行うことを目的に、地域の法人・団体から年間会費を募る「サポーター会員制度」を2023年度から導入した。
- ・ 「サポーター会員制度」により、年間約500万円程度の収入を得ており、新たな展示体験プログラムの開発、日々の運営で生じる新たなニーズなどに活かされ、運営基盤の一つとなっている。
- ・ 現在、本制度は、科学館の運営の大きな助けとなっているが、制度導入に当たっては、市や民間事業者との協議や検討を重ね、特に、継続性を重視した金額や制度の設定に配慮している。

（民間企業への協力の呼びかけ）

- ・ 展示への協力同様に、連携する企業の動機には、地域のために、子どもたちのために、という意識が大きく働いており、そのような企業の動機に寄り添ったアプローチが重要である。
- ・ 入会してから数年の間に、会員企業から「やってよかった」というイメージを抱いてもらわないと、継続していかない。会員特典の中では、プラネタリウムでの社名表示の広告効果が大きく、企業のブランディングにもつながっている。
- ・ 無料で入館できる招待券や、新しい特別展・企画展示の開催に当たっての関係者向け内覧会への招待も特典としている。連携する企業の従業員が多く利用できる日を設ける計画もあり、大人数での催しの開催が希望される場合を想定した滞留スペースの確保も図られている。
- ・ 館長自らトップセールスを行い、会員を募集している。訪問説明先への接点づくりには、科学館職員の人脈やネットワークを活用・駆使して取り組んでいる。
- ・ 会員企業と科学館の間では、年度更新に伴う協議のほか、毎月発行するメルマガや企画展などの内覧会招待状の発送により、年間15回ほどのタッチポイントを持ち、情報共有を行っている。

(3) 市民ボランティアなど

- ・ 科学館活動のパートナーとして、一般ボランティア27名と、中高生のジュニアボランティア41名が登録していて（令和6年度）、科学館スタッフと共に、来館者とのコミュニケーション、常設展示案内、ワークショップやイベントの運営補助などを行っている。活動後のアンケート調査では、充実感やボランティアスタッフ間の交流の深まりなどの評価が高い。展示を見るだけでなく、案内することで得られる楽しさが影響しているものと考えている。
- ・ 他館では実例が少ない博物館実習の受入も積極的に行っており、浜松に限らず、東京や北海道の大学からも学芸員課程を履修している学生の受入を行っている。
- ・ 市が設置する施設でもあり、科学館の活動を通した「シビックプライドの醸成」は、常に念頭に置いている。市から離れた若者に最終的には市に戻ってきてほしいという思いで活動している。

3-1 株式会社伊勢半ホールディングス（東京都千代田区）

(1) 企業プロフィール

- ・ 1825（文政8）年、江戸時代後期に紅を製造販売する紅屋として江戸・日本橋小舟町に創業。現存する最後の紅屋として、県内で生産される紅餅の納品先のひとつとなっている。
- ・ 東京都港区南青山に企業博物館である「紅ミュージアム」を開設。学芸員2名を配置し、年に1回程度、企画展を開催。その他情報誌の発行や学校向けを含めた教育普及事業を実施。

(2) 県立博物館との連携の状況

- ・ 2018年、県及び4市3町で構成する「山寺と紅花」をテーマとした歴史と文化が日本遺産の認定を受けた際、県立博物館における特別講演会での講演、展示パネルの素材提供などの協力を行っている。
- ・ 2021年には、プライム企画展「紅と藍」において、紅染めや藍染めの布を使用したつまみ細工のワークショップ開催している。

(3) ヒアリング調査結果

（連携の動機付け）

- ・ 連携のきっかけは、県立博物館の学芸員から問い合わせがあったこと。連携がうまくいくかどうかは学芸員との関係性が大きく影響する。当時声がけされた学芸員の異動先の県立高校では現在もオンライン授業を行うなど、連携が継続している。

（企業の特徴）

- ・ 山形県民が意外に紅花のことを知らないことを残念だと考えている。山形・全国・海外の方に紅花をもっと知ってほしいと考えており、そのためであればどんな協力でもしたいと考えている。
- ・ 「紅ミュージアム」を運営しており、学術的な支援や調査研究の情報提供などでも役に立てると考えている。学芸員を2名配置しており、学術的アドバイスもできる。

（今後の連携の可能性）

- ・ 後世に紅花を残すために何が出来るのかを常に考えている。具体的には、紅花生産者の支援、紅花の振興のための連携、紅花とその加工後の紅を取り上げ、花からこんなものが出来上がるという教育普及での連携ができる。エドゥケーターも配置しているために考えられる連携である。
- ・ 紅花は口紅だけでなく食紅にも活用しており、和菓子作りなど、食品分野とのコラボもでき、ミュージアムショップでの物販も可能と考えられる。県内事業者とのコラボ商品作りや「小町紅」を使ったメイクの体験イベントも面白い。
- ・ 紅ミュージアムの来館者は紅花に高い関心を持っている。紅花産地である山形県による紅花の研究成果などを展示していたら関心をさらに高めるし、来県してみたいと考えるはず。当館にはイタリアから美容インフルエンサーも観覧に来る。山形県の紅花を世界に発信することもできる。

（その他）

- ・ 関連会社の社員には、研修の一環で紅花摘みと紅餅作りを体験させている。紅花から紅を生産するには、一連の工程があり、それらの過程を踏まえることで質の高い製品が出来上がることを理解できる。こうした理解は、業務を遂行する上でも糧になり、これを経験した世代は離職率が低い。

3-2 三和油脂株式会社（山形県天童市）

(1) 企業プロフィール

- ・ 1949（昭和24）年に天童市で創業。天童市の本社工場のほか、仙台市、郡山市、北海道に製造工場、東根市、東京に事業所・営業所を持つ。
- ・ 山形県を代表する農産物である米を扱う民間事業者で、東北・北海道で唯一、米ぬかを原材料とした米油や栄養価の高い高機能製品を製造・販売。

(2) 県立博物館との連携の状況

- ・ 5年ほど前から、県立博物館がイベントなどで行う縄文の女神の蠟燭づくりワークショップの材料として、こめ油の抽出後に生成される「米ぬかワックス」を無償で提供。

(3) ヒアリング調査結果

（連携の動機付け）

- ・ 県立博物館との連携のきっかけは、博物館からのアプローチがあったこと。博物館の学芸員から米ぬかワックスの提供ができないかと相談を受けた。

（企業の特徴）

- ・ 米ぬかワックスは、こめ油を精製する工程の「脱ろう」した後に生成されるもの。精製する際に溶剤を使用するので、ワックスを食べることはできないが、お米が原料なので安全性は高く、子どもたちがイベントで使用するのには適している。
- ・ 企業としては、地元で育ててもらったという思いがあり、地元の方に対する取り組みを大事にしたいと考えている。人材発掘・育成がどの業界でも大きな課題となっているなか、地元の方に次の担い手になってほしいという思いがあり、企業のことを知ってもらい機会を多く持ちたいと考えている。インターネットでの販売も行っているが、対面での販売や工場見学など消費者、顧客との関わりを大事にしたいと考えている。

（今後の連携の可能性）

- ・ 博物館との連携のメリットは、企業の社会貢献と商品のPR効果が大きい。連携を通して米油の良さを広めたいという思いもある。博物館との連携イベントが誘客にもつながると良い。
- ・ 現在の博物館には、堅苦しいイメージがある。もっと開かれた場所になり、米関連にも興味を持ってもらえるような展示を行い、多くの人に見てもらえるようになれば、商品の宣伝にもなる。イベントだけでなく展示の連携の形もあり得る。
- ・ 新博物館では、設備や空間が使えるのは有利。企業との連携のための窓口があると良い。企業側ではどういう連携ができるのか、博物館が何を求めているのか分からないので、博物館側からのアプローチがほしい。

（その他）

- ・ 例えば、心と体に良い博物館というコンセプトは面白いかもしれない。当社の製品は味が良いのはもちろんだが、体にも良いので、博物館が心と体に良いといったテーマだと連携がしやすい。また、特に子どもたちの利用を想定すれば、デジタル技術を使った展示も取り入れてほしい。

3-3 やまがたヤマネ研究会（山形県）

(1) 企業プロフィール

- ・ 2007年、一人ひとりが野生動物問題を解決できる山形のために、持続可能な山形の自然環境のために、将来の山形の自然環境を担う若者や子どもたちのために、という3つの目的を掲げ設立。ヤマネ※を代表とする山形県に生息する野生哺乳動物の調査研究と研究成果を活かした環境教育イベントを行っている。

※リスやネズミと同じげっ歯類で、体重は18g程度。森の木の上で生活し、夜行性。国の天然記念物で、準絶滅危惧種に指定されている。

(2) 県立博物館との連携の状況

- ・ 県立博物館との連携は、県立博物館が行う活動で必要となった標本の貸し出し、博物館の学芸員の専門分野外の生物種の同定が必要な場合の協力、講演会イベントの開催に向けた講師の派遣協力などがある。

(3) ヒアリング調査結果

(連携の動機付け)

- ・ 10年以上前から、県立博物館が出版する書籍に寄稿したり、特別展や企画展の開催時に資料を貸し出したりするなど、様々な連携を行っている。
- ・ 山形の自然環境の調査や教育を行う団体として活動をすすめるうえで、レッドデータに載る種や県立博物館にしかない標本を活用できるのは魅力的である。

(企業の特徴)

- ・ 山形の自然環境の保全に資する活動を行っている。例えば、山形の野生動物の生態や生息環境に関わる経年的な調査研究や、若年層を主な対象にした環境教育などを事業とした活動を進めている。
- ・ 同研究会へ所属した子どもたちは、大人になっても自然史の調査研究に関わる人が多い。中には、大学卒業後に県内の自然史に関わる仕事に就職したり、Uターンで戻ったりする場合もあり、県立博物館との連携により、子どもたちの郷土愛を育むことにも貢献できる可能性がある。

(今後の連携の可能性)

- ・ 県内にどんな生き物がいるのかを県立博物館と一緒に研究することや、新たな種の同定作業などの連携が考えられる。
- ・ 当研究会と県立博物館の利用者層は重なっているため、イベントなどの広報をもっと連携して取り組めると効果的と感じている。これまでも連携してきたが、イベント開催直前でチラシなどが届く場合が多く、もう少し広報期間が長く取れると良い。
- ・ 現在の県立博物館には生物を解剖できる環境が狭く、共同で実施することが難しい。地域の動物を未来に残す解剖・標本作成を共同で実施することで、互いの技術を研鑽・交換することができると良い。さらに、学芸員と一緒にプログラムを実施できるのもありがたい。

(その他)

- ・ 県内では、研究成果を発表できる機会が限られている。博物館で発行する研究紀要に民間の研究団体からも投稿できる仕組みを作ってほしい。研究雑誌などの書籍にまとめなくとも、PDFデータを博物館のホームページに掲載していただく形でもよい。地域で行われている研究が博物館に集まる形が望ましい。
- ・ 子どもたちに向けたアプローチとして、県立博物館の学芸員をより身近に感じてもらえるようにすることが期待される。例えば、顔写真や各々の専門領域に関する情報をホームページに掲載するなどして、「顔が見える形」にするのが良い。

3-4 一般社団法人やまがたアルカディア観光局（山形県長井市）

(1) 企業プロフィール

- ・ 2019年、地域内の全産業が力を合わせ、外からのお客様を誘致して地域の活力を高める「観光地域づくり」を進め、効果的な交流人口の増加を推進するため、置賜地域の2市3町で構成する地域連携DMO（観光地域づくり法人）として設立。「東洋のアルカディア※」を体験する各種ツアーや、オリジナルの地酒などを企画販売。

※明治11年、イギリスの旅行家イザベラ・バードが置賜地域を訪れた際に「東洋のアルカディア（理想郷）」と称したことに由来。

(2) 県立博物館との連携の状況

- ・ 博物館が対応すべき課題の一つに交流人口の拡大や観光振興があるが、現時点でこの分野で県立博物館と連携した例はない。
- ・ やまがたアルカディア観光局は、地域資源を活用し、ペルソナ（誰にどのような価値を提供できるのか）を想定した観光モデルコースの設計や、ダム湖におけるアウトドアアクティビティなどを通じて地域の魅力を発信するユニークな取り組みを行っている。今後、博物館がゲートウェイ・魅力発信拠点としての役割を考える際の参考とするべく、今回の調査対象として選出し、今後の連携についてヒアリングを行った。

(3) ヒアリング調査結果

（連携の動機付け）

- ・ 地域資源を活かした観光地域づくりについて、常々考えているが、博物館と連携した観光メニューづくりについて、具体的な連携を一緒に考えていければと考えている。

（企業の特徴）

- ・ 山形が観光の目的地に選ばれることを目指した取り組みを続けている。北海道や京都ではなく山形を選んでもらうためには、ここでしかできない深い体験が欠かせない。そうした体験につながる資源を明らかにして観光メニューにする活動を続けている。

（今後の連携の可能性）

- ・ 観光ツアーに博物館訪問を組み込むことを考えた場合、現行の博物館では物足りない印象がある。特に、国宝縄文の女神の展示が、もっとインパクトがあり、ストーリー性や特別感のある展示だと、ツアー参加者の満足度につながる。
- ・ 観光ルートを考える際に、学芸員が植物、美術、歴史など専門分野の知識を活かしたストーリーを考えることができるのではないかと。観光ツアーの造成に学芸員が関わられる事例が作れたら面白い。
- ・ 最上川を切り口にするのは面白い。また、イザベラ・バードが新潟方面から辿った道は「塩の道」とも呼ばれ、沿道には塩問屋が栄えたなど、置賜の歴史と深く関わりがある。山形県は“4つの地域”とよく言われるが、必ずしもそれにとらわれ、分けて考える必要はない。塩の道や最上川のように広域的に外と関わってきた歴史があり、これらとの関係性から見える山形県を描くのも面白い観光資源になりえる。こうした面白さを具体的に解き明かすうえで学芸員の専門性や研究の存在は頼みになり、期待したい。

（その他）

- ・ インバウンド客にとって、山形県と言えば「おしん」というほど有名。おしん体験などができるブースがあっても良い。

4 連携の充実・拡大に向けた課題及び視点の整理

先進事例の調査及び県立博物館の現況調査をもとに、県立博物館と民間企業との連携の充実・拡大に向けた課題及び連携を進める視点を整理する。

4-1 県立博物館の課題

(1) 展示の改善と企業連携の可能性

本調査では、来館者を惹きつける展示の持続に向けた民間企業との連携の可能性を探った。現状の博物館は、建物の雰囲気や常設展が堅苦しい印象を与えており、来館者が興味を抱ける工夫が必要なことが確認された。長年、展示替えがなされておらず、企業との共同での展示企画などに柔軟な対応ができない状況にもある。来館者が魅力を感じる場になることが、企業にとって連携の効果を期待できる大前提といえる。

(2) 県立博物館の活動及び連携の可能性に関する認知不足

多くの企業は、県立博物館の活動内容やどのような連携が可能なのかを認識していない。本調査で確認したとおり連携の具体例はあるものの、博物館からのアプローチがなければ連携は生まれないほか、連携の内容や成功の様子が十分に共有されておらず、関心を持つ企業数は限られている。

展示公開や教育普及などの基本的な博物館の活動はもちろん、実施する連携事例を記録し広く発信し、民間事業者をはじめとする多様な主体から認知される取り組みが期待される。

(3) 持続的な関係構築の難しさ

学芸員からの働きかけをきっかけに実施された連携事例は多いものの、担当した学芸員と連携先との関係が博物館の組織に共有し継続されていないため、館内で情報やアイデアが共有されず、企業との連携関係も一過性のものになってしまう。

博物館も民間事業者もともに人材の流動は起きるため、実現した連携関係を属人化させずに組織で共有・継続する仕組みを持つことが課題といえる。

4-2 民間企業との連携を広げていくための視点

(1) 魅力ある展示を持続していくための連携の可能性

浜松科学館では、民間企業からの展示への協力や資金面での支援により、展示の鮮度を保ち、科学館の魅力を維持している。

県立博物館においても、課題やビジョンを共有できる主体と連携して来館者を惹きつける展示を持続していく観点から、例えば、企業との連携により地元の農産物の歴史や活用方法に焦点を当てた展示を企画するなど、地域資源を活かした魅力あるコンテンツの提供につなげていくことが期待される。

(2) 企業との連携メリットの共有

浜松科学館の事例では、企業への協力を呼びかける際、子どもたちの学びに寄与したいという企業側の思いに応じた利点を提示することで参加を促し、関係構築に成功している。

県立博物館においても、企業側の思いや意欲を汲み取りながら、企業イメージの向上につながるなど具体的な連携の目的や利益を示すことや、さらには、企業個々のニーズに対応する教育プログラムや場の提供などの博物館ができるサービスの提案を行うなどの取り組みが求められる。

(3) 持続的な連携体制の構築

浜松科学館では、専門の職員を配置し、年に1回は展示協力企業やサポーター会員企業との打合せや連携の取り組みを行うなど、相互の交流が促進されている。

県立博物館においても、コーディネーターの配置や会員制度など、企業との接点を拡大する仕組みの検討・整備が考えられる。

なお、市民ボランティアによる運営補助も博物館の魅力を持続させるうえで有益である。現在の友の会制度などの有効活用策の検討も意義あるものと考えられる。

(4) 地域課題解決への寄与

博物館は地域課題への対応も重要な役割として求められている。やまがたヤマネ研究会の事例では、環境教育分野において、県立博物館と共同で地域の生態系を守る活動や研究成果の共有を促進できることが示唆された。また、一般社団法人やまがたアルカディア観光局の事例では、観光ツアーの企画に学芸員の専門知識を活かす提案がされている。こうした連携活動を通じて、博物館が地域課題の解決に寄与することが期待される。

